2004

Myojo

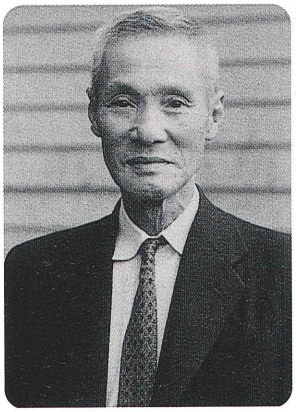
80周年記念誌



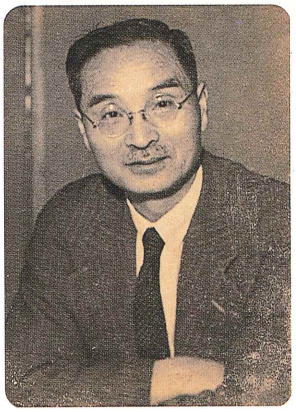
上田 八一郎 先生



照井げん先生



照井 猪一郎 先生



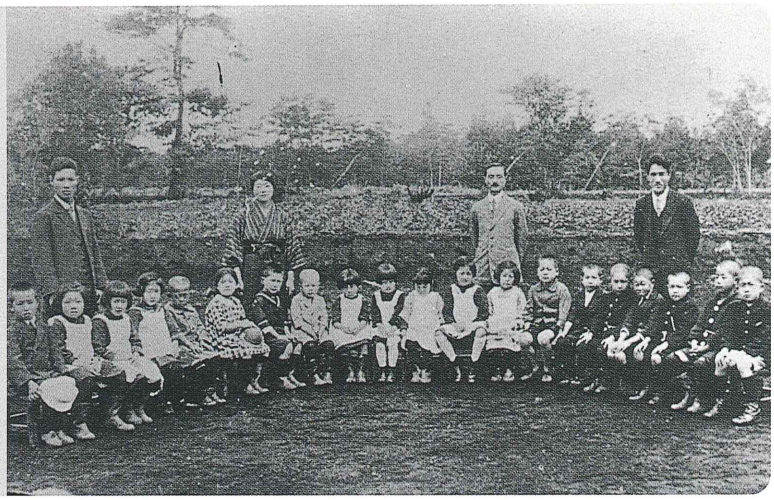
赤井 米吉 先生

Gravure

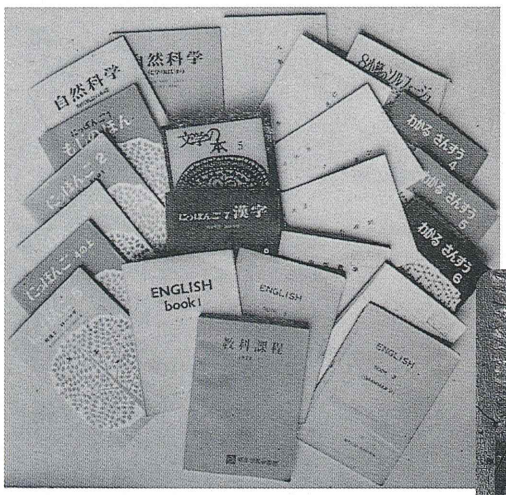
思い出のアルバム



山本 徳行先生と3年生



1924（大正13）年
現在初等部校舎のところ
5月15日開校の日は雨天のため翌16日。



明星学園中等部の教師たちが自らの手によって
つくりだし、使用していた教科書



1983（昭和58）年
軽井沢研修寮、改築



1954（昭和29）年
30周年記念式典



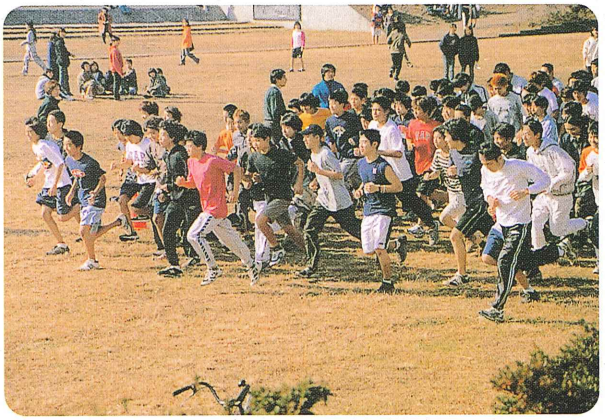
2003(平成15)年　運動会(小学校)



2003(平成15)年　授業風景(小学校)

Gravure

思い出のアルバム



2002(平成14)年　マラソン大会(中学校)



2002(平成14)年
音楽発表会(中学校)



2001(平成13)年　International Week.(高等学校)



2001(平成13)年　球技大会(高等学校)



1986(昭和61)年
第3体育館(高等学校)新築





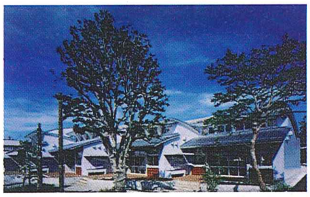
2004(平成16)年　創立80周年記念式典



2000(平成12)年
校舎新築(小学校)

CONTENTS

Myojo Anniversary 80th



02 Gravure
思い出のアルバム

07 Greeting
ご挨拶
理事長、学校長のご挨拶

10 Congratulations
祝辞
後援会会長、PTA会長
同窓会会長

25 Discussion 1
本当の「自由」を
教えてくれた
明星学園の思い出と期待

12 History
創立から70年の歴史を
年表形式で



33 History
クロニクルでみる
明星学園この10年の歩み

55 Discussion 2
この10年の回顧と未来展望
ー明星学園の国際交流と
英語教育

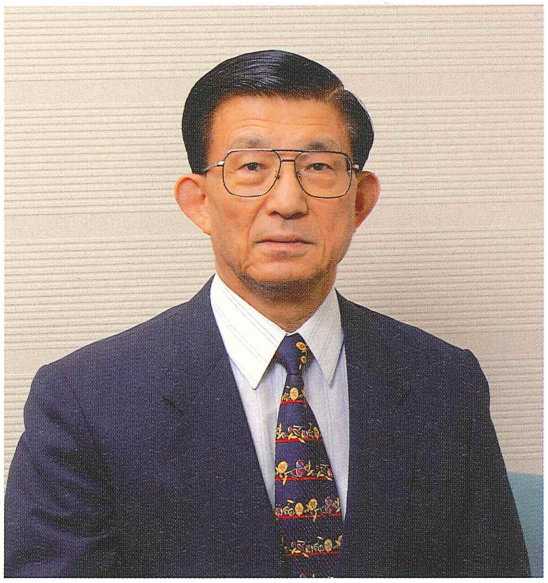
64 Gravure
明星学園職員一同

68 Afterword
明星学園創立80周年
記念誌編集委員会





創立八〇周年に寄せて



学校法人明星学園理事長
菅谷　嘉穂

一九二四年五月十五日に、井の頭の一角で開校式を行い誕生した明星学園が、今年で創立八十周年を迎えました。大きな変革の時代の流れの中で、紆余曲折を経ながら今日に至りましたことは、誠にご同慶の至りであり、創立者をはじめとする多くの先人達のご努力に対し、心からなる感謝の意を表したいと思います。

こうして継続されてきました明星学園を、現在の担い手であるわれわれとしましては、更に発展させ、時代へ引き継ぐ義務があると考えます。われわれは、築き上げられた明星学園の伝統の上に、更に時代に即応した新しい特色を創り上げ、「建学の精神」を一層輝かしいものにしたいと考えております。

創立八十周年は、これまでの流れや時代背景から考慮しますと、正に学園にとっての大きな転機と言って良いと思います。われわれは、この転機を真摯に受け止め、明星学園が安心して児童・生徒を委ねられる学校として、今後とも改革を図っていく所存であります。

「強く正しく朗らかに」を合言葉に



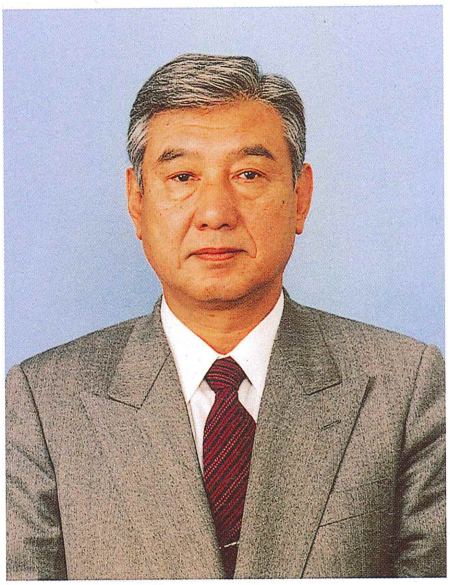
学校法人明星学園小学校・中学校校長
和田　武久

第一次世界大戦後にわき起こった大正自由主義教育運動は、子どもには子どもの生活があり、子どもの現実から教育の内容や指導方法を考えるべきだとして、新しい教育を主張した。その中心にあった私立成城小学校から、明星学園は生まれた。たった四人の創立同人には学校のための土地も経営のための財力もなく、あったのは教育の理想を追求する燃えるような意志と情熱のみであったという。こうして、幾多の星霜を経ながらも、明星学園は今年、創立八十周年を迎えることができた。

建学の教育理念である、「個性尊重・自主自立・自由平等」を今日に生かしつつ、二一世紀のグローバル社会にふさわしい理想の人間像、教育の目標、指針を掲げ、学園をさらに発展させていかなければならないと、思いを新たにしている。

今、日本の子どもの生活は新たな侵食を受けている。テレビゲームは子どもの体や心から生身の肉体感覚を奪い、身の回りに溢れる情報は感性を育てる機会を奪っている。人と人のつながりを作り、身の回りの生活を主体的に改良していくことがいかに人生に意味を持たせ、人間を充実させるかといった価値観を伝える必要がある。そういった価値のために活動する意思や能力を子どもたちの資質として形成していかなければならない。幸い、明星っ子の合い言葉「いつも元気でにこにこ」のＤＮＡは今も強く受け継がれている。「強く正しく朗らかに」歩んでいこう。

新体制の明星を花開かせる



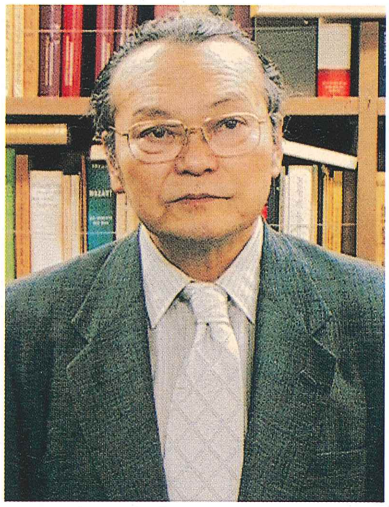
学校法人明星学園高等学校校長
黒川　実

八十周年を迎えるまでの十年余、二つの課題に取り組んできた。ひとつは〝毎年、何かが良くなる高校〟を目指して、小さな改革・改善を積み重ねること。国際交流や留学の推進、学力充実のためのシステムの工夫等、時代に即応した教育の実現に向けて努力してきた。もうひとつは、学園が抱えるさまざまな問題を解決し、教育の今日的課題に応えるために中学と高校を統合し、六・六制十二年一貫教育を早期に実現すること。

しかし、長い時間の中で形成された学内の不協和音は根深く、苦難の連続であった。数多くの全園教職員会議を重ねた結果、ようやく二〇〇六年度実施の合意を得、今、最終の準備段階に入ろうとしている。

恩地邦郎元高等学校長は八十周年誌の中で、庭木の切り株に見える年輪に学園の歴史を重ね、〝年輪が苦渋に満ちたようにきちっとつまっている時には、次の成長が用意されている〟という主旨のことを書かれている。私も今、今後十年間に、教職員全員で準備した新しい体制の明星が、見事に花開くと確信する。

祝辞



明星学園後援会会長

奈良　正博

我らが明星学園の創立八十周年を、心からお祝いいたします。

八十年前の牧歌的なたたずまいは、今日一変しておりますが、創立期の先生方、子供たち、父母の方々の願いが、大きな根となって今も生きていることは、さまざまなところから感得されます。

学校教育の画一化、富国強兵政策の一翼としての〈学校〉に抗して、「子ども一人一人が自覚的に生活を築き上げていく学園」を創ろうと始められた明星学園の光が、一層「強く、正しく、朗らかに！」輝き続けることを、この混沌の時代に、心の奥底から熱烈に祈念しております。



明星学園同窓会明星会会長

出口　一彦

五月に行われた学園の記念式典でも申し上げましたが、創立八十周年と一言でいいますが、これは大変なことだと思います。

Congratulations

Myojo Anniversary 80th



明星学園 PTA 会長

大野　由充子

明星学園創立八十周年おめでとうございます。

創立八十周年とは、明星学園の教育理念が保護者に賛同を得て八十年であり、創立当初より保護者の物心両面の支えも大きな力であったと聞いております。

現在、ＰＴＡは創立当初と形態は違いますが、その精神は同じです。刻々と変化する社会情勢の中で、明星の「個性尊重・自主自立・自由平等」の精神を念頭におきつつ種々の問題に対応しています。その一挙手一投足が「理念」の具現化です。

学校を良くしていこうとする意識と理念の不断の具現化を基底に、学園・学園関係者・ＰＴＡが組織として機能し、協力して活動していく限り、明星学園の更なる発展が続くことを確信しております。

関東大震災の翌年に産声を上げた小さな私立が特段の後ろ盾もなく、大正、昭和の動乱を経て平成の今日まで、武蔵野の一角で一万五千人を超える卒業生を輩出しました。建学の精神を大事にして学園を守ってきた教職員の方々、学園に全幅の信頼を置いて生徒を預けてくださった父母の方々、そして明星会に集い母校を想う私ども卒業生、いわば運命共同体としての学園関係者が直接・間接、陰に陽に学園を支えてきた賜物と思います。

皆様のご尽力に深く敬意を表すとともに、共に心からお祝いしたいと思います。そして、十年後の九十周年、その先の百周年をより充実した形で迎えるためにも、内外の情勢の厳しいこの八十年目の区切りを大事にして、関係者一同奮起していきたいものと考えます。

HISTORY

Myojo Anniversary 80th

小学校 primary school

中学校 Junior high school

高等学校 high school

1924 大正13年

5・15 開校式・入学式挙行。児童21名、教師4名。
10・29 3年生日光へ修学旅行。降雪に逢う。

1925 大正14年

5・18〜3・4年箱根（1泊）、有志三浦半島三戸海岸（10日）
7・21 第1回運動会。
10・21 創立時の土地千坪をさらに八百坪借増してグランドとし、教室も2教室増築する。
11 第3回目入学式。1年27、2年27、3年27、4年20、5年29、計130名。

1926 大正15 昭和元年

5・20〜5年松島（2泊）、3・4年日光（1泊）、有志40名三戸海岸（10泊）
7・21

1927 昭和2年

4・4 音楽室・美術室50坪が落成、工費4,000円。
4・4 第4回目入学式。6学級161名。
5・15 「新読本」第1巻（照井猪一郎編、集成社刊、35銭）が刊行。
5・27〜4年箱根（1泊）、5年伊豆（1泊）、6年関西（3泊）
6・10

1928 昭和3年

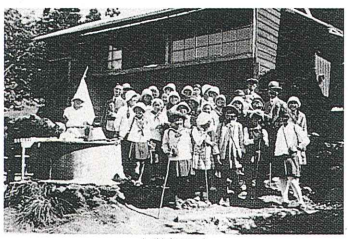
3・21 第1回卒業式（27名）
5・15 小・中・女3部合同運動会

1929 昭和4年

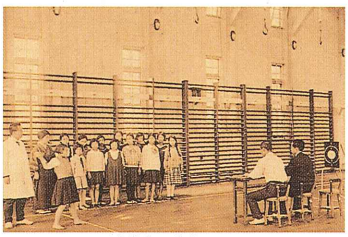
6 小・中・女共同の講堂落成、（10日）、3部合同劇の会

1930 昭和5年

11・2〜7 銀座伊東屋で生徒の美術作品展覧会を開催。



女学部登山

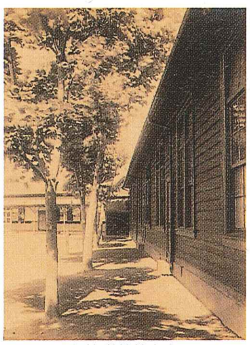


女学部の体力テスト

3 財団法人明星学園女学校設立認可願提出。
4・5 女学校校舎125坪落成。
4・9 第1回入学式・始業式（14名）
4・20 女学校設立認可（文部省）。
5・15 小・中・女3部合同運動会。
6・10 小・中・女共用の講堂落成、3部合同劇の会。
11・2〜7 小・中・女3部合同美術展。
銀座伊東屋で生徒の美術作品展覧会開催。



旧中学校校舎



旧中学校校舎裏

3 財団法人明星学園中学校・同女学校設立認可願提出。
4・10 第1回入学式・始業式（14名）
5・15 小・中・女3部合同運動会。
7・13 小・中・女3部合同学芸会。
6・10 小・中・女共用の講堂落成、3部合同劇の会。
7・6・10 中学校4教室45坪、渡廊下6坪増築落成。
10・27 勝山で小・中の有志50名が臨海生活（10日間）。
小・中・女3部合同の運動会。
3 小・中・女3部合同美術展。
6 普通教室45坪新築
7・25 軽井沢で中学23名が合宿（10日間）。

明星学園 創立から70年のあゆみ

1931 昭和6年

5・4 「明星の教育」創刊。深川三菱銀行の建物を、女学校特別教室として移築。川井源八氏の寄付による。

1932 昭和7年

7・17 2〜4年生は女学校裁縫室で夏季生活、5・6年生は上野原寮で林間生活。

1933 昭和8年

4・24 学園創立時の後援者茶郷基氏死去。

1934 昭和9年

5・15 創立10周年記念式典。「明星学園行進歌」誕生。



昭和7年頃の夏季生活

1935 昭和10年

7・21 2・3年女学校裁縫室で夏季生活、4・5年三浦半島三戸浜で臨海生活。

12 6年上野原寮で林間生活。小学校にリトミックによる感覚教育導入。

1936 昭和11年

1・1 小学部の校名「明星学園小学校」と改称。

5・7 赤井米吉園長、第7回世界教育会議に出席のため鹿島丸で出発。

1937 昭和12年

1 教科研究会（社会・体育・算術・生活・遊戯について）。

5・17 ダルトンプランで有名なパーカスト女史が来校。

6 千葉県健田村（千倉）に生徒の臨海生活場と父兄の明星村の建設が決定。



ウサギの飼育

1938 昭和13年

1 「明星の教育」創刊

5・20 軍事訓練開始

7 軽井沢で野外演習と房州勝山で臨海生活。

10・23 全日運動会と母の会バザー「星雲時代」を創刊

11 北陸旅行（5泊6日）

1・8 校舎45坪増築

3・5 第1回卒業式（18名）校舎新築45坪

3・4 第2回卒業式（18名）房州館山で臨海生活。

5・15 屋内体操場70坪が落成。

5・23 房州勝山で8日間の臨海生活。

3・5 第3回卒業式（16名）中・女学校合同で高水山へハイキング



千葉県勝山での臨海学校

3・5 第4回卒業式（17名）中学校の校名を明星学園中学校と改称。

5・7 赤井米吉園長、第7回世界新教育会議に出席のため、鹿島丸で出発。

5 女学部の校名、明星学園高等女学校と改称。

3・4 第2回卒業式（12名）日本青年館で、小・中・女合同創立10周年記念学芸会。「明星学園行進歌」誕生。

5・19

3・5 第1回卒業式（10名）式後母の会主催の合同卒業茶話会。

5・4 赤井米吉園長が満鮮の教育視察を行う。

5/30

10・13 5年生が、3泊4日で上高地へ修学旅行。昭和18年まで続く。

3・5 第3回卒業式（8名）中・女学校合同で高水山へハイキング。

5・5

3・5 第4回卒業式（19名）

5・7 赤井米吉園長、第7回世界新教育会議に出席のため、鹿島丸で出発。

5 女学部の校名、明星学園高等女学校と改称。

3・5 第5回卒業式（19名）ダルトン・プランで有名なパーカスト女史が来校。

5・17

6 千葉県健田村（千倉）に生徒の臨海生活場と父兄の明星村の建設が決定。



創立10周年記念演劇上演

3・3 5年生の送別会。第1部小音楽会、第2部演劇。

3・5 終わって会食と余興がある。

5・13 第6回卒業式（13名）

創立10周年記念の劇・音楽・舞踊の会。

3・5 第5回卒業式（21名）ダルトン・プランで有名なパーカスト女史来校。

5・17

6 千葉県健田村（千倉）に生徒の臨海生活場と父兄の明星村の建設が決定。

3・5 第6回卒業式（24名）



ヘレン・パーカスト女史来校

HISTORY

Myojo Anniversary 80th

小学校 primary school

中学校 junior high school

高等学校 high school

1939 昭和14年

11 成績品展覧会と学校劇の会。

1940 昭和15年」

3・5 第7回卒業式（60年史31名）
6・6 1～4年生が大島へ修学旅行。
11・11 第10回音楽会。
11・18 第5回演劇発表会。

3・5 第7回卒業式（21名）

1941 昭和16年

4・1 明星学園小学校を初等部と改称し、国民学校令による認定学校として認可。

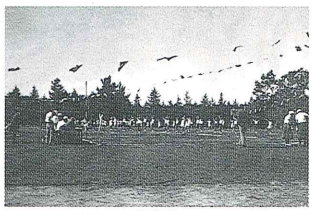
3・5 第9回卒業式（31名）
7 沓掛上野原寮で10日間の集団生活訓練。

3・5 第8回卒業式（27名）
5・14 陣馬山へハイキング。
5・21 4・5年生が滝ヶ原課厩舎で4泊5日の野外演習。
7・22 茨城県磯崎海岸で水泳訓練。

2 演劇会「コッペル君とその仲間」を上演。
3・5 第9回卒業式（25名）
3・31 理科室52坪建築落成。

1942 昭和17年

11・22 戦時教育協会が、この日私立小学校の廃止の提案をしたのに対し、照井猪一郎部長は11月29日に協会に出席して反対意見を述べる。


体育会

3・5 第8回卒業式（35名）
6・10 5年生が上高地・天龍峡地方へ修学旅行。
7・27 軽井沢明星寮で集団生活。

3・5 第10回卒業式（35名）


上高地へ修学旅行

3・5 第10回卒業式（30名）


茨城県磯崎海岸で水泳訓練

1943 昭和18年

3・5 第11回卒業式（35名）
5・23 学園創立20周年記念事業後援会が、学園設備拡充の醵金を父兄に呼びかける。

3・5 第11回卒業式（24名）
5・14 宮城外苑整備や小金井国民練成所での勤労奉仕。

1944 昭和19年

5・18 学園創立20周年記念式典。
11 5・6年生が教師と共に運動場に防空壕作りをする。

3・5 第12回卒業式（36名）
5・18 学園創立20周年記念式典。

3・5 第12回卒業式（31名）
5・18 学園創立20周年記念式典。
5 小・中・女3部合同で、電車班と徒歩班に分れ非常帰宅訓練が行われる。
7・21 3・4年生豊和重工業入所式。
11・24 豊和重工業東京工場が空襲さる、生徒無事。

1945 昭和20年

8・15 敗戦の重大放送あり。在京教職員は各部職員室で聞く。

3・28 第13回卒業式（5年生36名）

2・13 学校工場として三鷹航空が作業開始。

1946 昭和21年

9・4 本格的授業を開始。
9・12 疎開中の小学校児童の帰校始まる。

1947 昭和22年

3 6年生父母に6・3・3制の説明会。
5 小学校高学年・新制中学1年生・旧制高女が合同で高尾山に登山。
7 後援会と母姉の会が発足。

1948 昭和23年

10・29〜31 明星祭が本格的に復活。

1949 昭和24年

11・1 小・中・高合同の音楽会。

1950 昭和25年

5・3 小・中・高で、新1年生歓迎・激励の催しとして、集団競歩。

1951 昭和26年

5・21 小・中一貫の校外学習プランについて父兄に通知。

1952 昭和27年

5・18 小・中・高3部合同で「社子春」上演。

8・15 第14回卒業式（4年生32名）
敗戦の重大放送。在京教職員は各部職員室で聞く。
9・12 校舎が三鷹航空の工場となっていたが、教室に復する。
11・3 第1回明星祭開催。

3 修身、歴史、地理の教科書を回収
3・5 第15回卒業式（34名）
5・18 中・女学校合同で文化祭を催し、劇と音楽。
10・1 男女共学の件で全園職員会。
11 小・中・女3部合同、憲法発布祝典の儀式を奉祝し、体育祭。

1 新制中学校発足。
3・13 小・中学校長は照井猪一郎、高等学校長は上田八一郎が就任。
4・4 新制中学校1年生2クラス男女共学で発足。
5 新制中学1年生は小学校高学年と旧制高女合同で高尾山に登山。

4 旧制高女の校舎を新制中学の校舎に専用、完全共学制。

7 理科室を新築。
10・22 小・中合同の体育会。
11・1 講堂で上記明星祭として小・中・高合同の音楽会。

10・15〜11・3 明星祭。

5・21 小・中一貫の校外学習プランについて父兄に通知を出す。
5 玉川上水沿いに集団ウォーキングレース。
11・1 明星祭にて、音楽・劇・展覧会。
〜4

5・18 小・中・高3部合同で「社子春」を上演する。
7 夏の学級編成（10日間）上野原寮、3年生（6泊7日）
11・1 明星祭開催。
〜3

3・28 第13回卒業式5年生（25名）
8・15 第14回卒業式4年生（31名）
敗戦の重大放送。在京教職員は各部職員室で聞く。
11・3 第1回明星祭開催

3 修身・歴史・地理の教科書を回収。
3・5 第15回卒業式（5年生（25名）4年生（10名））
8・23 1・2・3・4年生用地理教科書と1年生用歴史教科書が配給。

3・5 旧制中学校第15回卒業式（5年生25名）
3・13 新理事長、市村今朝蔵氏。小・中学校長は照井猪一郎、高等学校長は上田八一郎が就任。
3 新制第1回卒業式（16名）

3 第16回卒業式（32名）
4・1 新制高等学校が発足。
4 旧制中学の校舎を新制高校の校舎に当て、完全共学制。
10・29〜31 明星祭が本格的に復活。

3・5 第1回新制高校卒業式（42名）
第17回旧制高女卒業式（13名）
10・30〜11・6 創立25周年記念明星祭、記念誌発行。

3・5 第2回卒業式（71名）
10・15〜11・3 明星祭。

3・5 第3回卒業式（95名）
10・3 赤井米吉前園長の公職追放が解除。
11・1 明星祭、音楽・劇・展覧会。
〜4



創立25周年記念文集

2・26 第4回卒業式（87名）60年史表は22日になっており未確認
5・18 小・中・高3部合同で「社子春」上演。
6・19 全園職員会で学内問題を議す。この後定期的に開かれるようになる。
10・10 運動会
11・1 明星祭開催。
〜3

HISTORY

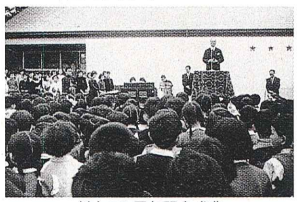
Myojo Anniversary 80th

小学校 primary school

1953 昭和28年

1954 昭和29年

11
5・15 学園創立30周年を記念して、式典、祝賀会、物故功労者・物故職員・戦病死卒業生の慰霊祭が行われ、記念文集が刊行されたが、学園史編集は立消えとなった。
全園合同の教育研究集会。


創立 30 周年記念式典

1955 昭和30年

1956 昭和31年

8
2・26 初等部6年生、内部進学テスト受ける。
小学校校舎として鉄筋コンクリートブロック平家建6教室と便所870㎡が完成。
11・18 小・中・高合同で東京女子大の講堂で音楽会。

1957 昭和32年

5 明星祭春の部で、小・中・高共催の劇の会。
7・10〜30 5・6年生が3班に分かれ千倉で寮生活


小・中・高合同音楽会

1958 昭和33年

3
10・11 明星教育研究所を設立。所長は照井猶二郎校長。
小学校校舎鉄筋コンクリートブロック平家建6教室が完成。

中学校 junior high school

1953 昭和28年

2・27 3年生が高校で入試および1日体験入学。
3・12 2年生が3年生送別の会。
5 1年北伊豆、2年日光湯元、3年三浦半島へ修学旅行。

1954 昭和29年

7・19 3年、軽井沢沓掛寮生活。
10・17〜28 小・中合同体育会。
11 全園合同の教育研究集会。


小・中合同体育会

1955 昭和30年

7 3年、軽井沢沓掛寮生活。
9 1年北伊豆、2年日光湯元見学旅行。

1956 昭和31年

2・26 初等部6年生内部進学テスト。
3・2 中学3年生が高校で学内進学テストを受ける。
11・18 小・中・高合同で東京女子大の講堂で音楽会。

1957 昭和32年

4 中・高同校地での教育運営開始。
5 明星祭春の部で、小・中・高共催の劇の会。
10・20 中・高合同、明星祭の体育会。

1958 昭和33年

9 明星祭の中・高合同運動会。
10・27 明星祭の中・高合同の展覧会。

高等学校 high school

1953 昭和28年

2・22 第5回卒業式(87名)
6・7 赤井米吉が理事長に就任。

1954 昭和29年

3
5・15 第6回卒業式(99名)
学園創立30周年を記念して、式典、祝賀会、物故功労者・物故職員・戦病死卒業生の慰霊祭が行われ、記念文集が創刊されたが、学園史編集は立消えとなった。
10・30〜31 明星祭、音楽、展覧等。
11 全園合同の教育研究集会。

1955 昭和30年

3
5・11 第7回卒業式(68名)
5・18 高校生徒が親睦球技大会。


中・高の校舎建設用地

1956 昭和31年

3 第8回卒業式(89名)
6 球技大会。
10・14〜18 明星祭。

1957 昭和32年

3 第9回卒業式(60名)
4 中・高同校地での教育運営開始。
5 明星祭春の部で、小・中・高共催の劇の会。
6 高校校舎木造2階建9教室・便所980㎡が竣工。
10・20 中・高合同、明星祭の体育会。

1958 昭和33年

3 第10回卒業式(106名)
9 明星祭の中・高合同運動会。


明星展

1959 昭和34年

4・1 小・中・高が4・4・4制に移行。

11・22 明星祭、小・中・高の音楽会。

1960 昭和35年

6 軽井沢省掛寮と千倉寮の施設を増強。


昭和36年頃の登下校風景

1961 昭和36年

1・15 管理棟・小・中学校の特別教室鉄筋コンクリート2階建7教室が完成。

3 全園研究集会を千倉寮で開催。

11・22〜23 第1回公開教育研究集会。

1962 昭和37年

3 全園研究集会を学校で開催、教科構造・授業の研究・生活指導について討議。

11・22〜23 第2回公開教育研究集会。

1963 昭和38年

11・22〜23 第3回公開教育研究集会。


ドンドン山で雪合戦

1964 昭和39年

2・25 照井猪一郎小・中学校長逝去。

11・21〜22 第4回公開教育研究集会。

---

10 12・22〜30 銀座文芸春秋画廊で、明星学園美術展。中・高合同、志賀高原でスキー練習。

4・1 小・中・高、4・4・4制に移行。小学年部、中学年部、高学年部と呼称。建物の部合によって、中学年部前期（5・6年）は小学校校地、中学年部後期（7・8年）は高学年部の校地で授業。4・4・4制実施に伴い、振興事業計画の変更決定。

4 12・22〜31 スキー行事。

9 4・4・4制実施に伴い、振興事業計画の変更決定。

10 1・15 管理棟・小・中の特別教室鉄筋コンクリート2階建7教室が完成。

2 7・19〜8・8 千倉寮で夏季生活。

7 9・6〜11・22 上野原寮で6泊7日の夏季生活。夏休みの作品展・生活発表会を行う。第1回公開教育研究集会が開かれる。

8 11・22〜23 小・中の教師多数が各地の民間教育団体の研究集会に出席。第2回公開教育研究集会。

11・22〜23 第3回公開教育研究集会。

2・25 照井猪一郎小・中学校長逝去。

10・4 小・中合同運動会。

11・21〜22 第4回公開教育研究集会。


志賀高原でスキー教室

10・27 明星祭の中・高合同展覧会。明星祭の展覧会・音楽会。

11 4・1〜11・22 第11回卒業式（132名・市ケ谷の私学会館で）小・中・高が4・4・4制に移行。4・4・4制の実施に伴い、施設設備の合理化、2学期制の採用、行事の整理等を行う。明星祭が催され、小・中・高の音楽会。

3 第12回卒業式（152名）

10・9〜11・20 明星祭

3 第13回卒業式（163名）高校第1体育館が完成。

10 バザーを行う



3 第14回卒業式（172名）

3 第15回卒業式（161名）研究集会が学校で行われ、新制高校1年用の改訂指導要領と学園の教科課程との関係、教科別での吟味、統一テスト対策、授業の研究等が行われる。10・11年生は、上高地生活、12年生は男鹿半島・十和田湖修学旅行。

7・17〜10・22 明星祭、仮装大会。

3・2 照井校長の学園葬が行われ、小・中学校長は上田八一郎校長が兼務。

3 第16回卒業式（182名）

10 仮装大会。

HISTORY

Myojo Anniversary 80th

小学校 primary school

1965 昭和40年

6・1 小・中学校の図書館開館。
7・16 上田八一郎小・中・高校長逝去。勲6等瑞宝章を贈られる。
11・20 ～ 12・27 第5回公開教育研究集会。
寒川道夫小学校長、上川淳中学校長、恩地邦郎高等学校長となる。

1966 昭和41年

5 低学年部を初等部、中学年部を中等部、高学年部を高等部と名称を変更。
11・22 ～ 23 第6回公開教育研究集会。


高校のグランドで小・中合同運動会

1967 昭和42年

11・24 ～ 25 第7回公開教育研究集会。

1968 昭和43年

2 「残照」（照井猪一郎遺稿集）が佑啓社から刊行。
3・6 武蔵野公会堂で民話と童謡を主題とした劇と音楽の会。

1969 昭和44年

11・29 ～ 30 第9回公開教育研究集会。


小学校学習発表会

中学校 junior high school

1965 昭和40年

5・19 ～ 21 中学年部の旅行（6年大島、6年霞ヶ浦、7年日光・湯元、8年東北）
7・16 上田八一郎小・中・高校長逝去。
11・20 ～ 21 第5回公開教育研究集会。

1966 昭和41年

5 中学年部を中等部と名称変更。
7・23 清里寮落成式。
10・9 小・中合同運動会。
11・22 ～ 12・23 第6回公開教育研究集会を開催。
武蔵野公会堂で音楽会。

1967 昭和42年

1・28 音楽会。
10・20 ～ 11・24 ～ 25 5・6・7・8年奥多摩登山。
第7回公開教育研究集会。

1968 昭和43年

1・6 ～ 11 7・8年、志賀高原発哺でスキー。
新入7年生の補習授業。
8・26 ～ 30 陸上競技記録会。
10・2 ～ 10 音楽コンクール。

1969 昭和44年

1・6 ～ 11 有志60名でスキー行事。
7・29 ～ 11・30 ～ 12・18 夏季行事中止、中学校の教育をどう改善するかの研究会。
第9回公開教育研究集会。
武蔵野公会堂で音楽会。

高等学校 high school

1965 昭和40年

3 ～ 4・1 第17回卒業式（192名）
上田3校長が長期病気のため、全園主事の職制を設け、原田満寿郎先生を主事とする。
7・11 ～ 8・1 高校の特別教室の建築に着手。
赤井米吉理事が学園長。
10・17 ～ 24 ～ 12・27 明星祭。
寒川道夫小学校長、上川淳中学校長、恩地邦郎高等学校長となる。

1966 昭和41年

3 ～ 3・21 第18回卒業式（199名）
3 高校特別教室鉄筋コンクリート陸屋根、地下1階付4階建1,735㎡完成。
6・26 ～ 8・10 仮装大会。
明星祭
9・15 ～ 10・3 体育会。

1967 昭和42年

3・21 ～ 6・11 ～ 11・22 ～ 23 第19回卒業式（208名）
明星祭の仮装大会。
11年生が修学旅行

1968 昭和43年

3・21 ～ 11・23 ～ 24 第20回卒業式（205名）
小・中・高合同、教職員合宿研究会。

1969 昭和44年

3・21 ～ 8・1 第21回卒業式（184名）
千倉で夏季合宿（9年）、伊豆松崎で合宿（10年）。
8 ～ 9・13 ～ 14 文化祭。

1970 昭和45年

1・16 1～4年生がスケート行事。

〃21 小・中・高の3校長が辞任し、鈴木満男高校長が小・中校長を兼務。


公開教育研究会

1971 昭和46年

1・6 志賀高原スキー行事。

〃10 小・中・高の3校長が辞任、鈴木満男高校長が小・中校長兼務。

2・1 マラソン大会。

2・25 三鷹公会堂で中等部（5・6・7・8年）学習発表会。

〃18 7・8年高尾・初鹿野・日川方面遠足。

3・17 5・6年御岳・大岳・氷川方面へ秋の遠足。

10・2 武蔵野公会堂で音楽会。

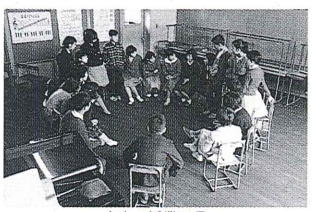
10・27 1・6 6・7・8年志賀高原でスキー。

12・7 猪垣記念のマラソン大会。

〃11 小・中合同、体育会。

2・25 第10回公開教育研究集会開催。

〃11 音楽会。


音楽の授業風景

1972 昭和47年

10・1 幼稚園。保育園の先生を招いて幼児教育と小学校教育との関わり合いを語る会。

〃23 11・22 第11回公開教育研究集会。


昭和48年頃の夏季生活

1973 昭和48年

2・26 赤井米吉学園長逝去。

4 4・4・4制廃止、6・3・3制開始。


運動会

1・1 金沢嘉市、遠山啓の両氏が教育顧問となる。スキー行事。

〃6 7・8年生が清里で夏季行事。

〃10 7・8年生が清里で夏季行事。

〃31 第11回公開教育研究会開催。

7・17 武蔵野公会堂で、音楽会。

11・25 6～8年希望者、万座でスキー行事。

12・6 学習発表会。

〃20 第26回卒業式（90名）

〃11 4・4・4制廃止、6・3・3制開始。

〃17 7・8年が2泊3日で清里寮生活。

3・17 9年が尾瀬に行く。

〃21 内部進学者、来年度より進学時に3万円納入することに決める。

4 10・1

6

〃4

11

3・21 第23回卒業式（195名）

〃26 11年生は4方面に別れて旅行。

7・22 文化祭。

〃3 11・1

3・21 金沢嘉市、遠山啓の両氏が教育顧問となる。（中学）

〃1 第24回卒業式（195名）

7・24 9年生は千倉寮で夏季行事、11年生は東北地方修学旅行を行う。

〃31 体育祭。

10・8 文化祭

〃3 11・1

2・26 赤井米吉学園長が逝去。（小学）

3・21 第25回卒業式（201名）

〃4 11・1 文化祭

2・1 小・中・高の3校長が辞任、鈴木満男高校長が小・中校長兼務。

3・21 第22回卒業式（181名）

5・31 仮装大会。

〃23 7・17 11年生が八甲田山と下北半島へ東北旅行。

HISTORY

Myojo Anniversary 80th

小学校 primary school

中学校 junior high school

高等学校 high school

1974 昭和49年

小学校
- 2・1 遠藤豊が小・中学校長代行。
- 4 小・中学校の体制を小学校前期と後期として、中学校職員室を1つにする。
- 11・3 創立50周年記念式典、慰霊祭、祝賀パーティー、歴史展が行われ、記念出版「明星の年輪」を刊行。
- 5・4～11・22 第12回公開教育研究集会。

中学校
- 1・6～11 スキー行事。
- 2・1 遠藤豊が小・中学校長代行。
- 4 小・中学校の体制を、小学校前期と後期として、中学校職員室を1つにする。

高等学校
- 2・1 遠藤豊が小・中学校長代行。（小学・中学）
- 3 第26回卒業式（249名）
- 4・1 小・中・高が6・3・3制に移行。
- 8 バスケットボール部が、インターハイに出場。
- 11・1 文化祭
- 11・3～11・4 創立50周年記念式典、慰霊祭、祝賀パーティー、歴史展が行われ、記念出版「明星の年輪」が刊行。

1975 昭和50年

小学校
- 7 千倉寮の改築工事第一期完了。
- 11・22～11・23 第13回公開教育研究会。

中学校
- 10・10 小・中合同の運動会。
- 11・22～11・23 第13回公開教育研究会。

高等学校
- 2・15 第11回音楽祭。
- 3・21 第27回卒業式（249名）
- 5 生徒指導部から、生徒達へ「真の自由を保障するために」をアピール。
- 5・11・1 球技大会
- 明星祭。
- 12・5・3 「明星の高校教育」（紀要）の創刊号が出版。


瀬戸海岸での夏季生活

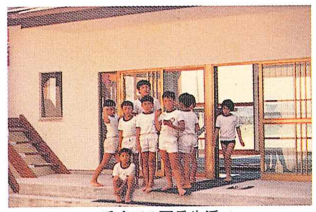

運動会

1976 昭和51年

小学校
- 3・6 劇と音楽の会を開く。
- 4・9 武者小路実篤後援会長逝去。
- 4・27 照井げん先生逝去。
- 9・25 小・中学校で音楽室完成お祝の音楽会を開く。
- 11・21～11・22 第14回公開教育研究会。

中学校
- 9・25 音楽室完成お祝いの音楽会。
- 10・10～11・21 運動会。
- 11・22～11・22 第14回公開教育研究会。

高等学校
- 3・20 第28回卒業式（266名）
- 6・4～6・5 バレー・サッカーの球技大会。
- 9 11年生が、飛騨・高山に合宿旅行。
- 10・21 マラソン大会。
- 11・1 明星祭、仮装大会。
- 11・2～5・3 文化祭・バザー。


千倉での夏季生活



昭和50年代の学園校門

1977 昭和52年

小学校
- 4・25 後援会会長に千秋実氏が就任。
- 8・17 寒川道夫前小学校長逝去。
- 11・12～12・12 第15回公開教育研究会。

中学校
- 7・30 衣笠武夫理事長が逝去。
- 10・9～10・30 小・中運動会。
- 合唱祭。
- 11・12～11・13 第15回公開教育研究会。

高等学校
- 3・21 第29回卒業式（227名）
- 4・6～6・3 新校舎ができ、引越しをする。
- 球技大会。
- 9～12・10・8 11年生が能登・金沢、10年生が千倉寮合宿旅行。
- マラソン大会
- クラブ室から出火し、一部を焼失。


能登・金沢へ修学旅行

1978 昭和53年

3・2 6年生が2泊3日で湯沢へ旅行。
3・4 劇と音楽の会。
11・11〜12 第16回公開教育研究会。

1979 昭和54年

4 明星自由大学を学内で行うことを決定。
11・10〜11 第17回公開教育研究会。


伊豆大島見学旅行

1980 昭和55年

2・27 日赤による災害応急手当の講習会を開く。
3・9 6年生が伊豆修善寺に修学旅行。
9・3 総合学習室（バーバスルーム）が完成し移転。
11・8〜9 第18回公開教育研究会。


青梅鉄道公園にて

1981 昭和56年

10・14〜15 第19回公開教育研究会。

1982 昭和57年

5・25 5年生が大島見学旅行。

1983 昭和58年

4 依田好照、小・中学校校長となる。


小・中合同運動会

7・13 合唱祭。
10・5 運動会。
11・8 第18回公開教育研究会。
12・15〜9・9 P.T.A.は、内部進学テストは承服できないとし、意思表明と要望事項の文書を学園に提出。

9・9 9年生が3泊4日で東北旅行。
10・10〜14 運動会。
10・10〜15 第19回公開教育研究会。

3・27 内部進学問題で、父母の有志が高校へ抗議デモ。
10・10 運動会。
10・18 9年生、小笠原に旅行（6泊7日）

1・18 内部進学用学力テストを行い、午後面接を行う。
3・21 第36回卒業式（160名）
3 学校会計のコンピューター・システムが完成。
4・8 中学校入学式。

10・7 小・中運動会。
10・28 第4回合唱会。
11・10〜11 第17回公開教育研究会。
12〜1・11 「明星学園報」第1号発刊。

10・8 小・中運動会。
10・29 第3回合唱祭。
11・11〜12 第16回公開教育研究会。
12・11〜1・12 9年生、飛行機で沖縄へ修学旅行（4泊5日）。

3・11 第31回卒業式（261名）
3・24〜28 希望者による社会科、往復バス奈良旅行
5・30〜31 球技大会
9〜12 10年生は千倉、11年生はねむの郷で合宿旅行。
「明星学園報」第1号発刊。

3・9 第32回卒業式（274名）
5・6 球技大会
9・10〜5・7 11年生が合宿旅行から帰校後、食中毒の疑惑があり、学年閉鎖
12・5 内部進学予備テスト。

3・15 第33回卒業式（279名）
4・8 高校生の退学をめぐって、母親数名によって校門前でハンスト・テント事件。
5・10 内部進学テスト問題について、高校の見解と今後の課題を小・中学校へ示す。
6・12〜10・10 球技大会
明星祭。【テーマ飛翔】
9・10〜11 球技大会
明星祭。【テーマ脱力】
10・7 マラソン大会


体育祭

3・13 第35回卒業式（243名）
10・6 マラソン大会。
12・10 59年の内部進学テストの結果の取扱いについて合意書ができる。

3・12 第30回卒業式（257名）
4・6〜1 入学式（7組313名）
6・1〜2 球技大会
10・7 マラソン大会
11・3 明星祭
11・4〜5 体育祭

HISTORY

Myojo Anniversary 80th

小学校 primary school

中学校 junior high school

高等学校 high school

1984 昭和59年

小学校

11・10 小中公開研究会。


福島県猪苗代へ修学旅行

中学校

4 依田好照、小・中学校長となる。
5 学園創立60周年記念事業案発表。
6 P.T.A 会長に安藤通久就任。
9 生徒募集時の「学校案内」1冊にまとまる。
10・9 小・中合同運動会。
12 「無着先生と12年戦争」の出版物をめぐって全園父母会。

1・4 スキー教室、志賀高原・高天ヶ原スキー場。
5・8 9年合唱発表会。
5・13 60周年記念式典、記念美術展東急百貨店6・7階。
7・17 7・8年夏季行事。
9・24 小中合同運動会。
10・10 9年修学旅行（尾瀬）
11・13 小中公開研究会。


伊豆下田へ遠足

高等学校

2・2 音楽祭杉並公会堂
5・13 60周年記念式典、記念美術展東急百貨店6・7階（小学・中学）
6・8 体育祭
10・4 マラソン大会
10・5 明星祭


校内マラソン大会

1985 昭和60年

小学校

7・18 4～6年千倉夏季生活。
10・29 公開研究会。


どんど焼き

中学校

1・4 スキー教室、志賀高原・高天ヶ原スキー場。
7・18 登山7年八ヶ岳、8年常念岳。
8・27 9年修学旅行、白馬岳登山。
9・29 小中合同運動会。
10・25 小中公開研究会。


7年生八ヶ岳、8年燕岳登山

高等学校

2・1 音楽祭（武蔵野市民文化会館）
6・7 体育祭
9 修学旅行（北海道農業体験）
10・11 明星祭
12・3 マラソン大会（多摩湖）


87年度明星祭

1986 昭和61年

小学校

1・14 どんど焼き。
1・21 6年修学旅行（猪苗代）
3・23 1～2学習発表会。
5・28 5年大島社会科見学。
7・18 4～6年千倉夏季生活。
9・29 小中合同運動会。


学習発表会

中学校

1・5 スキー教室、志賀高原・高天ヶ原スキー場。
3・12 9年合唱発表会。
7・15 登山7年八ヶ岳、8年燕岳。
8・25 9年修学旅行、白馬岳登山。
9・28 小中合同運動会。
10・25 小中公開研究会。

高等学校

2・7 音楽祭（武蔵野市民文化会館）
5・18 第3体育館落成式
6・13 球技大会
10・10 この年修学旅行なし（青木湖でキャンプ）
11・27 明星祭【テーマWAKUWAKU（ワクワク）】中庭大パネル展示開始
マラソン大会

1987 昭和62年

10・10 上旬6年修学旅行（尾瀬）
10・25 公開研究会。

1・14 どんど焼き。
3・1 学習発表会。
5・7 5年大島見学。
5・9 ～7・18 4～6年千倉夏季生活。
9・29 小中合同運動会。
10・24 公開研究会。


伊豆大島見学旅行

1988 昭和63年

1・14 どんど焼き。
2・28 学習発表会。
5・10 5年大島見学。
5・12 ～7・18 4～6年夏季生活（千倉寮）
9・23 運動会。
9・28 6年修学旅行。
10・22 ～30 公開研究会。

1989 平成元年

1・14 どんど焼き。
3・5 学習発表会。
5・17 5年大島見学。
5・19 ～7・18 4～6年夏季生活（千倉寮）
9・23 運動会。
10・21 公開研究会。
10・24 ～26 6年生修学旅行（飛騨高山）


運動会

1990 平成2年

1・13 どんど焼き。
3・4 学習発表会。
5・23 5年大島見学旅行。
5・25 ～7・18 4～6年夏季生活（千倉寮）
9・23 ～29 運動会。
10・27 公開研究会。

1・5 スキー教室、志賀高原・高天ヶ原。
3・11 9年合唱発表会。
7・18 登山7年八ヶ岳、8年白馬岳。
9・27 小中合同運動会。
10・11 9年修学旅行（韓国）
10・15 ～24 小中公開研究会。

2・6 マラソン大会。
7・18 登山7年八ヶ岳、8年白馬岳。
8・26 9年修学旅行白馬岳。
9・23 小中合同運動会。
9・30 ～10・22 小中公開研究会。

1・5 スキー教室。
3・11 9年合唱発表会。
7・17 登山7年八ヶ岳、8年燕岳。
9・23 運動会。
9・28 ～10・21 公開研究会。

1・5 スキー教室。
3・7 修学旅行。
7・20 登山7年八ヶ岳、8年穂高。
9・23 ～26 運動会。
10・1 ～5 9年韓国旅行。


六ツ石山へ遠足

2・13 音楽祭（武蔵野市民文化会館）
6・12 球技大会
9・1 ～13 11年合宿旅行（韓国、高校生と交流会）
10・9 ～11 明星祭【テーマBRIGHTER,THE PLANETS!】
11・26 マラソン大会

6・13 球技大会
9・1 ～14 11年北海道旅行（コース別）10・12年特別授業
10・9 ～5 明星祭【テーマ TOO HOT!】
11・10 ～26 マラソン大会

2・8 音楽祭
6・16 球技大会
9・1 ～17 11年沖縄旅行（コース別）
10・7 明星祭【テーマ現実逃避】
11・8 ～22 マラソン大会


88年度明星祭

2・7 音楽祭
6・8 球技大会
7・23 ～9・9 オーストラリア語学研修（ホームステイ）
8・15 ～9・3 11年アジア旅行（マレーシア、シンガポール、コース別）
9・7 ～29 明星祭【テーマ KICK AND START】


北海道旅行

HISTORY

Myojo Anniversary 80th

小学校 primary school

1991 平成3年

1・14 どんど焼き。
3・4 学習発表会。
5・15 5年大島見学。
5・17〜7・18 4〜6年夏季生活（千倉寮）
9・22〜29 運動会。
10・26 公開研究会。

1992 平成4年

1・14 どんど焼き。
3・1 学習発表会。
7・18〜29 4〜6年夏季生活（千倉寮）
9・23 運動会。
10・24 公開研究会。

1993 平成5年

1・14 どんど焼き。
3・7 学習発表会。
7・18〜29 4〜6年夏季生活（千倉寮）
9・23〜29 運動会。
9・27 6年修学旅行（高山）
10・23 公開研究会。



岐阜県高山へ修学旅行

中学校 junior high school

1991 平成3年

1・5 スキー教室。
3・9〜12 9年合唱発表会。
7・18〜24 登山7年八ヶ岳、8年立山。
9・22〜24 運動会。
10・4〜30 9年修学旅行（九州）
10・26 公開研究会。
10・27 公開研究会。

1992 平成4年

1・5 スキー教室。
3・9〜12 9年合唱発表会。
7・18〜24 登山7年八ヶ岳、8年唐松岳。
9・23〜28 運動会。
10・2〜9年修学旅行。
10・24 公開研究会。

1993 平成5年

1・5〜9 スキー教室。
3・12 年合唱発表会。
7・18〜28 登山7年八ヶ岳、8年穂高。
9・23 運動会。
10・4〜8 9年修学旅行（韓国）
10・23 公開研究会。

高等学校 high school

1991 平成3年

2・6 音楽祭
6・10〜11 球技大会
7・24〜8・15 オーストラリア語学研修（ホームステイ）
9・2〜6 11年アジア旅行（マレーシア、シンガポール、コース別）
9・28〜29 明星祭【テーマ LET'S BE HAPPY】
11・24 マラソン大会

1992 平成4年

2・6 音楽祭
6・5〜6 球技大会
7・24〜8・15 オーストラリア語学研修（ホームステイ）
9・1 11年北海道旅行（コース別）
9・26〜10・2 明星祭【テーマ WAKE UP!】
11・21〜27 マラソン大会
12・27〜17 オーストラリア留学生来日

1993 平成5年

2・8 音楽祭
6・18〜19 球技大会
7・27〜8・17 オーストラリアホームステイ
9・1〜5 11年修学旅行（シンガポール、マレーシア、タイ）
10・2〜3 明星祭【テーマ RENEWAL FACTORY】
11・22 マラソン大会



93年度明星祭

■学校法人明星学園創立80周年記念座談会PARTI

本当の「自由」を教えてくれた明星学園の思い出と期待

本学園は今年創立八十周年を迎えた。同時に、社会全体が大転換の時代にあるように、本学園も大改革の時代を迎えている。

草創期より「個性尊重」「自主自立」「自由平等」の教育理念を掲げてわが国の教育界に新風を送り続けてきた本学園。常に時代の一歩先を歩む明星学園教育に育まれた多くの同窓生は、今日、社会のさまざまな分野で活躍している。

このたびの座談会では、同窓生に本学園での思い出を語り合っていただく中から建学の精神、時代を先取りした教育方針などを紹介し、さらには変革期にある明星学園の将来に対する期待や激励を話していただいた。

■出席者

田中　祥子氏（第21回生）
遠田　哲宏氏（第29回生）
栗山美知郎氏（第33回生）
大野　映子氏（第33回生）
横田　逸郎氏（第36回生）

■司会

創立80周年記念誌編集委員会



田中祥子さん

自分の居場所を見つけられる

――今回の座談会では創立八十周年を迎え、これから九十周年、百周年に向かう明星学園に、同窓生の皆様から期待と激励の言葉をいただくのが目的です。まず、皆さんが在学中の思い出からお話を伺いたいと思いますので、よろしくお願いします。

では、田中祥子さんに口火を切っていただきます。確か、戦後間もなくのご入学と伺っていますが。

田中　ええ、私は小学校三年の時に編入しました。学童疎開をしていた長野から帰ってくると東京は焼け野原で学校らしきものがなかったので、母に連れられて従兄のいた明星学園に来ました。学童疎開は一年間でしたが、そこでの辛い生活と明星学園での生活の大きな違いに感激したことを未だに覚えています。今の私からは想像出来ないでしょうが、当時は同級生と話も出来ないほど気の弱い、引っ込み思案な女の子でした（笑い）。今のように「正しいことは正しい」と人前で言える女の子に育ててくれた明星学園に感謝しています。

明星学園で、私の気持ちが変化したきっかけとなった出来事があります。それは入学試験の時でした。体育館の端と端に先生と生徒が向かい合い、先生が子供に「名前を言いなさい」というわけです。生徒は自分の名前を言うだけのことでしたが、私も「迫水（旧姓）祥子です」と答えました。すると先生から「もっと大きな声で」と注意が飛びました。私は学校に入ってから大声を出したことがなかったのですが、思いっきり大声で自分の名前を叫んだ時、言い知れぬ解放感に満たされた気持ちがしました。

授業も楽しいものばかり。少人数教育というのでしょうか、六人ずつグループを作り、そのグループで助け合いながら授業を進めていくのです。そういったことで私は、直ぐに自分の居場所を見つけることが出来ました。そこが明星学園の素晴らしいところだと思います。そして先生方が心底から子供たちを愛している、包み込んでくれていることを、子供たちも敏感に感じ取ることが出来ました。私は明星学園に入学したことによって、自分の人生が本当に明るく大きく変わったと思っています。

明星学園のお陰で、身体が丈夫になりました

遠田　私は中学から明星学園にお世話になりました。小学校は武蔵野市内の公立小学校です。明星学園に入って一番驚いたのは先生と生徒の関係が近く、まるで友達のようだということ。公立校では先生とは恐いものですから、職員室へはまず入りません。確かに私は出来が悪かったので、小学校では先生にひどく叱られた思い出しかありません。明星学園では先生方が生徒一人一人をよく覚えていてくれることがうれしく、生徒のことを考えていてくださっていることを感じました。

また、小学校の六年間は小児喘息で苦労しました。しかも、年四回は二週間ほど寝込むほど激しい発作に襲われました。医師の診断は「環境を変えると治るかもしれないが、治らなかったら一生喘息に悩まされ続ける」というもの。当時、家から明星学園までは徒歩で三十分ほど。井の頭公園の森の中を三十分も歩けば環境が変わるかもしれないということ、母親が本校の卒業生だったこともあって中学から明星学園に入学したのですが、以来、喘息の「ぜ」の字も出なくなりました。

――井の頭の森を通ることが、少しは喘息に効いたのですね。

遠田　当時の人見進夫先生が、「学校に任せてください」と母におっしゃったそうです。先生は私だけを気遣ったわけではないでしょうが、ウオーキングレースなどでは一番優しいコースから始めてくれたり、徐々に力がつくとスキー合宿に参加させて貰ったりしました。本当に生徒一人一人に気を配る、良い学校に巡り会えたと思ったものです。自分の身体が丈夫になったということだけでも、明星学園に感謝しています。

青空教室の思い出

栗山　私は昭和二十二年生まれで、いわゆる戦後のベビーブーム世代。先程少人数授業の話が出ていましたが、私どもの頃はちっとも

少人数ではなく、一クラスに五十二人もいました。その後、三年生か四年生の時に三十六人学級に変わりましたが、それまでは「廊下を走るな！」と言われても、走る廊下がない状態でした。

当時、照井猪一郎先生のアイデアで、現在体育館が建っている辺りで「青空教室」が開かれました。毛虫などが落ちてくる所でしたが、大きな木の下に木の机と椅子を並べました。「青空教室」と素晴らしい名前ですが、要は教室が足らなかったので、そこで授業を行ったことだけのことですけどね（笑い）。


大野映子さん

一人ひとりを認めて大切にしてくれた

大野　私は明星学園の卒業生でもあり、また、教師でもあるので、いろいろなことが絡み合って思い出されてしまいます。

戦後のベビーブーム世代で、栗山さんとは同級生です。小学校は公立で過ごしましたが、中学からは明星学園でお世話になりました。小学生時代は、とにかく学校に行きたくなくて、「何て言ったら休ませてもらえるかなあ」なんて、よく考えていました。ところが明星学園に入ってからは一転しました。学校に来るのが楽しくてしかたなかったですね。

何故でしょうね。

一つは先生との出会いが大きかったのだと思います。担任の先生は寒川道夫先生で、先生は民間教育団体の中でも著名な国語教師だったようです。後に明星小学校の校長もなさいました。他に、社会は本校の前小中学校校長の依田好照先生、数学はおばあちゃん先生の山岡先生、理科は若い菅野先生が学年の担任としていらっしゃいました。当時、一クラスの生徒数は五十人前後だったのではないでしょうか、教室は生徒たちでいっぱいでしたね。現在の管理棟の二階の美術室が八年一組の教室でした。私たちは毎日、寒川先生に日記を書いて提出していたように記憶しています。先生は、ひとりひとりの日記に必ずひとこと書いてくださいました。私を認めてくださっている、大切にしてくださっていると感じていました。書くのが面倒に思えたこともありますが、今にして思えば、いつも先生が近くに居てくださるという気がしていたのかもしれません。私が教師になって戻ってきた時にはもうすでに退官されておられましたが、学園近くのご自宅をお訪ねしてはいろいろお話することができ、幸せでした。未熟な私をいつも元気づけてくださいました。残念なことにもうお亡くなりになってしまいました。今のほうが、お話したいことがたくさんあるのにと思います。

もう一つ大きかったのは、友だちとの出会いだと思います。当時の友だちは『一生もの』。もちろんそれぞれ進路は違っていますが、今でも変わらぬお付き合いをしています。七・八年生の頃などは、放課後クラスのほとんどが残って遅くまで遊んでいることもありました。やはり祥子先生が今おっしゃったように、それぞれが自分で居られる自分の居場所があったのだと思います。私は兄弟の中でも小学校でも、ある意味変わり者だったのだと思います。それをそのまま受け入れて自分のままで居させてくれたのが明星学園です。私は認められている、大切にされている、居場所があると感じられていたのだと思います。このような学校、先生や友だちとの出会いは私にとってたいへん大きな出来事でした。

不安を解消してくれたさまざまな学校行事

横田　私の場合は、たまたま家が井の頭に引っ越したことが、明星学園にお世話になるきっかけでした。両親には私学へ通わせたいという考えがあったのでしょう。そこで、家に本当に近い本校を見つけてくれて、私は五年生の途中から転入しました。

入ってまず驚いたのは服装の色彩感覚。当時は、どちらかというとモノトーンの時代で、服装にしても白と黒、あるいは紺と白が主流です。そのような時代に真っ赤な服装の女の子がいたことが、すごく印象的でした。また、前に立って自己紹介した時、急に女の子から「サル」と言われたのにはビックリしました。「何ということを言う女の子なんだろう」と思ったものです。それまで動物のあだ名で呼ばれた経験がなかったので、「サル」といわれて



横田逸郎さん

少々ショックを受けて転入した思い出があります（笑い）。そのせいか、五年生での転校ということもあって学校に馴染むのに多少時間がかかりました。

しかし、そういった気持ちのわだかまりを、いっぺんに晴らしてくれたのは、千倉寮での夏季行事など、学校のさまざまな行事でした。自分が明星学園に入ってすごく変わったと思うのは、軽井沢での行事や八ヶ岳登山を経験したことです。当時は四・四制だったので、七年生と八年生が行事に参加しました。一学年上の先輩たちが、いろいろと下級生の面倒をみてくれました。そういう軽井沢寮の生活を経験して、自分たちが八年生になると、今度は七年生の面倒をみる番になるわけです。それはとても楽しいことで、明星学園に入ってよかったと思ったことの一つです。

また、遠田さんのお話にあるように、明星学園では先生が先生と思えないほど近しいので、自分の立場をコントロールすることの方が難しかったですね。

子供の能力を信じる教育

――皆さんが明星学園で学んだこと、身につけたことが現在の自分自身にどのように生かされているのか、あるいは生かしているのかを話していただきます。

田中　本校にデンマーク体操の榎本法達先生がいらっしゃって、この方は少し足の不自由な先生でした。私は体操が全然ダメで、運動会で走ろうとしても、ピストルの音が恐くて両手で耳を塞いでしまい、左右を見て皆が走り出してからスタートするのでいつもビリばかりでした。

このような私を見かねて榎本先生が「僕は足が不自由だけど体操が出来る。五体満足な君に出来ないわけがない」とおっしゃられました。そこで運動神経のなかった私ですが、その日以来、体操部で先生から指導を受け、日曜日は先生とOD会という体操の会に通い、デンマーク体操にくらいつきました。これが、現在の私の講座『余暇教育』につながっています。デンマーク体操は体操だけではなく、音楽やゲームやダンスも一緒にやるものです。

榎本先生とはずっと交流を重ねていましたが、本当に明星学園の先生方は子供を信じ、子供の能力を信じて教育していました。「能力のない子供はいない」という信念で裁縫が上手、野球が上手、あるいは英語が達者なことも皆同じで、一人一人に良さがあるという信念で子供を見てくれたため、生徒たちは能力を伸ばすことが出来たのです。

実は、私は元々左利きをなのですが、国民学校にあがってから無理やり右利きに治されてどもりになってしまいました。それで人前で話せなくなり、おとなしい子になってしまったのです。それが本校に来ることによって、自分に自信を持てるようになりました。私にも出来ることがあるのだという思いを、子供たちに持たせて卒業させる学校が明星学園なのだと思いました。

生徒に愛情をもって接してくれた先生方

田中　でも、学園生活は本当に楽しかったですよ。今でもクラス会には参加しているのですが、教師をしていた頃の学生達のクラス会にも呼んでいただいています。本当に明星の卒業生とは、人間としてお付き合いができますから。

遠田　本当ですね。私なんかも人見先生にはたいへんお世話になりました。一つには自分は身体が弱かったので丈夫にしていただいたということがあります。私も体操が全然出来なかったのです。今の私から想像出来ないでしょうが、小学生時代はまるでガリガリに痩せていて〝洗濯板〟とか〝青びょうたん〟といったあだ名で呼ばれていました。そういう自分にコンプレックスがあり、あまり良い小学校時代を送っていなかった。

しかし明星学園に来ると、そういったことは全く関係ないんですね。とにかく皆と一緒に扱ってもらえることが感激でした。本校で人見先生と出会い、スキーに誘われるなどいろいろお世話になりました。合宿という合宿には全部参加し、卒業してからも先生に声をかけていただいて大学の三年生頃まで明星学園のスキー合宿のお手伝いしていました。先生が早くに亡くなられて本当に残念です。と

にかく、学園生活の全部が思い出です。

栗山　先程、寒川先生のお話がありましたが、先生のご自宅は明星学園のご近所で、家の玄関や窓に鍵をかけないことが信条でした。先生は「たぶん泥棒は困って必要なものをわが家に取りに来るのだからいいじゃないか」というお考えでした。ある時、何かの時間で私が格言のようなことを説明させられたのです。その時、どうして寒川先生の前であんなことを言ってしまったのか分からないのですが、「人を見たら泥棒と思え」と言ってしまいました（笑い）。それは未だに悔やまれます。あれだけご自分の家には鍵をかけないことを散々おっしゃっている先生の前で、よりによってお考えと逆のことを言ってしまったのですから。あの時の先生のお顔は覚えていませんし、怒られた記憶もありません。しかし、先生は心の中でその日は辛い一日だったと思います。



田中　私はこの夏に、何十年振りに会った人もいたのですが男女六人で長野へ行ってきました。同級生というのはいいですね。三十年以上会っていない人でも直ぐに打ち解けて、昔の友人に戻ります。あれは不思議です。何の違和感もなく子供に戻って、大騒ぎをして帰ってきました。これはやっぱり明星学園の良さですね。

大野　本当にそう思います。同窓会を開くと先生方も参加してくださり、みんな昔に戻って思い出話がつきません。

　中学に負けず劣らず高校にも名物先生がたくさんおられました。例えば社会科の堀淳二先生。何かに気が付かれるとパイプたばこをいっぷくしながら、口癖の「おまえなあ」が出て、本当に親身になって私たちを見ていてくださいました。授業は、例えば、世界史など史実に基づくこぼれ話をよくしてくださいました。その話がとても面白かったですね。

誇り高き教師陣

遠田　堀先生は私の家の直ぐ近所に住んでいらっしゃいました。奥様が私の母と同級でしたので、先生のお宅には子供の頃はよく遊びに行っていました。そういう関係もあるのですが、とにかく貧乏をものともしない考えの先生でした。腰に手拭をぶら下げて、身なりなど一切構わない人でしたね。私はよく善福寺川へフナ釣りに連れて行ってもらいました。

大野　昔、明星学園の先生は身なりを構わない方が多かったように思います。私が教師になったばかりの頃も、『吹けば飛ぶような給料袋……』なんて歌われていた替え歌を納得しながら聴いたものでした（笑い）。

田中　堀先生は私の担任で、本当にいい先生でした。実は卒業後、東京女子大への進学を考えていましたが、堀先生と英語教師で校長だった上田八一郎先生に説得されて、津田塾大へ行くことになったのです。理由は「東京女子大にはお前のようなのが大勢いて進歩がない。津田塾大にはお前のような人間はいないから、そういう環境の中で生きてはじめてお前に進歩がある」ということでした。それで津田塾大に入りましたがここは私にとってはつらい学校で明星学園と全く違いました（笑い）。直ぐにでも大学を辞めたかったのですが、堀先生に「一か月間我慢しなさい」といわれて通いました。すると、私のような学生がやはりいるものです。「津田の愚連隊」と呼ばれていたのです。私は三十年間、津田塾大の明星化に励みました。

　やはり私学というのは良いですね。先生方の中に何かその学校の夢や目標がある。

大野　当時の先生方はヨレヨレの格好をしていましたが、明星教育と明星っ子たちに対して誇りを持っていらしたと思います。独りよがりにならない謙虚さも。だから私たちに本物が伝わっているのかもしれません。育てていただいたことに対して感謝の気持ちでいっぱいです。今、明星学園で教師をさせていた



栗山美知郎さん

だいておりますが、自分がしていただいたことを子どもたちにできたらという気持ちでいます

授業は楽しく、分かりやすく

栗山　私は寒川先生の国語の授業が一番苦手でした。文字を一つ一つ拾って読むことが、私と同じくらい下手な生徒がもう一人いました。当てられそうになると、なぜか二人がトイレで会うことになり、教室に戻ると二人の読む部分を飛ばしたまま授業が進んでいます。先生は、われわれが教室を出た理由を十分承知していてくれたのです。

　そして中学では、お婆ちゃん先生と慕われた山岡先生の数学は、私にとって問題を解くロジックというものがとても楽しかったですね。それまでの通信簿は惨憺たるものでしたが、数学が面白くなってからは自分でも勉強が楽しくなりました。

遠田　そういうことってありますね。だから、教師との相性というのは大事だと思うのです。生徒は教師を選べないけどね。

　私もやはり数学が苦手でした。当時数学科に山岡先生と田口先生がおられ、田口先生は非常に熱心な方で残ってまで教えてくれました。それで数学が皆にやっと追いつくようになってくると、本当に楽しくなりました。こうなると普通に授業にも付いていけるようになり、数学が面白くなります。

大野　私も山岡先生の数学は衝撃的な出会いでした。代数もそうですが、特に幾何で証明していくのがとても面白かった。授業が終わった後、放課後だったかお昼休みだったか、もっと数学を学びたい者が何人か集まって、サークルとまではいきませんが、先生に教えていただいたりもしました。

田中　要は生徒に動機付けが出来るか否かですよね。動機付けさえ出来れば、放っておいても生徒は勉強をやりますから。そして、授業には遊びがなければいけない。それは大学へ行っても同じです。遊びで関われるような授業展開をしなければならない。明星学園の先生方はそのような授業を行ってきたし、それが魅力だったような気がします。

大野　教師になった今だからこそよけいにそれが分かります。本当に動機付けが大事ですね。子供たちにとって必然性があると、自分たちで授業を展開して行きます。

横田　今思うと、私は団塊の世代の四年下です。そうすると新しい先生がどんどん入ってきたので、ベテランの先生よりも新しい先生と出会うほうが多くなります。その辺で、私どもとまた人間関係が少し違ってきます。あの時代は生徒も多かったので、やはり運動が出来る、何が出来るといろいろなことが出来る先生方も多かったですね。高校にはサッカーが上手な田代先生がいらして、その影響で私はサッカーを始めました。

PTAと教職員は学園の車の両輪

田中　また、父兄の方も素晴らしい。何十年振りかに『創立二十五周年記念文集』を見ていると、父兄の方も書かれています。例えば與田準一さんとか武者小路実篤さん、坪田譲治さん、片山敏彦さんといった方も寄稿されており、父兄も一生懸命だったことが分かります。今でもそうでしょうけど、明星学園を良くしようと皆一生懸命だったのでしょうね。やはり、本校は二十一世紀向きの学校なんですよ。生徒の個性を伸ばしてね。

大野　お名前を聞くと驚くような方々が多くいらしたようですね。建学の理念に賛同してくださり、いろいろな面で熱心にバックアッ



遠田哲宏さん

プしてくださる親御さんたちが代々いらっしゃったわけですね。今も同じです。だから、卒業生が我が子を明星学園に入れたいと思われるのではないでしょうか。

遠田　そうですね。われわれの時もお母さん方が非常に熱心でした。ですから、子供が隠し事をしていても、皆さん知っていらっしゃった。私にも悪い時期がありまして、友人がたまたま私のカバンにタバコの吸殻を隠したのです。そこを運悪く岸先生に見つかってしまいました。先生にカバンを持って職員室に来なさいといわれ、教室に戻ったところカバンがない。実は、友人が「これはマズイ」ということで、家に持って帰ってしまったのです。そういうことがあったにもかかわらず、私はそ知らぬ顔で家に帰り、カバンは学校に忘れてきたと母に話しました。ところが、すでに学校から家に連絡が入っていたので、母に叱られましたね（笑い）。

　また、志賀高原へスキー合宿に行った時のこと。われわれが宿泊した丸池の小屋はすごい所で、朝起きると枕元に雪が積もっていました。そういうことは、われわれ子供は何とも思わないのですが、父兄の間で大きな問題になったことがあります。活発なお母さんがいらっしゃって「どうしてそんな所に泊めるのか」などと苦情を言ってきたようです。でも、本当に父兄は子供の教育に熱心でしたね。



創立25周年記念文集（学園史資料）

同窓生は明星学園の広告塔

――では、最後になりましたが、今後創立九十周年、百周年に向かって成長し続ける明星学園に対する期待と激励を一言ずつお願いします。

栗山　私は「明星会」という同窓会関係に携わっていました。私学の場合はかなりの部分で卒業生、いわゆる同窓生が、大きなファクターになっています。卒業生は次の在学生の元になり、あるいは卒業後に明星学園で教鞭を執られているケースも多々あります。それには創立以来、脈々と引き継がれているものがあるのだと思います。そういったことが私学にとって大切であり重要なことで、その部分が学校の大きな幹になるのだと思います。

　また卒業生は、どこの学校にとっても一番のセールスマンであり、広告塔の役割を担っています。現在、卒業したばかりの若い人たちはサラリーマンとして、あるいは普通の社会人、母親として生活を営んでおられることでしょう。その人たちも数年経ってふと振り返った時に、自分の子供はまだ幼稚園児だけど、まだ三歳だけど「明星学園に入れたいな」と思える雰囲気のある学園であり続ける努力をしなければなりません。

　私も本校は大好きで、子供もここで十二年間お世話になりました。そこで祖父から父へ、父から子へと、代々明星学園生という環境で育っておられる方も多いでしょう。そういう意味でも若い卒業生は、明星学園の創立九十周年、百周年に向けて頑張って欲しいと思います。

後援会、同窓会を活用しよう

大野　明星学園の建学の理念は素晴らしいものです。創立者の先生方が八十年も前に掲げられたものですがちっとも古くありませんし、時代を超えてこれからもなお大事にされるものだと思います。学園に携わる者は私も含めて皆、学園の歴史や伝統をきちんと学んで、その上で未来を考えることが大事なのではないでしょうか。

　また、常に学園を応援してくださる後援会、明星会（卒業生の会）があります。後援会や同窓会の方々はさまざまな分野で活躍していらっしゃいます。卒業生が広い分野で活躍できているのも個性を大事に育ててもらえたからと言っても良いでしょう。学園としては、こういった組織にもっともっと協力を申し出ても良いと思います。何しろどちらの会の皆

さんも、何かあったら協力しようと考えていらっしゃる方たちばかりなのですから。

〈明星学園の歴史を学べる資料として『明星の年輪―明星学園五十年の歩み―』『明星の年輪―明星学園六十年の歩み―』『明星の年輪―明星学園七十年の歩み―』、「明星学園発行『明星の授業』国土社」などがあります。他に著書はないかと探していた折、学園史研究会で、前小中学校校長の依田先生より一九八四年明星学園創立六十周年の折りに行われた中野光先生（元中央大学教授：著書『大正自由教育の研究』黎明書房刊、『教育改革者の群像』国土社刊、他多数）の講演記録が『道』百七号に載せられて残っているとお聞きしました。直ぐに依田先生に郵送していただき読むことが出来ました。まさに探していたものに出会えた感あり、是非この機会に紹介したいと思いましたので付記します〉。

遠田　現在、明星会をここ三年ほどお手伝いさせていただいています。高校の友達と会うと、本当にその時代に戻ったように、時間を忘れて騒いでいます。とにかく、学園生活では楽しい思い出をたくさん作っていただきました。今、明星会では、大野先生が話されたように各界で活躍している卒業生がたくさんいらっしゃるので、その方々の体験談を聞く機会を設けることなどを考えています。

学園は明星会をどんどん利用していただきたい。そして、今は非常に難しい時期ですが、生徒数をどんどん増やして、本当に明星学園が目指す学校に成長できたらよいと思います。そこで、明星会では会長以下、何とか明星学園を盛り上げようと頑張っているところです。

平和を実践できる人間作り

田中　津田塾大学にも明星学園の卒業生が入ってきます。ある女の子は今四年生で、横田先生の教え子です。本当に明星の卒業生らしい子です。私は教授であると同時に明星学園の先輩でもあるので、彼女は研究室に良く相談に来ました。彼女は独創的で、何をしたいのか自分の人生の目標を持っています。そのため一年生からNGO活動に参加してカンボジアやフィリピンへ行き、三年の時には当大学の交換留学生としてフィリピンへ一年間勉強に行きました。四年生になって、先日「JICAで働くことになりました」とメールが入っていました。

明星学園出身者は、人生を遊んではいても、他人のためにしっかり尽くす奉仕の精神が身についています。「他人のために生きることによって自分が生かされる」という思いで生きている人が多いとも思います。それは、やはり学園生活の中で「先生方は自分たちを愛して育ててくれた」という体験によって、自分は微力だけどよりよい社会にするために尽くしたいという思いにつながっているのです。

教育とは、最終的には「平和教育」です。本当に平和を実行できるような人間を作る学校、それが明星学園だと思っていますし、その可能性はあります。私学というのは創始者の思いは絶対に消えません。時間が経っても創始者の思いはつながっています。二十一世紀の明星学園はバンバンザイです（笑い）。

大野　瑣末な話に戻してしまいそうですが、この前私のクラス（小学二年生）の子供たちに、「世界中が仲良く暮らせるようにするために皆は学校で勉強しているんだ」「小さいうちはたくさんけんかしてもいい。どうしてけんかになったのか、どうしたら仲直りができるのかについて、たくさん勉強できるもの。」という話をしたことを思い出しました。

横田　明星学園の今後を考えると、生徒たちの長所が起爆するというのか、爆発するところをどこかに作ってあげるスタンスが必要だと思います。いろいろな生徒がいますから長い目で見てあげて、起爆・爆発する時期を作ってあげることです。お互いにゆっくり見ていく、気持ちはゆっくり育てること。しかし、猛烈にやる時には「これだけやれるのだ」ということを見せられるのが明星学園の良いところ。そこで、気持ちはゆっくりと育てながらも、やるときはやると明星学園生らしい、野性的に生きていけるような生徒を学園で育てていただきたいし、自分たちもそういった子供たちを育てたいと思っています。

――本日はお忙しい中、誠に有意義なお話をお聞かせいただきありがとうございました。懐かしい先生のお名前が出てきて、とても楽しい時間でした。今後とも明星学園発展のためにお力添えのほどよろしくお願い致します。

（二〇〇四年九月九日収録）

クロニクルでみる

明星学園この10年の歩み

（創立70周年から創立80周年まで）

1994 平成6年

創立70周年記念式典挙行
揺るぎない明星教育の充実と発展を誓う



五月十五日（日）、明星学園第三体育館において、ご来賓と多数の学校関係者出席のもと明星学園創立七十周年記念式典が執り行われた。

式典で松井憲紀理事長は「人は七十歳になると〝古来稀なり〟と古希を祝う週間がありますが、当学園のこの七十年間はほんの瞬きの一瞬に過ぎず、



明星学園の命は百年、二百年、さらに悠久でなければなりません。私も明星学園の創立の精神とともに、学園の悠久を信じております。創立七十周年を迎えるに当たり、輝かしい未来を切り拓いて行く子供たちと、明日に向かって新しい一歩を踏み出す学園のために変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます」と式辞を述べた。

理事長挨拶の後、ご来賓の橋本正礼日本私立小学校連合会・東京私立初等学校協会副会長、酒井滓東京私立中学高等学校協会会長、そして十六万三鷹市民を代表して安田養次郎三鷹市長より温かい祝辞をいただいた。

引き続いて祝賀会は、会場を第一体育館に移して行われた。出席者は約五百名で、会場は人であふれんばかりの状態となった。

祝賀会では、まず学園を代表して、松井理事長による挨拶。続いて千秋実後援会長、そして本校創立同人の故山本徳行先生のご子息、山本達郎今治明徳学園理事長などより祝辞をいただいた。さらに、各界で活躍されているOBの方々が、思い出とともに本校への励ましと期待を述べてくれた。

こうした皆様の期待に応えるために、創立七十周年記念式典・祝賀会を通じて、本学園では改めて建学精神・明星教育の原点を肝に銘じ、揺るぎない明星教育の充実と発展を推進する努力と覚悟を決意したのである。

入試制度改定の影響

今年度より私立高等学校の生徒募集制度が大きく変更された。制度変更の特色は、以前は各学校に任せられていた推薦入試制度が公のものとなり、しかも制度として一定の枠がはめられた

●学校の主な出来事

・1月8日　第2回豪州協力校（スワンヴュー校・イースタンヒルズ校）が来日
・3月17日　リトアニア女子バスケットチーム来校、国際親善試合実施
・5月15日　創立記念日
・5月21日～22日　小学校幼年教育研究会（軽井沢寮）
・5月22日～29日　高校軽井沢セミナー
・7月24日～8月14日　高校豪州研修（短期交換留学）
・8月1～6日　高校総合体育大会富山大会に陸上部と女子バスケット部が出場
・11月19日　東京都私立中学高等学校音楽祭に12支部代表として高等学校アンサンブル部が出演

◎学校定例行事

☆1月5日～9日　中学校スキー教室
☆2月9日　高校第30回音楽祭
☆2月26日　8年生合唱発表会
☆3月5日～6日　小学校学習発表会
☆3月12日　9年生合唱発表会
☆5月10日～12日　5年生伊豆大島見学旅行
☆6月13日～14日　高校球技大会
☆7月18日～20日　7年生八ヶ岳登山（夏季行事）
☆7月19日～29日　小学校夏季行事（千倉の生活）
☆9月1日～5日　11年生北海道修学旅行
☆9月23日　小・中学校運動会
☆9月28日～30日　6年生飛騨高山修学旅行
☆10月1日～2日　高校明星祭（テーマ：BE-FREE）
☆10月4日～7日　8年生尾瀬登山
☆10月4日～8日　9年生中国修学旅行
☆11月22日　高校マラソン大会

平成5年度決算

消費収入合計＝十四億三千四百万円
消費支出合計＝十三億五千四百万円
生徒数合計＝一千六百二十一名
（小学校＝四百二十八名）
（中　学　校＝四百七十七名）
（高等学校＝七百十六名）

平成6年度学園人事

【新任教諭】
（中学校工芸科）　河野　尚子
（高校音楽科）　間宮かおる
【退任教諭】
（高校理科）　武者小路知行
【復職教諭】
（小学校）　阿子島茂美
（小学校）　根岸あずさ
【休職・産休・育児休職教諭】
（小・中養護教諭）　大越　美穂
〃　代替教諭）　今重　由佳
【復職・育児休職事務職員】
（小・中教務事務）　剛力　美幸
（高校教務事務）　福田　栄子
【退任・育児休職代替教諭】
（小学校）　岩間　康子
【退任国内研修代替教諭】
（小学校）　五十嵐　寿
【退任・育児休職代替パートタイマー】
（小・中教務事務）　山脇久美子
（高校教務事務）　清水　憲子
【新任講師】
（高校理科）　堀口　隆士
（高校理科）　浜島　尚
（高校体育科）　鹿内　郁子
（高校生活科）　並木美由紀
（中学音楽科）　岡戸　淳
【退任講師】
（中学校工芸科）　倉橋　正美
（高校国語科）　鈴木　満男

ことにある。
新制度の主な枠としては、推薦募集が五〇%以内で、その合格判定に業者テストによる偏差値を使用してはならず、さらに学力考査を行うことが出来ないことである。
幸い、今年度の入試では入学定員を満たすことが出来、入試レベルを下げることがなかった。しかし、来年度への見通しが立っていないので、今回の結果を詳しく分析して、来年度に備えることとした。

第2回交換留学豪州高校生来日

一月八日、オーストラリアの協力校（スワンヴュー高校とイースタンヒルズ高校）の生徒九名と引率教師二名が来日。本学園高校の生徒や教師の家庭にホームスティしながら二十四日まで授業に参加した。
留学生は授業以外では、オーストラリアエクスチェンジクラブの生徒と軽井沢寮で交流キャンプを行ったり、自動車工場や江戸東京博物館の見学、浅草見物などを楽しんだ。

8年生合唱発表会

二月二十六日、八年生は初の試みとして武蔵野市民文化会館ホールで合唱発表会を行った。数あるホールの中でも音響効果が良好な、本格的な同ホールを使ったことにより、生徒たちに音楽に対する好影響を与えることが出来た。

高校総体富山大会に、女子バスケット部と陸上部出場

八月一日から富山県で開催された高校総体に本学園の女子バスケット部と陸上部が出場した。
女子バスケット部は、チーム一丸となって東京都予選で念願の優勝を飾った勢いで本大会に臨んだが、二回戦で前年度優勝校の中村学園（福岡県）に惜敗した。
陸上部は実力を発揮できないままに終わってしまったが、十一年生には来年度への手応えをしっかりつかめた良い経験となった。

一九九四年度小・中学校公開研究会

十月二十二日、今年度の「小・中学校公開研究会」が行われた。
当研究会は、本学園が行っている数々の教育研究の一端を発表して、全国各地で教育の研究と実践を行っている教育関係者と一緒に検討を重ね、より豊かな日本の教育に資することを目的に、毎年開催している。
今回、公開授業は小学校が「総合」と「算数」「美術」「体育」を、中学校は「数学」「社会」「理科」「国語」「英語」で行った。公開授業を見学後、参加者は授業の検討、分科会ごとの検討、討議を行った。

タイから交換教諭、高校に来校

十月四日、タイからティラデット教諭が、本学園高校生に英語とタイ文化の授業をするために来日した。このプログラムは、日本とタイの教師が他国での教育実践を通じて、共通の教育問題の解決を探るのが目的である。
今回は、先に本学園教師がタイで教壇に立ったことでティラデット教諭の来日が実現したもの。同教諭の授業は二十一日まで二週間にわたって英語で行われ、日タイ文化・言語の比較の講義などに本校生は、熱心に聞き入っていた。

『明星の教育―保健体育の授業』刊行



小・中学校体育科教師の研究・実践記録集『明星の教育―保健体育の授業』を刊行した。

（高校国語科）岸　すみれ
（高校体育科）柳沢　義明
（高校音楽科）間宮かおる
（高校生活科）大平　初枝
（高校社会科）上川　淳
（高校体育科）加藤智香子
【新任非常勤嘱託】
上川　淳（女子バスケット部部長）

1995
平成7年

●学校の主な出来事
・1月4日～23日　第3回豪州協力校（スワンヴュー校・イースタンヒルズ校）が来日
・4月26日　小・中・高合同教育研究会
・5月15日　創立記念日
・7月24日～8月13日　高校豪州交換留学
・11月15日　松井憲紀理事長兼高等学校長死去
・12月16日　松井憲紀理事長兼高等学校長学園葬

◎学校定例行事
☆1月5～9日　中学校スキー教室
☆2月9日　高校第31回音楽祭
☆3月5日　小学校学習発表会
☆3月12日　9年生合唱発表会
☆5月10日～12日　5年生伊豆大島見学旅行
☆6月6日～7日　高校球技大会
☆7月19日～29日　小学校夏季行事（千倉の生活）
☆7月18日～20日　7年八ヶ岳登山
☆7月23日～31日　8年生夏季行事（裏磐梯、八丈島、駒ケ岳、奥穂高、奈良）
☆9月1日～5日　11年生修学旅行（北海道、沖縄、ボルネオ、タイ、マレーシア（東海岸・タマンネガラ））
☆9月23日　小・中学校運動会
☆9月27日～29日　6年飛騨高山修学旅行
☆9月30日～10月1日　高校明星祭（テーマ：ABOUT）
☆10月3日　9年五島列島・長崎修学旅行
☆11月28日　高校マラソン大会

明星学園の寄付行為について

松井理事長が教職員と理事会の仕事と役割について、近年誤解が生じていることを憂慮して、改めて『明星学園報』No.46で、各々の役目を明確にした。抜粋を紹介する。

「学園の経営は財団法人から学校法人となり、その寄付行為（一般企業の定款に相当）によって行われる。寄付行為によれば小、中、高を設置し、校長を置き、教師を採用し、校長は教師を監督し教育を行うことにあると言える。職員会議が最高決議機関であるとか、明星には権力機構がないから何でも出来るなどと言っている話を聞くが、このことは寄付行為に示されていることと違う。この点を誤解せず、理事会（理事）と教職員の仕事は対立ではなく、役割が違うのだということを理解して、唯我独尊であってはならない。

世の中は早いスピードで革新が行われ、一次、二次、三次産業のあらゆる分野に波及している。教育も第三次産業としてのサービス業に入っている。生き馬の目を抜かれるような事態になりかねないし、うかうかしていられない。

このため理事会は四つの方針を示し、三か年かけて実現したいと思っている。さらに付け加えることは、学力をつけ、自らの習慣として〝自己教育力〟を身につけ、生涯人生にプラスになるよう学園あげて努力したいと切に思う」と述べている。

新評議員決まる

平成六年十二月三十一日の任期満了に伴い、新評議員が選出された。任期は平成七年一月一日から平成八年十二月三十一日までの二年間で、学校法人の重要な機関として尽力していただくことになる。本校の寄付行為では、評議員会は校長（一名）、専任教職員互選（八名）、年齢二十五歳以上で同窓会から推薦（八名）、理事会で選任する学識経験者（八名）の計二十六名の評議員で構成することになっている。

新評議員は別掲の通りである。

松井憲紀理事長が高等学校長を兼任

平成七年四月一日、加藤信夫高等学校長の退任にともない、松井憲紀理事長が高等学校長を兼任することとなった。高等学校長就任にあたって理事長は、次のように抱負を述べている。

「学園には〝学校法人明星学園寄付行為〟と称する、学園の憲法に匹敵する基本的ルールがあります。私はこれを順守し、改めるべきところは改め、明星がますます良くなるように努力して参る所存です。当面の課題としては〝十二年一貫教育〟の果実を高めることにあります。子供たちの努力に対して、校長以下教職員は最善の注意と協力、自己管理を傾けて、花を咲かせたいと思っております」。

高校入試応募者増加
―募集対策部―

今年度は高校入試応募者が、昨年実績を大幅に下回ることが心配されていた。しかし、推薦入試応募者数が五十八名、一般入試応募者数は三百二名と、昨年度を上回ることが出来た。

これは、以前からの募集活動に加え、募集部員全員が努力を惜しまずに中学校や学習塾回りを実践したことの表れと言える。また、公立中学校の生徒たちが学校見学に多数来校しているが、その生徒たちへの応対も、本学園に対する好印象を与えているようである。ある中学校から多数の応募があり、その理由は「応対してくれた先生が良かったから」ということであった。

平成6年度決算

消費収入合計＝十四億八千四百万円
消費支出合計＝十四億五千二百万円

生徒数合計＝一千六百五名
（小学校＝四百三十名）
（中学校＝四百七十七名）
（高等学校＝六百九十八名）

平成7年度学園人事

【校長】
高等学校　松井憲紀（新任・兼任）
中学校　依田好照（重任）
小学校　依田好照（重任・兼任）
【退任校長】
高等学校　加藤信夫
【教頭】
高等学校　黒川　実（重任）
中学校　根本美愛（新任）
小学校　根本美愛（新任・兼任）
【新任教員】
（高校理科）　堀口　隆士
（中学校体育科）　石井　三絵
【国内研修】
（中学校美術科）　重吉起佐子
【復職教員】
（小・中養護教諭）　大越　美穂
【退任教員】
（小・中養護代替教諭）　今重　由佳
【国内研修代替講師】
（中学校美術科）　村松　詩絵
（中学校美術科）　川田　恭子
【新任講師】
（高校生活科）　平尾　計子
（高校体育科）　木下みずほ
（高校数学科）　子安美津子
　　道海　澄子
【退任講師】
（高校生活科）　並木美由紀
（高校体育科）　菅原美喜子
（高校理科）　池田　浩之
（高校音楽科）　浜島　尚
（高校数学科）　合田　香
　　尾上　義和
【産休・育児休職事務員】
（事務）　橋本　理恵
【事務局パートタイマー】
松島昭子（新任）
【評議員会】
議長　片岡　敬吉（新任）
副議長　栗山美知郎（新任）
　　一瀬　清（新任）
評議員会選出理事　佐藤　雄二（新任）

最近は、武蔵野市を中心とした近隣の中学校からの応募者が増えてきている。

豪州短期交換留学実施

七月二十四日から八月十三日まで、国際社会に対応できる若者の育成を目指したオーストラリアへの短期交換留学を実施した。

留学生はオーストラリアでホームステイをしながら和菓子や折り紙、習字、玩具などの日本文化を発表したり、現地ハイスクールで語学研修はもとより交流を深めてきた。

また、今回のプログラムは現地新聞でも、写真入りで大きく取り上げられた。

松井憲紀理事長・高等学校長逝去

九月に聖マリアンナ医科大学付属病院に胆嚢検査、内視鏡手術のため入院していた松井憲紀理事長兼高等学校長は、十一月十五日午前九時十五分、急性心不全のために逝去された。享年八十六歳。

故理事長は昭和五十四年十二月の就任以来、平成七年十一月まで十五年十一か月の長きにわたって本学園の発展、財政の健全化に尽力されてきた。まず、就任と同時に「和の拡大」をテーマに、内外の学校関係者と対話を続けた。そして、当時存亡の危機にあった本校の財政建て直しに着手。「教育と財政は車の両輪」と説き、さらに「二人以上の人が一つの目的に向かって協力するための前提条件は信頼関係である。信頼の基礎となるものは相互理解と人格」であるとして、本校の総力の結集に努力され、三年で財政を黒字化し、十年で累積赤字を解消したのである。

故松井憲紀理事長兼高等学校長学園葬



故松井理事長の学園葬は十二月十六日、手塚光雄理事長を葬儀委員長に多くの学校関係者が参列して、第三体育館で本校アンサンブルクラブが奏でるモーツァルトの「レクイエム」、ベートーベンの「交響曲第七番」の中、厳かに執り行われた。

葬儀では、手塚葬儀委員長は挨拶で「先生は本学園の中興の祖であった。おかげで学園は建学の精神に立ち返り、創立以来蓄積してきた豊富な教育ノウハウの上に立って、先進的な教育実践を行う学園として特色を発揮できるようになった」と述べている。

弔辞は本校生徒代表して自治会長の今井澄夫君をはじめ、奈良正博PTA会長、谷井精之助同窓会会長、川連拡子後援会会長が述べ、故理事長との思い出や温かい人柄を偲びつつお別れした。

新評議員名簿

【寄付行為第12条第1項第1号校長】
・加藤信夫
・依田好照

【寄付行為第12条第1項第2号教職員】
（小学校）
・飯田達彦
・一瀬　清
（中学校）
・飯田啓介
・根本美愛
（高等学校）
・黒川　実
・斎藤顕隆
・工藤一義
（事務局）
・市川昭雄

【寄付行為第12条第1項第3号卒業生】
・佐藤雄二
・深山僖一
・田中祥子
・松平満子
・中神康博
・栗山美知郎
・富平玲子
・楠田直樹

【寄付行為第12条第1項第4号学識経験者】
・川連拡子
・安藤通久
・片岡敬吉
・奈良正博
・富谷久子
・若山直彦
・出口一彦
・湊　寛

【評議員退任】
・若山直彦（PTA会長退任）

【理事長職務代行】
・依田好照（小・中学校長）

【高等学校長職務代行】
・黒川　実（高等学校教頭）

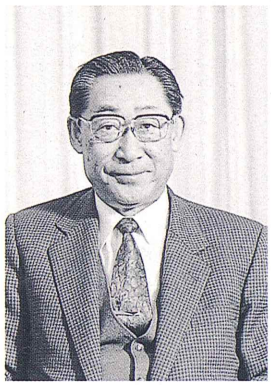
【後任・次期理事長】
・手塚光雄

【事務局長選任】
・市川昭雄

【事務長補（経理課長兼任）選任】
・原田　茂
・安藤　通久（新任）

1996
平成8年

12年一貫教育の実を上げよう
―手塚光雄新理事長挨拶



バブル経済の崩壊により経済界は景気低迷の時代に突入しました。教育界においても学齢人口の減少により他の私学や公立学校では、明星学園とそっくりなスローガンを掲げるなど、なりふり構わぬ対策を取るようになって競争が激化しております。

このような中にあって、当学園は、既に一昨年十月に『中長期運営方針』を打ち出しています。この運営方針の骨子は十二年一貫教育の実を上げるための実践的課題を克服して小学校六年、中・高校六年の一貫教育を具体的に進めることであり、また校舎の新築をはじめ施設面の強化を図るというものです。

これらの方針を実現するためには、いろいろな課題を解決してゆかなければなりません。かつて創立同人の方々が父母の信頼を得ることによって明星学園が発展してきたように、現在在校する児童・生徒・父母に『建学の教育理念』と『十二年間で社会に出られる自立した人を育てる』学校であるとの信頼を得なくては、明星学園の将来がありません。私どもは教職員一同とともに、その信頼に応えるために最大限の努力を傾注する所存であります。

理事会役員改選

当学園の理事会は校長二名、評議員の互選によって定められた者二名、そして当学園に功労あるものおよび学識経験者で理事会において選任された者八名の計十二名で構成されている。

現理事の内、寄付行為第八条の第一項三号による学識経験者理事の八名が平成七年十二月三十一日をもって任期満了となるため、同年十二月七日の定例理事会において理事の改選が行われた。

新理事は別掲の通りであるが、同時に理事長と常務理事の選任を行い、理事長に手塚光雄氏が選ばれた。また、常務理事には手塚新理事長（高等学校長兼任）のほか依田好照小・中学校長、安藤通久理事（学園広報・渉外担当）、津田謙二理事（学園法人事務担当）の四名が選任された。

6・6制検討委員会答申書提出

九四年十月、理事会は今後の明星学園が進むべき方向を「中長期運営方針」として発表した。

同運営方針について高等学校では、「基本方針として賛成、細部は検討する」、小・中学校は「明星教育の本質に関わる問題なので教職員の考えを十分尊重して欲しい」との意見があった。

理事会では九五年六月に、安藤通久理事を委員長とする「六・六制検討委員会」を設置し、当学園を取り巻く教育社会環境、当学園教育の現状、小学校六年、中学校三年、高等学校三年間の教育について討議を重ねた。加えて今後の児童・生徒への学習指導、修業体制のありかた、初等六年・中等六年体制による中高連携をよりスムーズに、より強化する方法も検討した。会議は翌月から九六年一月まで計九回開き、その一月の会議で委員の合意のもとに答申文を作成し、九六年二月に手塚理事長へ答申書を提出した。

答申書についての意見を二月末日までに求め、それに基づいて三月に再度

●学校の主な出来事

- 5月15日　創立記念日
- 6月5日　小・中・高合同教育研究会
- 6月15日～16日　小学校幼年教育研究会（十倉寮）
- 7月26日～8月13日　高校豪州交換留学
- 8月24日～25日　小学校幼年教育研究会（夏季講座）
- 10月26日　小・中学校公開研究会
- 11月6日　小・中・高合同教育研究会

◎学校定例行事

- ☆1月5日～9日　中学校スキー教室
- ☆2月6日　高校第32回音楽祭
- ☆2月23日　8年合唱発表会（武蔵野市民文化会館）
- ☆2月29日～3月5日　小学校学習発表会作品展示会
- ☆3月3日　小学校学習発表会（1年、2年、6年）
- ☆3月7日、9日　小学校学習発表会4年朗読会
- ☆3月13日　9年合唱発表会（三鷹市芸術文化センター）
- ☆5月8日～10日　5年生伊豆大島見学旅行
- ☆6月12日～13日　高校球技大会
- ☆7月7日～11日　9年生北海道修学旅行
- ☆7月17日～27日　4年、5年、6年生夏季行事（十倉寮）
- ☆8月18日～25日　登山（7年生八ヶ岳、8年生燕岳）
- ☆8月27日～9月5日　11年生コース別修学旅行
- ☆9月23日　小・中学校運動会
- ☆9月28日～29日　高校明星祭（テーマ：FREEDOM）
- ☆10月2日～4日　6年生奈良修学旅行
- ☆11月22日　高校マラソン大会

平成7年度決算

消費収入合計＝十四億六千三百万円
消費支出合計＝十四億八千五百万円

生徒数合計＝一千六百十名
（小学校＝四百三十一名）
（中学校＝四百八十名）
（高等学校＝六百九十九名）

平成8年度学園人事

【校長】
（高等学校）手塚光雄（新任・兼任）

【新任教諭】
（小学校）坂本　英治
（中学校社会科）土器屋真理子

【退任教諭】
（小学校）内藤　哲彦
（中学校社会科）飯田　啓介
（高校社会科）丸　重俊
（高校国語科）染谷　悦子

【復職教諭】
（中学校美術科）重吉起佐子

【事務長】
（経理課長兼任）原田　茂

【復職事務員】
（事務局）橋本　理恵

【小中教務事務】
（パート）井部和佳子

【休職教諭】
（高校美術科）山領　直人

【新任講師】
（高校美術科）飯村　悦男
（高校社会科）丸　重俊
（高校国語科）内藤　哲彦
（高校体育科）山田　桜
（高校染色科）鈴石明日香
（高校中国語科）劉　暢

【退任講師】
（高校国語科）小川　恵
（高校数学科）田崎　中

検討委員会を開催して検討を加え、四月に行われる全学園集会で検討結果を報告し、「中長期運営方針」を推進していくことになった。

第32回音楽祭 留学生も参加

二月六日、高等学校第三十二回音楽祭は〝Sound of My Generation〟をスローガンに開催された。留学生も日本の歌に挑戦したり、見事なコンダクター振りを披露するなど、大いに盛り上がった。今回は、いつになく十一年生が圧倒的迫力とパワーをみせつけた音楽祭であった。

第2回全国高等学校選抜オーケストラフェスタに出場

明星学園アンサンブルクラブは一月十三日、十四日の両日、渋谷区千駄ヶ谷の日本青年館大ホールで開催された「第二回全国高等学校選抜オーケストラフェスタ」に出場した。

当クラブは地区音楽会や私立音楽祭、定期演奏会などいろいろな所で演奏してきているが、全国から選抜されたオーケストラの中での演奏はめったにないことなので、クラブ員は緊張の面持ちであった。

今回、オーケストラフェスタに参加して自分たちと全く違う雰囲気の学校の演奏を聴くことで全国のレベルを知ったことはクラブ員にとって良い経験となり、今後の自分たちの活動について考えること良い機会にもなった。

コンピューター・ルーム等新設

高等学校では夏休み期間中に大改修工事が行われた。耐震補強工事のほかに、コンピューター・ルームの新設、図書室改修、大職員室新設、全教室冷房化への基礎工事がその主たるものである。

この改修工事は故松井高等学校長の時に決定されていたもので、中長期運営方針で次のように述べている。

「私学として建学の理念、伝統を反映させた個性と魅力を持ち、国際化、情報化社会などの教育課題に応える豊かな教育内容を作り上げること。生徒が自分の意欲・目的などに応じて能力を伸ばせる教育環境、場、機会を与え援助する教育」。

今回の改修工事は第一期工事で、来春は調理室拡張改修工事を中心とした第二期工事、そして夏の全教室冷房化という第三期工事の予定になっている。

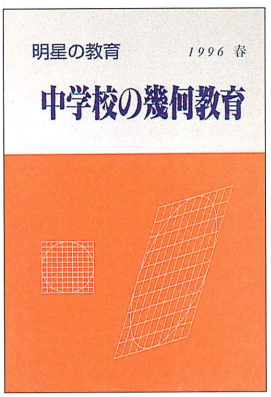
「学校週5日制」についてアンケート結果報告

平成八年の文部省中央教育審議会答申によって、平成十四年四月から全国の公立学校に「学校週五日制」が導入されることになった。

当学園では、中央教育審議会答申による「学校週五日制」について理事会で慎重に検討を行ってきたが、父母の意見の収集も必要と考え、七月末にアンケートを配布した。

このアンケート結果は父母の強い希望もあって『学園報』No.53で公表している。「学校週五日制」は馴染みの薄い制度であるため、賛否両論は当然として、戸惑いが垣間見えるアンケート結果であった。

明星の教育実践記録集刊行



本年春に『明星の教育―中学校の幾何教育』を、秋には『明星の教育―理科の授業＝自然現象の粒子論的な理解』を刊行した。

9年生 一九九六年度卒業論文集発刊

九年生がこの一年間、独自のテーマを持って生活した総決算として書き上げた「卒業論文集」が完成した。クラスごとに四冊に製本されたこの論文集は、彼らの大いなる可能性と、教師としてするべき課題が描き出されていた。

学校法人明星学園役員紹介

【寄付行為第8条1項三名（一名兼任）校長】
・依田好照（常務理事　小・中学校長）
【寄付行為第8条2項二名　評議員会選出】
・佐藤雄二（第16回卒業生）
・安藤通久（常務理事・元PTA会長）
【寄付行為第8条3項八名　学識経験者】
・手塚光雄（理事長・高等学校長兼務）
・谷井精之助（第7回卒業生・明星会会長）
・上田八郎（元学園高等学校長・第7回卒業生）
・津田謙二（常務理事）
・石原憲一
・渡辺　実（第35回卒業生）
・木下武彦
【寄付行為第9条1項二名】
・福田真也（監事）
・田中一水（元高等学校教諭・第16回卒業生）

（高校英語科）吉沢　真人
（高校中国語科）関　権
（高校体育科）鹿内　郁子
（高校染色科）鈴木　マサ
（中学校技術科）山内　國任
（中学校工芸科）岡本　紀子
（中学校美術科）川田　恭子
（中学校美術科）村松　詩絵
【退任理事】
・石原憲一（学識経験者選出）

1997
平成9年

●学校の主な出来事
・4月1日　小・中学校ホームページ開設
・5月15日　創立記念日
・6月11日　小・中・高合同教育研究会
・7月19日～8月6日　高校ニュージーランド研修
・7月22日～8月11日　高校豪州研修
・11月1日～8日　高校タイ生徒来日
・11月5日　小・中・高合同教育研究会

◎学校定例行事
☆1月5日～9日　中学校スキー教室
☆2月6日　高校第33回音楽祭
☆3月2日　小学校学習発表会
☆5月7日～9日　5年生伊豆大島見学旅行
☆5月29日～30日　高校球技大会
☆7月18日～25日　登山（7年八ヶ岳、8年白馬岳）
☆7月19日～29日　4年、5年、6年生夏季行事（千倉寮）
☆9月20日　小・中学校運動会
☆9月27日～28日　高校明星祭〈テーマ：∞（アンフィニ＝無限大）〉
☆9月29日～10月3日　9年生沖縄修学旅行
☆10月1日～3日　6年生奈良修学旅行
☆10月25日　小・中学校公開研究会
☆11月22日　高校マラソン大会

合言葉は「楽しくて、ためになる授業」

手塚光雄理事長は新年を迎え、年頭所感で「中長期運営方針」実現のために、本学園の「二十一世紀のためのシステム作り」を述べている。

「世界の趨勢が国際化、情報化、多元化と急速に変化しています。明星は誇り得る教育のノウハウを持っていますが、世の中の大きな変化に対して果たして対応出来ているかを考えると、甚だ心もとないとも言えます。理事会は、一連の改善をシステム化してバックアップするために〝中長期運営方針〟を出して、教職員各位に理解と協力を要請しています。

（中略）

これらは二十一世紀の明星のための方針であり、一連の改革期間中総額二十数億円を要する大計画です。これが完成すれば、明星は鞏固な基盤を築くことが出来ます。明星学園に学ぶ児童・生徒の安定した幸せを確保することが出来ます。

日々の教育実践の改善と施設設備の改善とこういうシステム全体の構築が明星の課題であると存じます。そして、子供たちに良い教育をすることが明星学園の仕事であることを銘記して、この一年努力を重ねる所存です」。

そして理事長は最後に、本学園の課題に取り組むに当たっては「楽しくて、ためになる授業を今年の合言葉として進めていきたい」と言葉を結んだ。

小・中学校で完全学校週5日制がスタート

本学園では、今年度から試行という形ではあるが、小・中学校で「完全学校週五日制」がスタートした。

小・中学校の教育現場では六年前から「学校週五日制」についてさまざまな角度から検討し、その内容を父母会、PTAに提示して意見や要望を伺い、さらに検討を加えるという作業を積み上げてきた。理事会においても全学園的見地から検討を続け、父母へのアンケートや全園父母集会を通じて意見を聞きながら、制度導入の時期と方法などについて審議を重ねていた。

依田好照小・中学校長は学校週五日制度実行に当たって「父母の方々から寄せられた賛否それぞれの意見とその背景にある真意・懸念・期待を深く受け止め、今後の教育実践と学園運営に役立て、子供たちのためにより豊かな、明星ならではの学校週五日制を創り上げていきたい」と決意を述べている。

学校週5日制での活動

「完全学校週五日制」の導入により小・中学校では、保護者も巻き込んで工夫を凝らした活動を行っている。その一例を紹介してみよう。

小学校の親子ものつくり自然教室では天然酵母によるパン作り、茜を掘って茜染めや平織り、アケビの蔓での籠編み、藍染め、豆腐作りなど。昆虫観察のクラブ活動では、新しい発見に児童が目を輝かせている。低学年は自然の中で遊ぶことをテーマに、ミニ遠足を実行した。

中学校では八年の生徒、家族、教師の有志による「モンゴル料理を作る会」を実施して、モンゴルの家庭料理に挑戦した。美術部は校外活動として都内美術館の企画展などを見学。五日制以前はゆっくり観賞することは難しかったが、制度導入のおかげでゆっくり名作を観賞することが出来た。

他には、本に親しむことを目的とし、父母有志による参加自由の「読み聞かせの会」の活動や、サッカー好きが集まった明星FCでは、リーグ戦初勝利を目指して楽しい汗を流している。さらに、地域社会の一員としての「環境

平成8年度決算

消費収入合計＝十四億二百万円
消費支出合計＝十四億八千九百万円
生徒数合計＝一千五百八十三名
（小学校＝四百三十名）
（中学校＝四百七十四名）
（高等学校＝六百七十九名）

平成9年度学園人事

【校長】
（高等学校）　黒川　実（新任）
【退任校長】
（高等学校）　手塚　光雄
【教頭】
（高等学校）　野口　淳（新任）
【退任教頭】
（高等学校）　黒川　実
【新任教員】
（高校国語科）　田住　見
（高校数学科）　新井　砂織
（中学校養護教員）　原田　妙子
【産休・育児休職教員】
（小学校）　河住　由美
【産休・育児休職代替教員】
（小学校）　岩間　康子
【復職教員】
（高校美術科）　山領　直人
【新任講師】
（高校数学科）　浅井　嘉信
（高校体育科）　芝　志麻
（高校生活科）　村瀬　恵美
【退任講師】
（高校国語科）　園田　恒明
（高校国語科）　立石　幸子
（高校体育科）　山田　桜
（高校美術科）　飯村　悦男
【産休・育児休職事務職員】
（小・中教務）　剛力　美幸
【理事選任】
・川連拡子（評議員会選出理事）
・黒川　実（評議員会選出理事）
・安藤通久（学識経験者）
・佐藤雄二（学識経験者）
・出口一彦（評議員会選出理事）
【評議員選出】
・楠田直樹（学識経験者）
・青野和子（学識経験者）
【退任評議員】
・安藤通久
・佐藤雄二
【評議員会】
議　長　片岡　敬吉

美化活動」、ＰＴＡ代表も加わった「学校開放運営委員会」も発足している。

このように、工夫次第で土曜日にさまざまな活動が可能なので、生徒にも教師にも好評を得て、新制度としては好スタートを切ることが出来た。

インターハイ京都大会報告 女子バスケット部見事準優勝！


準優勝した女子バスケットボール部

今年も本学園高校の女子バスケットボール部は、八月に京都で開催されたインターハイに出場した。二回戦から出場した本校は佐賀県の佐賀清和、兵庫県の甲子園学院、福岡県の中村学園を次々と破り、準決勝で四連覇を目指していた愛知県の強豪、名古屋短期大学付属高校と対戦した。

準決勝進出は九年ぶりで多少の緊張感があったものの、練習で培ったプレーができて60―54で破り、十年ぶりの決勝進出を果たした。決勝では宮城県の聖和学園に惜敗して準優勝に終わってしまった。しかし、名短大付属高の四連覇を阻止するなど、得ることが多い大会だったといえよう。

また、陸上部の女子走り高跳びで庄司真弓選手は決勝進出を果たした。しかし、当日の猛暑や会場の雰囲気に負けずに奮闘したものの、残念ながら入賞を逃してしまった。

明星学園高等学校の特色ある教科課程

高校では選択科目が多いことは知られているが、実際に実施されている様子はイメージしにくいもの。今日、公私立問わず選択授業を増やしているが、本校では既に三十年近い実績を持っている。

現在、十年生は基礎的な学力の充実を図るため全て必修科目で構成され、十一年、十二年生では大幅に選択科目を設けて自分の趣味・関心・進路・適性等に応じて科目を選択できるように編成している。しかも、十一年次には十三時間、十二年次ではホームルームを除く三十二時間全部が選択授業に当てられている。さらに今年度からは十一年次に進路別の基本モデルを作り、より分かりやすい選択にしようと考えている。しかし、総合選択制高校のような大規模校では教室数、教員数も多いので選択授業の時間割を作るのは比較的楽だが、本校の学校規模で選択授業を構成するのは、たいへん苦労するところである。

選択授業以外では、十年次に二クラスを美術二コース、音楽二コースに分けて少人数で行う芸術科目の選択、英語のオーラルコミュニケーションでは一クラスを二つに分割して二十名程度で外国人講師による会話授業を行っている。十一年次ではこの四月よりコンピュータ教室を利用した「家庭情報処理」が必修として、また英語ではグレード別授業が実施される。これは「国際化」と「情報化」の流れに沿ったものと言える。コンピュータ教室は美術と音楽の選択授業でも活用する予定であり、さらにインターネットを活用した授業の検討も始めている。

国際交流報告 豪州生徒来校

一月八日（水）、豪パース市にある二つの姉妹校より五名の短期留学生が、カレン・ワース先生の引率で来日し、二週間の日本滞在を楽しんだ。

一行は本校の生徒宅にホームスティをしながら授業参加や軽井沢寮での日本人生徒との合同キャンプなどを体験した。文化や習慣の違いなどを肌で感じながらも積極的に日程を消化して、元気に帰国の途についた。

引率のカレン先生は「多くの明星生とパース市で再会できるのを楽しみにしている」と言葉を残していった。

ニュージーランド英語研修

恒例の「ニュージーランド英語研修」は、今年も七月十九日から十八泊十九日の日程で行われた。本校の参加者は引率教師二名を含めた十八名である。

訪問したのはニュージーランド南島のプレザントポイントという小さな町。ここでプレザントポイント高校の授業に参加したほかクック山への遠足やスキー行事にも参加した。週末にはホストファミリーとドライブや乗馬、カヌーなどを楽しんだ。

このように、現地の生徒や教師、ホストファミリーの温かさに触れて本校の生徒たちは徐々に積極的になり、おかげで英語コンプレックスも解消したようである。

副議長　栗山美知郎
一瀬　清
議事録署名人　中神　康博
一瀬　清

環境問題対策 ゴミの分別収集と焼却炉の廃止

ゴミ焼却によるダイオキシンの発生が社会問題となり、焼却炉の使用中止の動き広がってきている。発がん性物質としての問題や環境保全の問題が、焼却炉使用中止の大きな理由となっている。

一方、家庭や事業所から出るゴミの減量化が、今日的重要課題でもある。限りある資源の再利用は、ゴミの減量化に直接影響を及ぼす。

本学園では児童生徒、教職員合わせて千七百名もの人たちが生活しており、日常的に出されるゴミの量は膨大なものがある。そこで、本学園では焼却炉の完全廃止とゴミの分別収集を進めることで、ダイオキシンによる環境汚染、ゴミの減量化に子供たちと一緒に取り組み、環境と健康について実践的に理解を深めていきたいと考えている。

1998
平成10年

●学校の主な出来事
・1月8日～22日　豪州生徒来日
・6月10日　小・中・高合同教育研究会
・7月21日～8月8日　高校豪州研修
・7月21日～8月8日　高校ニュージーランド研修
・10月24日　小・中学校公開研究会
・11月1日～8日　高校国際交流タイ生徒来日
・11月4日　小・中・高合同教育研究会

◎学校定例行事
☆1月4日～7日　中学校スキー行事
☆2月6日　高校第34回音楽祭
☆2月27日　中学校合唱の会
☆3月7日　小学校学習発表会
☆5月11日～13日　5年伊豆大島見学旅行
☆6月5日～6日　高校球技大会
☆7月19日～29日　4年、5年、6年生夏季行事（千倉寮）
☆7月21日～28日　登山（7年生八ヶ岳、8年生蝶ヶ岳）
☆8月27日～9月5日　11年生コース別修学旅行
☆9月20日　小・中学校運動会
☆9月26日～27日　高校明星祭〈テーマ：Individuality（個性）と環境〉
☆9月28日～10月2日　9年生台湾修学旅行
☆10月6日～8日　6年生奈良修学旅行
☆11月21日　高校マラソン大会

三つの友達を作る場にしよう

手塚光雄理事長は年頭の挨拶で、二十一世紀に対応する本学園のあり方についてメンタルな面からの提言を行っている。

「いま私たちは二十一世紀に生きる人間の基礎を培うために、建学の精神を〝不易〟としながら、変化に対応することが必要になってきました。

それでは、二十一世紀に対応するにはどうすべきか。明星で子供と接する大人が全て、子供に『三つの友達』を持てるように援助しようというのが、私の提言です。

①第一は人間との交流で、マナーを大切にすることです。

②次に、過去の人とも友達になりたいということです。人は、人と自然のほかに過去の人とも仲良くなりたいということがあります。

③三番目は美しさ、美しく生きたいということです。心の豊かさといっても良いでしょう。

こうして見て参りますと、明星学園のやってきたことは、正にこの『三つの友達』を作る場として、学校に来るのが楽しいようにとの気持ちが溢れていることに気づかれるでしょう。そしてこういうメンタリティこそが、二十一世紀を支えていく人に基本的に必要なのです」と。

そして最後に「全学園がベクトルを合わせて明るい将来像を構築するために、一人一人が何が出来るかを考えながら歩みを進めたい」と言葉を結んでいる。

小学校学習発表会

今年の二年生はペープサート『きかんしゃえもん』（一組・阿川弘之作）と影絵劇『天の笛』（二組・斎藤隆介作）、『おばけパーティー』（ジャック・デュケノワ作）に取り組んだ。これは、教師が子供たちを動かすような発表ではなく、子供たち一人一人がたくさん活躍できるようにする狙いからである。

一組では台本の台詞を皆で考え、二組はどんな影絵にするかというところから話し合った。この結果、発表後には「子供たちが生き生きしていた」という父母の声がたくさん聞かれた。

しかし、なによりも子供たち自身が「自分たちでやれた！」という自信を持てたことが、いちばんの収穫といえよう。

中学校 明星学園らしい合唱発表会



今年は全校で行う合唱発表会の二回目である。クラス合唱の取り組みが深まったことを実感させる発表会であっ

平成9年度決算
消費収入合計＝十四億七千五百万円
消費支出合計＝十五億四千八百万円
生徒数合計＝千五百八十六名
（小学校＝四百二十六名）
（中学校＝四百七十三名）
（高等学校＝六百八十七名）

平成10年度学園人事
【校長】
（高等学校）黒川　実
（小・中学校）和田　武久（新任）
【退任校長】
（小・中学校）依田　好照（退職）
【新任教諭】
（小学校）澁谷　淑恵
【退任教諭】
（高校英語科）井部　高志（定年退職）
【退任職員】
（高等学校）日向寺敏彦（定年退職）
【復職教諭】
（小学校）河住　由美
【復職職員】
（小・中教務）剛力　美幸
【退任産休・育休代替教諭】
（小学校）岩間　康子
【新任講師】
（高校染色科）原　かのこ
（高校生活科）高橋　克彦
（高校社会科）丸山　雄
（高校英語科）井部　高志
（高校英語科）江口　邦彦
（高校英語科）Rosalind Patricia Taylor
（高校美術科）潮田　明子
（高校社会科）大竹　浩介
清水　邦彦
【退任講師】
（高校数学科）黒河内恵美
（高校数学科）浅井　嘉信
（高校英語科）田所メアリー
（高校英語科）内藤　一
（高校生活科）村瀬　恵美
（高校染色科）鈴石明日香
（高校国語科）太田ひとみ
（高校社会科）山田　英
（高校社会科）天野　哲史
（高校社会科）荏原　鉄宏
【海外研修教諭】
（高校英語科）奥西　克昌
【休職教諭】
（高校英語科）大伴　恭一

た。しかも、クラスごとに特色があり、ほほえましく聴くことが出来た。

合唱発表会を成功させるために、実行委員会の苦労は恒例のことである。今年は二枚重ねの色画用紙を使ったプログラムや、立て看板にも工夫を凝らして合唱会を盛り上げた。

発表会の最後に実行委員長が終わりの言葉を述べたが、まさに「明星学園らしい合唱発表会」であり、実行委員皆の顔にはやり遂げた「達成感」が浮かんでいた。

通貨危機を乗り越えて タイ高校生滞在記

一月二十八日（水）にタイのサラシット高校生十七名と教師二名が、本学園高校にやってきた。昨年に続き、二度目の来日である。

同校との交流は、五年前に教員の交換留学を行ったことに遡る。今日まで本校生約百名が修学旅行で同校を訪問し、歓迎を受けている。昨年は本校より教員二名が招待され、日本文化を紹介しようと熱弁をふるった。

しかし、このような関係に水を注されたのが「アジア通貨危機」だった。当初は五十名以上のサラシット生が本校訪問を希望していたが、極端なタイ通貨のバーツ安によって、今年度の来日は中止になるのではといった危機感がつのった。ところが彼らの熱い情熱によって節約と基金を募り、ついに来日を果たしたのである。

サラシット生は浅草やディズニーランド、富士山を訪れたり、明星生宅にホームステイをして授業に出席するなど、短時日であったが日本での生活を楽しんだようである。

みんなで創る学園 21世紀学園構想委員会報告（抜粋）

21世紀学園構想委員会では、七月八日全園教職員会議に討議内容を「提案」し、論議を経て理事長答申の運びとなった。この委員会は中長期運営方針から、「六・六制検討委員会」を経て、学園内の共通理解を深め、行動に移すという観点から出発した。

〈提案①〉小学校の校舎建築で、現在地に建築する。

〈提案②〉近い将来、中高を同一キャンパスとし、六・六制を実現する。そのために二〇〇三年三月までに具体案を作成する。

〈提案③〉十二年一貫教育の実現に向けて㋑人事交流の実施、㋺系統的なカリキュラムの作成、㋩合同の教科会、委員会、校教務会を定期的に行う。

〈提案④〉学園の教育体制は、当面二校長二教頭制とする。

〈提案⑤〉六・六制を目指し、中高建築委員会を新たに設置する。

明星教育が子どもの自主性を尊重し、明星学園を社会立学園として父母も子供たちさえもこの学園の担い手だとして自己責任性を重視した教育の基本が、今改めて時代の要請に深く応えるものとして浮かび上がってくる。21世紀学園構想委員会で議論された事柄の中には、正に二十一世紀の明星教育のあり方を示唆するものが提起されていた。

どういう器を持つかということは、教育の内容と深く関わってくる。父母も教育を受けるのみではなく、共に教育を創っていくという明星学園の原点に戻って欲しいと思う。

自ら計画を立て、行動した 小・中学校合同運動会



今年度の小・中学校合同運動会では、「自分たちの運動会をどういうものにしたいのか。より良いものとするためにはどうすればいいのか」を、子供たち自らが考え、行動できるようにするために、六月に実行委員会をスタートした。

同委員会では開・閉会式をはじめとする全体に関わる内容を一つ一つ検討し、例年と変更する場合は具体的にどう変えるのか話し合いを重ねた。

これは学校全体、学年、個人についても言えることだが、何か一歩前進すると直ぐに新たな問題が出てくる。その時に大切なのは、「それをどう乗り越えてきたか」ということ。今回実行委員会を経験した一人一人は何かを感じ取ったはず。それが、今後必ず大きな力となることを信じている。

【顧問】
・依田　好照
【退任理事】
・谷井精之助
・津田　謙二
・佐藤　雄二
【新任評議員】
・石元　登
【退任評議員】
・湊　寛
・楠田　直樹（学識経験者選出）
・富平　玲子（卒業生選出）
【評議員の選出】
・松浦　恭子（卒業生選出）

新評議員名簿
【寄付行為第12条第1項第1号　校長】
・黒川　実（高等学校長）
・和田　武久（小・中学校長）
【寄付行為第12条第1項第2号　教職員】
・一瀬　清（小学校）
・剛力　正和（小学校）
・根本　美愛（中学校）
・川手　晴雄（中学校）
・野口　淳（高等学校）
・工藤　一義（高等学校）
［未　定］後に補充選任
・原田　茂（事務局）
【寄付行為第12条第1項第3号　卒業生】
・深山　億一（20回生）
・田中　祥子（21回生）
・松平　満子（25回生）
・松浦　恭子（29回生）
・中神　康博（32回生）
・河野　明子（32回生）
・栗山美知郎（33回生）
・富岡　和夫（36回生）
【寄付行為第12条第1項第4号　学識経験者】
・川連　拡子（後援会会長）
・片岡　敬吉（元ＰＴＡ会長）
・奈良　正博（元ＰＴＡ会長）
・富谷　久子（元ＰＴＡ会長）
・出口　一彦（卒業生―24回生）
・青野　和子（現ＰＴＡ会長）
・石元　登（卒業生父親）
［未　定］後に補充選任

1999 平成11年

●学校の主な出来事
・1月11日～23日　高校国際交流ニュージーランド生徒来日
・2月17日　小・中・高合同教育研究会
・5月15日　創立記念日
・7月　高校ホームページ開設
・8月5日～25日　高校豪州研修
・8月24日～26日　高校体験入学
・8月26日～31日　小学校仮設校舎へ引っ越し

◎学校定例行事
☆1月4日～7日　中学校スキー教室
☆2月4日　高校第35回音楽祭
☆3月6日　小学校学習発表会
☆5月12日～14日　5年生伊豆大島見学旅行
☆5月30日　小・中学校運動会
☆6月4日～5日　高校球技大会
☆7月19日～29日　4年、5年、6年生夏季行事（十倉寮）
☆7月21日～23日　7年生八ヶ岳登山
☆7月25日～8月25日　8年生グループ別行事（式根島、妙高登山、裏磐梯キャンプ、山中湖キャンプ）
☆8月25日～9月6日　11年生コース別修学旅行
☆9月25日～26日　高校明星祭（テーマ：表現する）
☆9月27日～10月1日　9年生沖縄修学旅行
☆10月12日～14日　6年生奈良修学旅行
☆10月23日　小・中学校公開研究会
☆11月22日　高校マラソン大会

小学校の校舎改築、基本設計出来る

本学園の七十周年記念事業の一つに、小学校校舎の改築がある。その進行状況を安藤通久21世紀学園構想委員長が、次のように報告している。

「本学園は二十一世紀に向かっての教育の〝場〟としての校舎建築に取りかかっている。願わくば、これまで通りの教室数が確保されているとか、一斉授業に力点がかかった構造になっているとかで終わらないで欲しいと心から願っている。

小学校校舎の改築は創立七十周年記念事業として検討・取り組みが始まった。小・中学校に建築委員会が置かれ、学園も建築担当の理事を選任し、高校の体育館を完成させた設計会社のアドバイスを受けて教職員の要望を具体化した設計図面をA・B・C・D・E・E修正案にまでこぎつけた。

この間、学園中長期運営方針による十二年一貫教育を、六年六年のスパンにし、中学から高校への連携を深める、いわゆる六・六制の検討委員会がもたれ、中高同一キャンパス案が持ち上がった。これにより建築計画の見直しが行われるに到り、E修正案を含め小学校校舎改築は白紙状態になった。

中長期運営方針、六・六制検討を踏まえた上で、21世紀学園構想委員会が設置され、討議の結果、全学園挙げて二十一世紀へ向けての取り組みが合意決議され、小学校校舎改築を第一に進め、同時に一貫教育の充実に向けての学内の体制を整えていくことになった。

再び小・中建築委員会が持たれ、学園に全学体制の建築委員会を設け、本格的に実施を開始した。

改築もいよいよ〝基本設計〟が出来、学園理事会も財源の手当てをし、さらに全学園関係の団体や組織に呼びかけて、校舎改築に深い理解とご援助を賜るために『建築募金特別委員会』を設置し、第一回の委員会をもって各団体からの意見や企画案などが話し合われた」。

このように、全学園的に小学校校舎改築へ、動き始めたところである。

ゴー！ゴー！明星生フィギアスケートで四位入賞！

二月に、岩手県盛岡市で開催された「第19回全国中学校スケート・アイスホッケー大会」のフィギアスケート女子Bに、本校の八年生が出場した。全国から集まった六十六名の予選を勝ち抜いて、決勝進出。決勝大会では十三名の中から、見事四位入賞を果たした。

中学校マラソン大会



二月二十六日（金）に、都立武蔵野公園で第一回中学校マラソン大会を行った。この大会は七年生から九年生まで同時にスタートし、距離は三㎞。上級生はメンツにかけて、下級生は上級生に負けまいと一生懸命走った。

平成10年度決算

消費収入合計＝十四億九千万円
消費支出合計＝十五億三千万円

生徒数合計＝一千五百七十九名
（小学校＝四百二十八名）
（中学校＝四百七十八名）
（高等学校＝六百七十三名）

平成11年度学園人事

【新任教諭】
（高校英語科）木場　敬子
（小学校）冨田　秀和

【退任教諭】
（高校数学科）加賀谷俊夫（定年退職）
（小学校）百瀬　弘（定年退職）
（高校英語科）大伴　恭一（死亡退職）

【復職教諭】
（高校英語科）奥西　克昌
（高校英語科）大伴　恭一

【国内研修教諭】
（高校社会科）横田　数弘

【産休・育児休職教諭】
（小学校）大越　美穂
（小学校）坂本直穏枝

【産休・育児休職代替教諭】
（小学校）小池由喜江
（小学校）冨平　園子

【休職教諭】
（小学校）飯田　達彦

【休職代替教諭】
（小学校）百瀬　弘

【新任講師】
（高校国語科）西村　謙一
（高校国語科）金井圭太郎
（高校社会科）山路　佳子
（高校社会科）木下　佳恵
（高校数学科）新坂　彩子
（高校数学科）浅井　嘉信
（高校生活科）澁谷　隆子
（小学校美術科）成谷　美加
（小学校美術科）冨平　園子

【退任講師】
（高校国語科）峯村　奈香
（高校社会科）清水　邦彦
（高校英語科）小路永明子
（高校英語科）江口　邦彦
（高校生活科）高橋　克彦
（高校生活科）原　かのこ
（小学校美術科）成谷　美加

【退任職員】
（高校教務・事務）北野ひかり

【理事選任】

成績は、男子の部ではさすが九年生が一位から三位まで独占したが、女子の部では八年生がトップとなり、二位にも七年生が食い込んでいる。

小学校駅伝大会 五年二組が上位独占の快挙！

三月八日（月）、小学校の体育科主催による駅伝大会が、井の頭公園で行われた。この大会には四年生と五年生が参加。男女混成による九名でチームを編成し、クラスや学年対抗というよりも班対抗の駅伝大会である。

結果は、五年二組が一位から三位まで独占する快挙を成し遂げた。

本校生が 第1回高校生新聞社賞受賞

三月に卒業した本校生が、九八年度より制定された「高校新聞社賞・学業部門」において受賞した。この賞は学業に前向きに、自主性と行動力をもって取り組んだ生徒の栄誉を称えるものである。

先輩の受賞は、後輩たちの励みになっていることは間違いないことである。

さようなら 小学校校舎・特別教室棟

七月、小学校校舎改築のために、旧校舎が取り壊されることになった。取り壊しは夏休み期間に行われるため、小学生は新学期を仮設校舎で迎えることになる。

長年子供たちの成長を見守ってきた旧校舎には、在校生も多くの卒業生にも数々の思い出がある。そこで、取り壊される前に、在校生、教師・父母が一体となって数々の校舎へのお別れイベントが行われた。また、『学園報』No.61に、教師、同窓会から旧校舎への思い出が寄せられている。

夏季体験入学

少子化・不況による私立校への入学者減少、周辺私立の共学校化などの影響は、本学園にも及んでいる。その対応策の一環として、高校では昨年度より「夏季体験入学」を実施してきた。

今年度も八月二十四日（火）を中心にホームステイ・チャレンジ（英会話）、バック転に挑戦（体育）、鏡づくり（実験化学）、ホームページ作成（コンピュータ）、版画・塑像（美術）、オペラミュージカル（音楽）の六講座を開いた。この夏季体験入学に参加した中学生は延べ五十八校七十九名であった。

昨年は準備不足で十分な宣伝も出来なかったが、今年はポスターを作成し、要綱とともに各公立中学へ郵送した。そして、一人でも多くの中学生に本学園の高校の大きな特色の一つである多様な選択授業の良さを知ってもらい、同時に本校の教師、在校生、卒業生等と交流できる機会を創ることも考えた。この体験入学は参加した中学生に好評で、本校の雰囲気を感じ取ってくれた感想が多かった。

夏休みといっても行事・補習・クラブ活動等に忙しい教師にとってはたいへんな取り組みだが、受験生にとって「授業」に触れられる唯一の場として、来年度新しいコースが設置できたら良いと思っている。さらに、明星を「何となく自由な学校」だから受験するのではなく、「自由に学べる」「積極的で多様な学ぶ意欲を育てる」場としてアピールしたいと考えている。

・川連　拡子（評議員選出）
・片岡　敬吉（評議員選出）
・菅谷　嘉穂
【常務理事選任】
・市川　昭雄（事務局長）
【評議員選任】
・鈴木　貴之（教職員選出）
【評議員会】
・議　長　栗山美知郎
・副議長　富谷　久子
　一瀬　清
　中神　康博
・議事録署名人　一瀬　清
【退任理事長】
・手塚　光雄（任期満了）
【新任理事長】
・菅谷　嘉穂
【任期満了による理事選任　学識経験者】
・菅谷　嘉穂（重任）
・渡邊　実（重任）
・市川　昭雄（重任）
・木下　武彦（重任）
・安藤　通久（重任）
・出口　一彦（重任）
・上田　八郎（重任）
・現在一名欠員
【常務理事選任】
・理事長　菅谷　嘉穂
・高等学校長　黒川　実
・小・中学校長　和田　武久
・事務局長　市川　昭雄
・広報・渉外担当　安藤　通久

2000 平成12年

●学校の主な出来事
・5月15日　創立記念日
・7月17日～8月8日　高校豪州研修
・7月26日～28日　高校体験入学
・7月　全校統一ホームページ開設 http://www.myoiogakuen.ed.jp/
・8月31日　小・中学校新校舎引渡し式
・9月1日～3日　小・中学校新校舎へ引っ越し
・9月15日～27日　高校インターナショナル・ウィーク

◎学校定例行事
☆1月4日～7日　中学校スキー教室
☆2月8日　高校第36回音楽祭
☆3月5日　小学校学習発表会
☆5月17日～19日　5年生伊豆大島見学旅行
☆6月2日～3日　高校球技大会
☆6月26日～30日　9年生沖縄修学旅行
☆7月18日～28日　4年、5年、6年生夏季行事（千倉寮）
☆7月21日～23日　7年生八ヶ岳登山
☆7月25日～8月25日　8年生グループ別行事（谷浜、歴史体験、酪農体験、裏磐梯キャンプ）
☆9月23日～24日　高校明星祭（テーマ：I×明星＝∞－新☆自己発見）
☆10月1日　小・中学校運動会
☆10月4日～6日　6年生奈良修学旅行
☆10月28日　小・中学校公開研究会
☆11月22日　高校マラソン大会

菅谷嘉穂新理事長就任 組織力で難関突破！



去る十二月三日の理事会において、手塚光雄理事長の任期満了に伴い退任が承認され、菅谷嘉穂新理事長が選任された。前理事長は理事時代から数えて二十年間、本学園の発展に尽力されてきている。

菅谷新理事長は就任にあたって、個人の力には限りがあるため、大きな力を発揮して問題を迅速に解決するためには組織力が必要であり、その組織力を最大限に引き出すものは協調の精神だと強調していた。そして「本学園の建学の精神をよしとし、それを中心に動いているご関係の皆さんが協調の精神を持って突き進めない筈はないことを信じて、これから皆さんと一緒に明星のために努力したい」と決意を述べている。

平成十二年度重点目標設定

菅谷嘉穂理事長は新年度を迎え、次のように述べた。

「バブル経済崩壊により長期化する景気低迷、そして少子化傾向が強まる中での私学経営は緊迫感が強いられている。私学の存在価値は、独自の『特殊性』があること。つまり、個性がなければいずれ人は集まらなくなる。従って、その『特殊性』は顕著なものでなければならない。

幸い、本学園には先人が残した優れた『建学の精神』という『特殊性』がある。これは今後とも本学園の誇りとして、その時代時代で磨き、後世に正しく伝えなければならないものである。しかし、現在はそれだけでは本学園の『特殊性』が保てない状況になってきた。なぜならば、その建学の精神が普遍化し、本学園のそれが目立たなくなってきつつあるからである。

そこで、今こそ『建学の精神』の礎の上に立ち、さらに幾つかの『特殊性』を築き上げることが必要な時期であり、それこそが『明星の建学の精神』が更なる脚光を浴びることになる」。

建学の精神に立脚した新たな『特殊性』を築くために、本年は次のような重点目標を掲げて行動することになった。

平成十二年度重点目標

一、21世紀学園構想の肉付けと推進
①小学校校舎・特別教室棟建築の無事完工
②六・六制の推進
③教育方針の検討と具体化
二、中・長期財政見通しの再検討
三、建築募金の推進
四、児童・生徒の定員確保

小学校校舎・特別教室棟竣工

八月三十一日（木）、建築施工関係業者から、施主である本学園に新築なった小学校校舎・特別教室棟の引き渡しが行われた。明星学園創立七十周年記念事業の一つとして立案された同建設計画が、多くの関係者の協力と努力によって完成をみたのである。

新校舎・特別教室棟には本学園の教育方針・思想が織りこまれ、子供たちが学びやすい環境づくりの実現、シックスクールをはじめとした健康問題へ

平成11年度決算

消費収入合計＝十六億九百万円
消費支出合計＝十七億二千三百万円
生徒数合計＝一千五百九十七名
（小学校＝四百三十名）
（中学校＝四百七十八名）
（高等学校＝六百八十九名）

平成12年度学園人事

【新任教諭】
（小学校）川松　泰美
（小学校）前沢　優
（中学校養護科）小池由喜江
（高校数学科）新坂　彩子

【退任教諭】
（小学校）飯田　達彦（死亡退職）
（小学校）坂本　英治（自己都合）
（小学校）百瀬　弘（契約期間満了）
（中学校）杉田　妙子（自己都合）

【復職教諭】
（小学校）大越　美穂
（高校社会科）横田　数弘
（小学校）坂本直穂枝

【産休・育児休職教諭】
（中学校社会科）土器屋真理子

【代替教諭】
（小学校）平田　紀子

【産休・育児休職代替教諭】
（中学校社会科）今井　久仁

【新任講師】
（高校数学科）西村　大路
（高校英語科）小松　香織
（高校生活科）植田真理子
（小学校）江川多喜雄
（高校体育科）加藤　耕己

【退任講師】
（高校社会科）山路　佳子
（高校生活科）平尾　計子
（小学校）冨平　園子（契約期間満了）

【監事就任】
・一法師信武
・森　武夫

【監事退任】
・福田　眞也
・田中　一水

【新任事務職員】
・村山　義浩


中央等棟２階普通教室

の対応、学園としての社会的責任への対応といった数々の課題をクリアしながら建築が進められた。特に、揮発性化学物質などの空気汚染物質により発症するシックスクールという新しい健康問題への対応は、専門機関から高い評価を得ることができた。

新小学校校舎・特別教室棟竣工式

十一月二日（金）、新校舎の竣工式典と校舎の披露、祝賀会が執り行われた。式典は午後一時から関係者のみで行われた。式典は市川事務局長の司会で進められ、菅谷理事長の式辞の後、設計会社と施工会社に感謝状と記念品を贈呈した。

午後一時三十分から招待者と一緒になって新校舎の披露を行い、設計者から建物の工夫などが説明された。当日は子供たちの授業を実際に見学できた。校舎披露を含めて現在の授業風景を見学した卒業生は、かつての自分の通学時を思い出してか、感無量の面持ちであった。

祝賀会は当初野外パーティーを企画していたが、生憎の雨模様で急遽「イチョウのホール」で開催となったが、会場に入りきれない参加者が続出したため廊下にまでテーブルが設置された。祝賀会では来賓の東京私立初等学校協会の長谷川良昭会長より、本学園が教育に果たしてきた役割とその功績、今回の画期的な校舎建築とその先進性について丁重なご挨拶をいただいた。

午後四時からは、授業やそれぞれの担当部署の役割を終えた教職員が集合して、新校舎の竣工を皆でお祝いした。

旧校舎写真額の除幕式と並河萬里氏の講演

十一月十七日（金）、旧小学校校舎写真額の除幕式と並河萬里氏による子供たちへの講演が行われた。同氏は本学園卒業生であり、世界的に著名な写真家でもある。

旧校舎の写真額は、解体される前にその姿を記録にとどめようと並河氏に依頼したところ、快諾いただいて実現したもの。また、同氏は当日、世界遺産として評価を受けている〝シルクロード〟の巨大オリジナル・プリントを本学園に寄贈してくれた。

以前、同氏は高校で講演を行い、生徒に大好評であった。今回は「自分で目標を持ち、それに真剣に取り組んでいくこと」の大切さを、ご自分の体験を通じて子供たちに語りかけた。

除幕式は菅谷理事長をはじめ和田校長、ＰＴＡ会長、後援会会長、理事、評議員、教職員、そして生徒などたくさんの人たちが参加する中で行われた。並河氏から渡された額の銘板には、後輩たちへの祈りがあった。

『大地の子らよ　その根をはれ』

青少年作文コンクールで優秀賞受賞

三鷹国際交流協会では、設立十周年を記念して「青少年作文コンクール」を企画し、全国から青少年の国際意識や国際交流への考え方を募った。

同コンクールに本校の十一年生が自らの海外留学体験を「この夏、私の体験した出逢い」と題して応募し、見事優秀賞を獲得し、表彰された。

中学校夏季行事報告

今年の八年生の夏季行事は「体験学習」という位置付けで、昨年に引き続きコース別の選択必修とした。選択制にした目的は、生徒自らが主体的に行事に参加し、より積極的に関わってもらうこと。

今年は「歴史体験」「穂高岳登山」「式根島」「田舎体験」「裏磐梯キャンプ」の五コース。しかし、穂高岳登山は希望者が少なく、しかたなく他の四コースで行事を実施したが、式根島コースは地震の多発により場所の変更を余儀なくされ、新潟の谷浜で振り替え実施することになった。

このような予想外のスタートであったが、生徒たちは皆予想以上に積極的に取り組み、それぞれに良い体験をしたようである。

自分だけの写本『義経記』をつくる


８年生国語『義経記』
（内容解説 本文11～12ページ）

八年生は二学期の国語の授業で、新しい体験をした。古典の教材『義経記』を学習した後、本文を筆で和紙に書写し、それを和綴じで製本して、自分だけの写本を作り上げたのである。

写本は、一つの文化体験である。ヨーロッパ世界よりも早く、平安・鎌倉時代に日本では物語が書かれ、貴族や僧侶の間で読まれていた。しかし、当時は印刷技術がないので、初めは元本を借りてそれを筆で書き写し、綴じて本に装丁した上で自分の図書として愛読していた。

生徒は写本の製作過程を追体験することで、当時の書物文化に触れることが出来た。今回は一学級だけであったが、次は学年全てのクラスで行うことを考えている。

2001 平成13年

●学校の主な出来事
・5月15日　創立記念日
・7月17日～8月8日　高校豪州研修
・8月22日～25日　高校体験入学

◎学校定例行事
☆1月4日～7日　中学校スキー教室
☆2月7日　高校第37回音楽祭
☆3月4日　小学校学習発表会
☆5月16日～18日　5年生伊豆大島見学旅行
☆6月1日～2日　高校球技大会
☆7月17日～8月2日　8年生グループ別行事（山里体験、キャンプ・海体験、釣り旅行、甲斐駒ケ岳登山）
☆7月19日～28日　4年、5年、6年生夏季行事（千倉・矢原荘）
☆7月19日～28日　7年生八ヶ岳登山
☆9月22日～23日　高校明星祭
☆9月23日　小・中学校運動会〈テーマ：「楽」～明星らしさ～〉
☆10月1日～5日　9年生五島列島修学旅行
☆10月10日～12日　6年生黒部修学旅行
☆10月27日　小・中学校公開研究会
☆11月22日　高校マラソン大会

練習の成果を発揮 小学校学習発表会



三月四日（日）に小学校の学習発表会を行った。今年も一年生から四年生は学年合同の演劇を、五年生と六年生はクラスごとに劇を発表した。

発表会当日は生憎の雨模様。体育館の屋根を激しく叩く雨音が、館内に大きく響き渡るほど。しかし、子供たちはその雨音にも負けず、今まで練習してきた成果を思う存分発揮していた。

中学校8年生 グループ研究発表

一月十二日（金）、八年生は二校時から四校時にかけて、大勢の父母が同席の元でグループ研究発表会を行った。これは、五年前に始まった九年生卒業論文の予行演習という位置付けで三年前に初めて行い、今回で二回目である。

今回のグループ研究は、各自が題材の中から希望のテーマを選び、同じテーマを選んだ者同士でグループをつくって研究を進めていった。この行事の目的の一つに、グループ研究を通じていつもとは違う人間関係を経験してもらうこともあったのである。

行事はじっくり研究することと、これを通じて人間的にも成長できるようにと、研究期間を四月から十二月いっぱいとってスタートした。この間にさまざまな問題点や反省点が浮かび上がってきたが、グループ研究はまだ始まったばかりだ。問題点を解決できれば創造的な活動になる可能性をもった行事であると言える。

「爆発と創造」 高等学校第37回音楽祭

二月七日（水）、『爆発と創造』をスローガンとした高校の「第三十七回音楽祭」が、調布グリーンホールで開催された。

例年のように、生徒は曲の選択からパートの音取り、衣装の工夫などと、一つの合唱を全くのゼロから組み立て完成までに導く作業に、さまざまな困難に立ち向かってきた。しかし、音楽祭が近づくにつれて生徒にまとまりが生まれ、練習に熱を帯びていった。

その結果、定員千三百人という広いホールに響き渡った音楽は、まさにスローガンどおりで、教師や来場者の皆から盛んな拍手を受けることが出来た。他校にも音楽祭はあるが、衣装やリズム取り、ピアノ以外の伴奏・英訳などの工夫をして「自分たちの音楽を作ろう」という意図が見える〝自由〟があるのは、きっと明星学園だけであろう。

平成12年度決算

消費収入合計＝十五億四千七百万円
消費支出合計＝十六億六千三百万円
生徒数合計＝一千六百四名
（小学校＝四百二十八名）
（中学校＝四百六十六名）
（高等学校＝七百十名）

平成13年度学園人事

【校長選任】
（高等学校）黒川　実
（小・中学校）和田　武久

【教頭選任】
（高等学校）横田　逸郎
（小・中学校）一瀬　清

【新任教諭】
（小学校養護科）秋山　斉
（中学校養護科）植村三奈子

【退任教諭】
（小学校）大越　美穂（自己都合）
（中学校）小池由喜江（自己都合）
（高校国語科）笠倉　恵子（自己都合）
（中学校社会科）今井　久仁（契約終了）

【復職教諭】
（中学校社会科）土器屋真理子

【新任講師】
（中学校美術科）冨平　園子
（高校生活科）中村千賀子
（高校国語科）深津謙一郎
（高校国語科）中野　謙一
（高校数学科）壽崎かすみ
（高校英語科）南　裕希子
（高校数学科）石川　悦也

【退任講師】
（高校生活科）平　好子
（高校社会科）丸　重俊
（高校国語科）内藤　哲彦
（高校数学科）西村　大路
（高校国語科）金井圭太郎
（高校英語科）小松　香織
（高校数学科）壽崎かすみ

【事務職員異動】
（高校→法人）杉田　和彦
（法人→高校）村山　義浩

【理事選任】
・川連　拡子（評議員選出）
・繁下　和雄（評議員選出）

【評議員の選任】
・議　長　栗山美知郎
・副議長　子安　次郎
　　一瀬　清

三鷹市と災害時避難所としての施設利用に関する協定を締結

七月二日、本学園は三鷹市との間で災害時の避難所等施設利用に関する協定書および覚書の調印式が、三鷹市役所において菅谷嘉穂理事長と安田養次郎市長の間で行われた。

井の頭地区は都内有数の住宅密集地区でありながらも、井の頭公園を除くとオープンスペースが少なく、避難所となる公立学校施設は第五小一校のみで、防災対策上たいへん厳しい地域である。

地域に開かれた学校づくりを目指している本学園は、小学校校舎建て替えを機に、災害時の避難場所としての施設利用を市に申し入れており、このほど協定が実現した。今後も本学園では、機会あるごとに地域貢献を推進していく考えでいる。

明星学園に行こう 中学校体験入学

本学園の中学校では三年前から、外部の小学六年生を対象にした「体験入学」を行っている。スケジュールは朝の会から始まり、授業を三時間受け、帰りの会で終わるという、ちょうど中学校の水曜日を体験する感じになる。

今年は六月二十三日、八月二十五日、十一月二十三日の三回実施した。わずか半日の体験であるが、少しでも明星学園の雰囲気、授業の雰囲気、教師たちの個性を感じてもらうために、今後も体験入学を続けていく。

高等学校インターナショナルディ ——在日外国人との交流

九月二十日（木）、本学園の高校ではインターナショナルディとして、在日外国人の方々を講師に招き、授業をしてもらった。この企画の基本コンセプトは①在日外国人と日本語で交流を図る。②優れた能力を持つ在留外国人と交流を図ることで、外国人に対する認識を新たにする、③日本人が普段知る機会が少ない諸外国に対する知識を得るということである。実際は①十年生は外国人に自国紹介の授業をしてもらう、②十一年、十二年生はシンポジウム形式で講演・質疑をする形で行った。

今回参加していただいた講師は中国五名、韓国三名、タイ・インドネシア・バングラディシュ・スリランカ各一名であった。講師の方々の年齢は多岐に渡り、民族衣装で授業したり、民族楽器を演奏してくれた人もいた。また、米国同時テロ事件の後ということもあり、モスレムの方の話は生徒たちの興味をひいたようであった。

今回の企画は講師の方々に喜ばれ、生徒への事後アンケートも好評であったので、今後もより充実した形で継続していくことを考えている。

電車の時刻表並みタイムスケジュール 九年生 五島列島福江島修学旅行

今年度九年生の修学旅行は五島列島福江島。まず、生徒による修学旅行実行委員会をスタートさせ、福江島はどんな所で、どのような体験が出来るかを調べ、役割分担して「修学旅行ニュース」を発行した。このニュースを資料に行動をともにするグループを作り、グループ行動のプランを作成した。

各グループが作った行動プランに基づいて、同じ体験の人数や時間調整、順序良く島内をバス移動できるように体験の順番変更などの作業を繰り返した。その結果、出来上がったスケジュール表は、まるで電車の時刻表のようであった。しかし、大きなトラブルもなく、生徒たちは思い通りの体験ができたようである。

・議事録署名人　中神　康博
　　一瀬　清

国際交流 派遣留学制度発足

本学園の高校では、毎年五～十人くらいの生徒が海外留学をしている。また、今年度より学校独自の「派遣留学制度」を設け、豪州ブリスベン郊外のメイリーマウント・カレッジと独ベルリンのカミーユ・クローデル高校の二校と留学生の交換を開始した。

留学生の受け入れについては国際交流組織のＡＦＳやＡＹＳＡ、またはロータリ・クラブを通じて依頼があった場合にも積極的に受け入れており、年間二～五名程度の留学生が在学している。いずれも優秀な生徒なので、本校生にも良い影響を与えている。

鉄道研究部 全国旅して電車図鑑発行

本校の鉄道研究部では、二冊の電車図鑑を発行した。一冊目は東京周辺の電車をすべて掲載した『東京の電車図鑑』、続いて「青春18キップ」を活用して、全国の私鉄電車を紹介した『日本の私鉄車両図鑑２０００』である。

2002
平成14年

●学校の主な出来事
・5月15日　創立記念日
・7月17日～8月8日　高校豪州短期留学
◎学校定例行事
☆1月4日～7日　中学校スキー教室
☆2月7日　高校第38回音楽祭
☆2月23日　中学校合唱発表会
☆3月3日　小学校学習発表会
☆5月22日～24日　5年生伊豆大島見学旅行
☆5月31日～6月1日　高校球技大会
☆7月8日～12日　9年生尾道・四国修学旅行
☆7月17日～8月1日　8年生グループ別行事（尾瀬、白神山地、妻良、戸田、妙高登山）
☆7月18日～20日　7年生八ヶ岳登山
☆7月19日～28日　4年、5年、6年生夏季行事（千倉・矢原荘）
☆9月7日～8日　高校明星祭（テーマ：『輪』～ミンナシダイ?!ジブンシダイ!!）
☆9月22日　小・中学校運動会
☆10月9日～11日　6年生奈良修学旅行
☆10月26日　小・中学校公開研究会
☆11月22日　高校マラソン大会

小学校夏季行事 5年生鴨川シーワールド ナイトツアー

小学校夏季行事は、四年生は千倉での磯遊び、六年生はコース別で海以外が中心になるような行事が例年行われている。今年の五年生も他学年に負けない魅力ある行事ということで、鴨川シーワールドでのフィールドワークが計画された。

鴨川シーワールドはシャチのショーやマンボウの飼育で有名であるが、他の海獣類や魚類の展示にも力を入れており、小学生の学習活動に適している。ちょうど五年生は後半に「動物と卵」、六年生の後半に「動物の食べ物」と、動物学習が始まる。実際に生きた動物を目にし、五感を使って観察することは良い経験となり、子供たちが動物へ興味を広げる良い機会である。

実際には「昼と夜の動物の活動の違い」をテーマにグループ活動をした。今回のフィールドワークの楽しみは、やはり夜の観察。夜のシーワールドは暗く静かで、昼間とは全く様子が違っている。飼育員の海獣や魚類の夜の形態の話に、子供たちは熱心に耳を傾けていた。

二〇〇三年度児童・生徒募集

長引く不況や少子化により、私学への応募者がますます減少する傾向にある。こうした状況下であっても、しっかりとした教育理念に基づいて父母や子供に信頼される学校づくりをしていくことが重要である。本学園は、十二年一貫教育をより充実したものとするために、一層の努力を重ねていく決意である。

この方針のもと、「二〇〇三年度児童・生徒募集要項」が発表されている。本学園の小・中・高校がアピールしている特色を紹介してみよう。

【小学校】

新校舎の池も落ち着いた佇まいになってきた。睡蓮や蒲の間を数え切れないほどのメダカが泳いでいる。また、池の中にはイトトンボやアカトンボのヤゴがカナダモにつかまって、獲物を狙っている様子が見える。休み時間は、生き物を探す子供たちでいっぱいだ。

明星の子供たちは勉強でも元気いっぱい。中でも、新しい言葉を全身で体験する英語の時間は、子供たちが大好きな授業の一つである。ネイティブの先生たちとのT・Tに加え、学園にきている留学生たちが授業を盛り上げてくれるので、子供たちは英語の時間を楽しみにしているのである。

☆推薦入試制度が二年目を迎える。

【中学校】

教科の授業は男女共修である。木工では女子もノミを握り、工芸では男子も織物を織る。

三年になると、全員の卒業研究が課題となる。テーマは自分で探して決めるが、段取りは担当の先生と相談しながら進める。卒業研究の成果は論文や作品、あるいは身体を使った表現として発表される。

卒業研究で取り組んだテーマにはその時限りのものもあるが、最近は引き続き関心を持ち続けて、自分の進路仕事の選択に生かしていく人も出てきている。

☆今年から帰国生入試が始まる。

【高等学校】

国際交流が活発で、海外に留学する生徒、海外からの留学生も徐々に増えてきている。本校独自に行っている派遣交換留学制度（豪州一名、独一名）も軌道に乗ってきた。

現在カリキュラム改訂を検討中で、第二外国語の選択講座を増やし、従来の中国語、独語に加えてタイ語、朝鮮語も開講する準備を進めている。

☆A推薦（得意科目推薦）方式が二年

平成13年度決算

消費収入合計＝十五億一千二百万円
消費支出合計＝十六億五千二百万円

生徒数合計＝一千五百八十名
（小学校＝四百二十六名）
（中学校＝四百六十八名）
（高等学校＝六百八十六名）

平成14年度学園人事

【新任教諭】
（小学校英語科）入江　潤
（高校国語科）中井　智子
（高校英語科）姜　福順

【退任教諭】
（高校英語科）角谷　薫（自己都合）
（小学校）平田　紀子（契約満了）

【国内研修教諭】
（高校国語科）村田　修二

【新任講師】
（高校社会科）湊　道子
（高校数学科）石井　啓
（高校数学科）菅原ちあき
（高校美術科）横田　亜弓
（高校美術科）大久保亜美
（高校情報科）萩原　萌
（高校英語科）黒田　晶子
（高校美術科）大竹　浩介（兼中学）
（高校独語科）Rosmarie Nakanishi（派遣）
Joel Carda（派遣）
Sharron Rosalind Mackawa（派遣）

【退任講師】
（小学校理科）江川多喜雄
（中学校美術科）冨平　園子
（高校美術科）古屋　剛
（高校社会科）木下　佳恵
（高校英語科）南　裕希子
（高校数学科）石川　悦也

【退任兼務職員】
（中学・高校）杉原　ヒロ
（小学校）佐藤ちよみ

【所属変更】
（中学校→小学校）森村　卓

（小学校英語科）
（小学校英語科）

新評議員名簿

【寄付行為第12条第1項第1号　校長】
・黒川　實（高等学校長）
・和田　武久（小・中学校長）

【寄付行為第12条第1項第2号　教職員】
・一瀬　清（小学校）
・大野　映子（小学校）

目を迎える。自分の得意科目を生かして高校に入れば、楽しくて充実した高校生活が待っている。

アフリカ教育視察団来校

九月十一日（水）、アフリカ十四カ国（ウガンダ、エジプト、エチオピア、エリトリア、ガーナ、ケニア、ザンビア、スワジランド、セイシェル、タンザニア、ナミビア、ボツワナ、レソト、南アフリカ）、二十一名の教師からなる教育視察団が本学園高校に来校した。

教育視察団は日本政府のODAの一環で来日したもので、途上国の未来を担う二十～三十代の青年たちに、日本の現状を体験してもらうことが趣旨である。彼らは日本で十日間のハードな日程をこなし、その中には小学校・中学校・大学・高等専門学校および自動車産業等の訪問なども含まれており、本校が日本の高等学校の代表として訪問校に選ばれた。

彼らは全員教師（理科・数学）であり、主に中等教育に従事する青年たちなので、興味の対象は早くから明星学園に向けられていた。そして皆は現場主義なので、教育現場が見たいのだ。自分たちの現場に応用できるカリキュラム、分かりやすくて使いやすいテキスト、それらを駆使して教壇に立つ日本人教師、そこで学ぶ子供たちの感性を見たいのである。

今回のアフリカ教育視察団の受け入れで、逆に本校の教師と生徒はいろいろ刺激を受けた。生徒の中にはアフリカ学習旅行へ行きたいと言い出す子供たちがいる。生徒たちの距離感覚は、その国と付き合う気があるか無いかという精神的なものに過ぎないのかも知れない。

国際交流は新しい世界への扉である。扉の向こうには正しいものばかりではない。移り行く国際情勢と、次々と流れ込む情報を見極め、何が最良かを選択する力が子供たちには必要である。せめて、本学園だけはいつでも一歩先へ出ていなければならない。それがわれわれの「生きる術」であることを、つくづく感じたアフリカ教育視察団の来校であった。

小・中学校二〇〇二年度公開研究会報告

十月二十六日（土）に小・中学校で公開研究会が行われた。本学園では教育課程を独自に編成し、自主的に教材を開発しながら教育の内容と方法の研究を積み重ねている。教育実践が上からの管理や押し付けで行われるのではなく、自由に実践できる職場であるためには常にその内容が公開され、批判・検討される必要がある。この日の研究会は一年前、時には数年という時間をかけて研究テーマをしぼり、集団的に検討されたものが発表される。

授業の内容や方法は、研究が深まるほど中身が精選されてより良い方法で行えるようになっていく。例えば、今まで十時間かかったものが三時間で出来るようになることもある。また、ある学年では従来のレベルよりも、より高いレベルで要求できるようになったりもする。

研究課題には尽きることが無く、いつも新しい発見がある。この研究の積み重ねが日々の授業をより良くしていく最良の方法である。今後も日々の研究の集大成として公開研究会をより良いものに発展させ、その結果が子供たちに良い形で反映出来るように進めたいと考えている。

Welcome to The English World ＝明星小学校



今後、子供たちが生きていく社会では国内外を問わず、英語の運用能力抜きには生活することが難しくなることが予想される。そこで、彼らの将来にわたり、より広い職業的・社会的選択肢を保証するためにも、小学校段階での英語の経験的な学習・活動が必要であろうという考えのもと、本学園では小学校からの英語教育をスタートした。

これからの授業の中でわれわれは、英語の歌やゲームなど、子供たちの年齢に応じた活動を通してさまざまなインタラクションを行いながら、一人一人の推測力や伝達力、音に対する感覚を磨き、柔軟なコミュニケーション能力へつなげていこうと考えている。

新評議員決まる

平成十四年十二月三十一日の任期満了に伴い、別掲の通り新評議員が選出された。新評議員には平成十五年一月一日から平成十六年十二月三十一日までの二年間、学校法人の重要な機関として尽力いただくことになる。

・平野　康弘（中学校）
・河住　貴夫（中学校）
・横田　逸郎（高等学校）
・工藤　一義（高等学校）
・長田　徹（高等学校）
・原田　茂（事務局）

【寄付行為第12条第1項第3号　卒業生】

・田中　祥子（21回生）
・人見　武彦（28回生）
・松浦　恭子（29回生）
・舩山　典彦（29回生）
・遠田　哲宏（29回生）
・栗山美知郎（33回生）
・小林　一雄（35回生）
・富岡　和雄（36回生）

【寄付行為第12条第1項第4号　学識経験者】

・繁下　和雄（国立音大副学長）
・宇井　義典（三鷹第一病院副院長・学校医）
・李　鳳宇（在校生父親）
・子安　次郎（在校生父親）
・小川　秀佳（現PTA会長）
・富谷　久子（後援会副会長）
・藤澤　眞理（玉川学園女子短大助教授）
・村松　真（マイクロソフト・アジア・リミテッド）

2003
平成15年

●学校の主な出来事
・5月15日　創立記念日
・7月5日　中学校体験入学
・7月17日　高校豪州短期留学出発

◎学校定例行事
☆1月4日～7日　中学校スキー教室
☆2月6日　高校第39回音楽祭
☆2月24日　中学校合唱発表会
☆2月26日　中学校マラソン大会
☆3月2日　小学校学習発表会
☆3月12日　4年・5年生駅伝大会
☆5月21日～23日　5年生伊豆大島見学旅行
☆5月30日～31日　高校球技大会
☆7月20日～21日　高校体験入学
☆7月22日　7年生八ヶ岳登山
☆7月22日～30日　4年、5年、6年生夏季行事（千倉・矢原荘）
☆7月22日～30日　8年生の夏季行事は登山・陶芸・歴史文化・英語キャンプ声楽・遠泳・染物・紙つくり・泥遊び・ガラス工芸・土いじり・コンピュータなど
☆8月23日～25日　中学校体験入学
☆9月6日～7日　高校明星祭（テーマ：彩―SAI―）
☆9月21日　小・中学校運動会
☆9月29日～10月3日　9年生沖縄修学旅行
☆10月8日～10日　6年生奈良修学旅行
☆10月25日　小・中学校公開研究会
☆11月1日～8日　高校インターナショナル・ウィーク
☆11月20日　高校マラソン大会
☆11月22日　中学校体験入学
☆12月23日　中学校体験入学

ニューフロンティア精神

本学園は経済不況、少子化傾向が強まる状況下にあっても、明星学園特色づくりの中核である中高一貫、六・六制確立に向けて全学園的に努力している。その基盤となるのが児童・生徒の定員確保だ。そこでポイントとなるのは良い評判を得ることである。悪い風評は学園の評判を落とし、人が集まらなくなる要因になる。

菅谷理事長は年頭所感の中で躾の問題を取り上げている。

「人として生きる上での躾や、自由を履き違えての躾の問題がありますが、要は〝明星は自由な学校で躾もきちんとしている〟と言われ続けられるように、全学園的な努力をしなければなりません。全学園的というのは教職員や父母、そして学園関係者全てという意味であり、そうした当事者全員が襟を正してこれに臨むことが肝要です」と。

続けて故J・F・ケネディ米大統領の〝国が国民のために何をしてくれるかを問う時ではなく、国民が国のために何が出来るかを問う時だ〟という就任演説を引用して、「正に、今や各自が何をすべきか考える時」だということを強調していた。

小学校（三年総合）で、野草マップづくり

本学園近くには井の頭公園、玉川上水があって自然環境に恵まれている。特に玉川上水は野草の宝庫で、四季折々野草が花を咲かせている。そこで、一、二年生の時の散歩でストックした知識を使って、三年生で野草マップづくりに挑戦した。

野草マップづくりの狙いは①野草の特徴を捉え、野草の名前を知る、②見つけた野草を白地図に書き込み、野草マップをつくる、③同じ場所や同じ野草が季節によってどのように移り変わるかを知る、の三点である。

野草の名前と特徴を覚えるために、「野草カルタ」取りをしたり、野草を白地図に書き込んだり、子供たちは面白がって野草マップをつくっていた。近くに多くの野草があることを理解したようである。

中学校 8年生夏季体験セミナー

八年生は一学期からグループ研究を始め、この夏はその研究をさらに追求することにして夏季体験セミナーを行った。十三のグループ名を紹介する。皆それなりの成果を上げたようである。

【登山入門】
南アルプスの甲斐駒ケ岳と仙丈岳登山。

【イングリッシュキャンプ】
稲城市の米軍基地内でキャンプ。

【空間図形（多面体）の研究】
準正多面体と呼ばれるものを作り出し、それから法則的なものを帰納的に発見する研究。

【歴史・文化研究入門】
山梨県明野村埋文センターで平林遺跡（縄文中期・曽利式）の発掘調査に参加。



平成14年度決算
消費収入合計＝十五億二千六百万円
消費支出合計＝十六億五千九百万円

生徒数合計＝一千五百七十四名
（小学校＝四百二十八名）
（中学校＝四百五十三名）
（高等学校＝六百九十三名）

平成15年度学園人事

【新任教諭】
（小学校）　中島　剛
（高校社会科）　簗　賢治
【退任教諭】
（高校　科）　鈴木　雅子（定年退職）
（高校社会科）　横田　数弘（自己都合）
【新任講師】
（小・中英語科）　Sharron Maekawa
（小・中英語科）　Joel Carda
（高校英語科）　佐古　力
（高校音楽科）　山崎　聡
（高校理科）　薬師大五郎
（高校国語科）　丸山愉佳子
（高校数学科）　井上奈津子
（高校生活科）　山本　幸恵
（高校英語科）　黒川　路子
【退任講師】
（高校英語科）　井部　高志
（高校英語科）　Taylor Rosalion Patricia
（高校生活科）　澁谷　隆子
（高校生活科）　鈴木真理子
（高校国語科）　中野　謙一
（高校数学科）　石井　啓
（高校英語科）　黒田　晶子
【退任兼務教諭】
（高校コンピュータ科）　大野　敦史
（高校コンピュータ科）　勝村　和重
【新任理事】
・繁下　和雄（評議員選出）
・舩山　典彦（評議員選出）

【コンピュータネットワークの基礎】
コンピュータネットワークにおけるサーバの働きを研究した。
【ヴォーカルアンサンブル】
講師に遠藤徑子先生を迎えて発声指導からハーモニーの基礎、三部合唱のかなり難しい曲にまで挑戦。
【陶芸】
全員で陶芸、自由製作では各自個別に木工やガラス工芸の作品をつくった。
【旅行～Plan & Do】
自分たちで行き先、活動を計画し、実施した。当日は天候に恵まれなかったが八年生はめげず、楽しむための工夫を随所に発揮していた。
【染め物・紙づくり・泥遊び・ガラス工芸・土いじり】
泥遊びでは土佐漆喰半田壁、大津みがき壁の見本づくりに挑戦。ガラス工芸では吹きガラス、トンボ玉、切子見学や江戸風鈴づくり。土いじりは泥掘りから釉がけまで実習。染め物は草木染めや絹糸を染めて織りを行い、辻が花も実習した。紙づくりでは紙と土で行灯づくり、和紙を作ってうちわや提灯などを作った。

今年も盛り上がった高等学校球技大会

五月三十日、三十一日の二日間、一学期恒例行事の球技大会が行われた。十年生は新しい仲間と、十一年生はクラス替えのため新しいクラスで、十二年生は高校生活最後の行事ということで、各学年共にそれぞれの意味を持ちながら、全ての生徒が一堂に会して協力し合い、競い合いながら激しく、また楽しく二日間を過ごした。
球技大会といっても種目は多彩で、オープニングを兼ねた小運動会的なものも取り入れ、クラス対抗だけではなく全校生徒が楽しめ、交流が深まるような競技が工夫されている。ここ数年は「応援合戦」という形で十年、十一年、十二年の六クラスを縦割りにして、三学年の生徒が協力して応援のパフォーマンスを繰り広げることが、オープニングのメイン種目になっている。
また、この球技大会ではクラスごとの「Tシャツ」づくりが伝統である。このシャツをクラスのユニホームとして、二日間競技を行う。このTシャツはコンクールになっており、素晴らしい出来映えのTシャツに「Tシャツ大賞」が贈られる。
とにかく、高校生の若いエネルギーが存分に発揮された二日間であった。

本学園中学生の美術作品をラフォーレ原宿で展示
――MYOJO美術作品展

夏休み期間の約三週間（八月一日～十八日）、中学生の絵画作品をラフォーレ原宿で展示発表した。これは、偶然本校のHPに掲載されていた『一本のビン』の絵を見た方からの紹介で急遽実現したもので、慌しい状況での作品発表であった。
このような突然の発表であったが、子供たちの作品に寄せられた声は温かいものが多く、中には「一人一人の作品がそれぞれに個性があって素晴らしい」「こういう作品を描ける子供たちが育っていることに感動した」という声もあった。
今回の発表を通して、明星学園の子供たちの育て方が一般の方々に少しでも理解されたのではないかと思う。また、本校の子供たちにとっては、少しばかりの誇りと大きな自信が得られたのではないかとも思った展示会であった。

小学校2年生安全教育

小学校では、学年ごとに安全教育に取り組んでいる。二年生は十二月九日（水）に、京王電鉄から関係者をお招きして「交通安全」をテーマに実施した。
今回の安全教育では「駅の利用の仕方」「電車の中でのマナー」などを学んだ。京王電鉄関係者の手作りの絵があり、実演があり、手品ありの一時間で、子供たちは満足の行く時間をすごした。

【新任評議員】
・河住　貴夫（教職員）
・長田　徹（教職員）
・舩山　典彦（卒業生）
・遠田　哲宏（卒業生）
・小林　一雄（卒業生）
・富谷　久子（学識経験者）
・藤澤　眞理（学識経験者）
・村松　真（学識経験者）

【任期満了による理事選任　学識経験者】
・菅谷　嘉穂（重任）
・渡邊　実（重任）
・市川　昭雄（重任）
・安藤　通久（重任）
・出口　一彦（重任）
・土屋　眞弓（重任）
・現在二名欠員

【任期満了による理事退任】
・上田　八郎

【理事長選任】
・菅谷　嘉穂

【常務理事選任】
・理事長　菅谷　嘉穂
・高等学校長　黒川　実
・小・中学校長　和田　武久
・事務局長　市川　昭雄

【次期校長の選任】
・高等学校長　黒川　実
・小・中学校長　和田　武久

2004
平成16年

●学校の主な出来事
- 5月15日　創立記念日
- 7月15日～8月4日　高校豪州短期留学
- 7月20日～31日　高校夏季補習・インターンシップ・ボランティア期間
- 7月19日　高校体験授業
- 8月19日～28日　高校中国・タイ短期留学

◎学校定例行事

☆1月4日～7日　中学校スキー教室
☆2月5日　高校第40回音楽祭
☆2月25日　中学校マラソン大会
☆2月27日　中学校合唱発表会
☆2月29日　小学校学習発表会
☆3月11日　4年・5年生駅伝大会
☆5月19日～21日　5年生伊豆大島見学旅行
☆6月4日～5日　高校球技大会
☆6月26日　中学校体験入学
☆7月5日～9日　9年生沖縄修学旅行
☆7月18日～26日　4年、5年、6年生夏季行事（千倉・矢原荘）
☆7月20日～22日　7年生八ヶ岳登山
☆7月20日～8月20日　8年生グループ別行事（尾瀬、釣り、妙高登山、陶芸）
☆8月27日、28日　中学校体験入学
☆9月23日　小・中学校運動会
☆9月25日～26日　高校明星祭〈テーマ：遊〉

私学はサービス業である

私学経営の基盤は収支バランスの均衡、そのための最低条件が「児童・生徒の定員確保」である。本学園では児童・生徒の募集については、入学広報を中心とした全学園的努力を展開している。

有効な入学広報は、私学として外部に誇示できる内容があってこそ成り立つもの。そこで、学園の総力を挙げて学校の内容をさらに充実させることが第一義となる。しかし、この内容充実が自己満足に陥らず、外部から認められるものでなければならないことは言うまでもない。

「私学はサービス業そのもので、中でも私企業である。市場原理に立てば、経済的自然淘汰の世界である。あらゆる創意工夫を凝らして競争の中で勝ち残っていかなければ、誰も助けてくれない。学校は違うという『学校特殊論』は、もはや通用しない。職業としての教師および関係者の意識の問題である。二十一世紀の私学人は、このようにサービス業に徹することが必要不可欠になる」。

菅谷理事長は年頭所感で、ある教育専門家の論を引用しつつ、関係者全員が経営者意識、当事者意識をもって臨むサービス業の精神こそが、学校の内容を充実させ、新しい特色を生み出すための大きな要素であることを強調している。



明星学園創立80周年記念式典
学園の大転換期、今こそ新しい特色を創り上げよう

五月十五日（土）、明星学園創立八十周年を迎えた。記念式典は午後一時より第二体育館において、ご来賓と多くの学園関係者出席のもと、一瀬清小・中学校教頭の司会で執り行われた。

菅谷嘉穂理事長は、創立八十周年を迎えての決意を次ぎのように式辞で述べている。

「心より思うことは、創立者を含む先人たちの努力により充実し、継続されてきた明星学園を現在の担い手であるわれわれとしてはさらに発展させ、次代に引き継ぐ義務があるということです。われわれは先人たちが築き残してくれた素晴らしい実績をベースとして、さらにその上に時代に即応した新しい特色を創り上げ、その時々の世に対応していくべきだと考えています。それでこそ、明星の建学の精神が新しい時代の中で更なる光を放つものと信じているからです。

創立八十周年に当たり、改めて明星学園の今後の発展のため、皆さんと共に尽力することをお誓いいたします」。

理事長挨拶の後、ご来賓の方々より当学園への激励を含めた温かい祝辞をいただいた。またアンサンブル部、音楽部共演によるベートーベンの交響曲第九番と、和太鼓部の祝賀演奏が披露された。

引き続き、横田逸郎高校教頭の司会で祝宴が午後二時より行われたが、お祝いに駆けつけてくれた人たちで会場はいっぱいになった。

本学園ではこうした皆様の期待に応えるために、創立八十周年を期して、建学の精神・明星教育の原点を再確認すると同時に、学園発展のための変革、新しい特色の創出へ決意を新たにした。

平成16年度学園人事

【新任教諭】
（小学校司書教諭）冨永　綾
（中学校社会科）比嘉ちひろ
（高校英語科）阿部　芳子
（高校国語科）平澤　孝洋

【退任教諭】
（小学校）野口　保子（定年退職）
（中学校社会科）古川　博資（定年退職）
（高校英語科）溝口　悦子（定年退職）

【新任講師】
（小学校英語科）James Levick
（高校国語科）定方美恵子
（高校国語科）西崎美登利
（高校国語科）吉川真理子
（高校社会科）繁田　真爾
（高校数学科）佐藤　大介
（高校理科）今橋　健彦
（高校理科）淡路　勤太
（高校情報科）勝間田清一
（高校体育科）細井　卓磨
（高校英語科）大矢　洋子
（高校外国語科）船見なつみ

【退任講師】
（小・中英語科）Joel Carda
（高校国語科）西村　謙一
（高校数学科）浅井　嘉信
（高校英語科）佐古　力
（高校体育科）村田美津子
（高校美術科）大竹　浩介

【新任兼務教諭】
（高校コンピューター科）藤本　久登
（高校コンピューター科）小池　公二

【退任兼務教諭】
（高校コンピューター科）吉田　宏
（高校コンピューター科）尾口　領
（高校コンピューター科）小倉　秀太

■学校法人明星学園創立80周年記念座談会ＰＡＲＴⅡ

この10年の回顧と未来展望
――明星学園の国際交流と英語教育

「国際交流」は教育界に限らず、国際化の大波が押し寄せているさまざまな産業界では今日的な課題である。本学園でも国際交流プロジェクトを立ち上げ、生徒の短期留学や教師の海外研修などに努め、最近では交換留学制度を設けて、生徒の長期留学にも力を入れている。

そこで、実際に本学園の国際交流プロジェクトに携わっている教職員の方々に「この十年の回顧と未来展望――国際交流と英語教育」をテーマに、明星学園の国際交流の実情や成果、課題、今後の進むべき方向、それぞれの抱負などについて話し合っていただいた。

■出席者
奥西克昌（高校英語科）
伊勢　誠（小学校・高校英語科）
ジェレミー・エドワーズ（高校英語科）
姫野英二（中学校英語科）
入江　潤（小学校英語科）

■司　会
黒川　実高等学校校長



奥西克昌先生

国際交流の立ち上げと姉妹校提携へ

黒川　明星学園では、高校が本格的に国際交流に取り組んでから十二年になります。現在、われわれは二〇〇六年度の学校改革に向けて、六・六制十二年一貫教育の準備をしている真っ最中です。これに先立って中学と高校の英語科の先生方、そして小学校の先生方が協力して「小学校の英語教育」を立ち上げ、その後さまざまな形で協力関係ができています。

本日はこの十年間の国際交流、英語教育を振り返っていただくとともに、さらに今後の展望などを話し合っていただきます。それでは、最初に豪州の高校と姉妹校提携を結び、本校の国際交流を立ち上げた奥西先生から、その経緯などのお話をお願いします。

奥西　本校の国際交流の始まりは、一九八八年に豪州パース市へ生徒十数名で行った語学研修でした。これはあくまでも実験的に行ったものなのですが、参加した生徒は豪州の文化や自然に触れて、それなりに成果が見られました。期間は三週間でした。

そこで、翌八九年から学園として旅行会社に依頼して、正式に豪州への語学研修を実施することになりました。

黒川　その頃の語学研修とはどんなものでしたか。

奥西　最初の年は、六十人以上というたいへん多くの生徒が参加しました。コーディネーターと称する現地で採用されたアルバイトの人が、コミュニティセンターのような所で部屋を借り、そこで午前中英語の授業を行いました。午後は旅行会社がチャーターしたバスでそれぞれのグループを回り、全員を乗せて観光です。

黒川　それでは、トラブルなんかもあったでしょう。

奥西　ありました。生徒はもちろん、引率の教師もホームステイでした。旅行会社が全て手配しているのですが、常駐する現地日本人スタッフは一人もいませんでしたから、すべて引率教師が対応しなければなりません。一番困ったのは引率教師が使える車がなく、容易に生徒の様子を見に行くことが出来なかったことです。生徒は六グループに分かれ、パース市内各所に散らばっていました。しかも一グループに引率者が一人ずつ付いているわけではないので、全グループを把握できず本当に困りましたね。トラブルが発生するたびに、路線バスを乗り継いで行ったのを覚えています。

トラブルには生徒に起因するものもありますが、ホストファミリーに原因がある場合もありました。われわれに海外修修の知識がなかったこともあって、海外での語学研修は大変だなと思ったものです。

明星生を現地校の授業に出席させたい

奥西　たまたま私はスワンビュー高校のグループでしたが、トラブルが多いのと生徒の研修体制に疑問を感じて、同校の教師たちと話し合いました。すると旅行会社主催の語学研修では良くないという意見です。この辺からですね、当学園でも可能ならば現地高校と姉妹校提携をして、生徒を現地校の授業に出られるようにする考え方になっていったのは。九〇年頃に姉妹校提携計画が浮上し、実現したのが九二年。どちらも公立校ですが、スワンビュー高校とイースタンヒルズ高校と姉妹校提携に調印しました。

黒川　奥西先生たちは旅行業者主催の語学研修に参加してその欠陥を感じ、自分たちが主体となればもっと有意義な語学研修が出来ると言ってきたので、「ぜひ独自のものを作ろう」と私も言った覚えがあります。それが実って、九二年の春休みに調印することが出来たわけです。

奥西　初めの頃は、日本から行くのは比較的容易でした。当時の日本はバブル期で円高でしたから。しかし、豪州から日本へ来るのはたいへんだったようです。今も続いていますが、向こうに行く生徒はたくさんいるものの、留学生を受け入れてくれる家庭が少ないという問題があり、それは今よりも深刻な問題でした。

伊勢　相手校が公立高校でしたからね。当時と現在の大きな違いは、お付き合いしている海外の学校のほとんどが私立校中心というこ

とです。

黒川　その頃、姉妹校提携という形は意外に少なかったのですか。

伊勢　一九九一年を境にして姉妹校設立ブームというのがあり、どこの私立高校でも形だけにしろ、海外のいろいろな所に姉妹校をつくっていった時代です。当時は現地の校長と日本の校長との調印式が一つの勲章のようなブームになっていました。それで、各地の私立高校の校長室には、各国で行った調印式の写真や契約書が飾られていました。

奥西　私の思いはあくまでも、研修に行く明星生を現地の学校に入れ、授業に出すことでした。そのため提携先が南半球の豪州だったわけです。北半球の国では、日本の夏休み期間は授業をしていませんから。ホームスティだけならどこでもやっていますが、実際の授業に参加させるとなるとなかなか難しい。姉妹校提携後には全部時間割を組んで、二、三人ずついろいろな授業に参加させました。少なくとも午前中は、すべての生徒が授業に出られるようにしました。


伊勢　誠先生

伊勢　当時のオーソドックスなホームスティプログラムは、午前中に英語教育するのですが、どこからか外部の人がやって来て教会などで授業を行い、午後は観光に連れ出し、夜はホストファミリーの家で過ごすといったスケジュール。ですから、学校と交流するという感覚が全くなかったですね。きっと奥西先生もその辺のところで、短期留学でも学校生活を味合わせたいとお考えになり、独自のプログラムを作られたのではないかと思います。

黒川　そういう意味では、現地の学校の授業に出るというのは早かったかも知れないね。授業に出ることでホームスティ先のホストブラザーやホストシスターと、一日中一緒に行動できるようになって良かったと思いました。

奥西　その学校の生徒の家にホームスティしていたので朝一緒に登校することになり、それまでの語学研修とはずいぶん違ったのではないかと思います。

　ホストファミリーとのトラブル対策で言えば、自前なので費用面でも余裕ができ、レンタカーを借りて、何か起こると夜でも直ぐに駆けつけ、トラブルに対応するようにしました。引率した教師は全てのホストファミリーの位置を地図上で把握し、一度はそこを訪問してその家庭の様子を見てくるようにもしました。

　また、留学する前に事前学習で生徒を厳しく指導していました。例えば「絶対にホストファミリーに文句を言ってはならない」などと。生徒の中には、ホストファミリー側に問題があっても、耐えている生徒もいました。そういう場合は、私たちの判断でホストファミリーを変えたこともあります。

短期留学は英語学習意欲の動機付け

黒川　まず、豪州パース市で立ち上げて続けていくわけですが、その間で困ったのは引率者確保の問題ではなかったですか。

伊勢　そうですね、引率してもらえる先生が限定されてしまいましたが、生徒たちの留学への意欲は高かく、参加者が多いという状況でした。引率教員のローテーションに、とても苦労した時代でした。

　旅行会社を通さないということは、こちらが考えている理想の教育を目指せます。しかし、生徒たちの身の回りの生活全てに学園で責任を持つということは、引率教師に対してすごいにエネルギーを求めること。その点、旅行会社がに任せるとその苦労は軽減されます。しかし、あの当時の教師はホストファミリーの訪問から生徒の悩みや食事の世話などまで、全てのことを引き受けていましたね。

黒川　短期留学に参加してくると英語の成績がすごく伸びる生徒が多いということですが、その辺はどうなのでしょうか。

奥西　やはり短期留学は、生徒たちにとってインパクトがある体験です。生徒にとって、最初の頃は英語力がないため、ほんの少しか自分の気持ちを伝えることが出来ない。相手の言うことが分かっても、答えられない自分が悔しいということを、ずいぶん言っていましたね。そういう中で、英語を学ぶ動機付けになっているようです。

　もちろん英語が出来る子にしても、コミュニケーションということで言えば、苦労していました。中には、あまりにも英語が通じな



姫野英二先生

いので、何とかコミュニケーションを図ろうと、ノートと辞書を出して筆談のようなことを始めた生徒がいました。この時は、ホストマザーが「伝えたいことを直接言わずに、紙に書いて渡す。私たちは何か悪いことをしているのか」と心配そうに私のところに言ってきました。明星生にすれば、辞書を引いてでも何とか自分の気持ちを伝えようと、一生懸命コミュニケーションを取ろうとしているのですけどね。ホストファミリーは「ホームシックになっている」と心配されたらしいです。

そういった悔しい思いを抱えて帰ってきて頑張る生徒もいます。その中の一人に八月に帰ってきて、その年の十二月からスワンビュー高校に一年間長期留学した生徒もいます。

黒川　豪州からの留学生にも似たような話があります。その生徒は来日した当時はホームシックにかかったり病気になったりしていたのですが、高校卒業後日本に留学し、大阪の大学に入学しています。

また、留学を経験してずいぶん頑張ってくる生徒がたくさんいます。私が聞いている中に、二年前に豪州で苦労しながら一生懸命授業についていこうと努力した生徒が、そこの友人や教師に認められて、高校三年で留学したのですが、その高校の卒業資格をもらって帰ってきました。その子はダラダラした生徒だったらしいのですが、目覚めて海外へ行き、自分でも驚くくらい努力して帰ってきました。それは大きな自信になったと思います。この出来事は、その州でも初めてといえるほど珍しいことでした。



先日ドイツ留学から帰ってきた生徒には、ドイツで教師と相談して学校中にポスターを貼り、自分が世話になるホストファミリーを募集したというエピソードがあります。そして、応募して来た何組かの家族を自分で面接して、自分に合うところを選んだのです。それだけ積極的に行動するというのは、やはり身に付けた明星学園の「自主自立の精神」が生かされているのではないかと思います。

日本からの留学生の様子はだいたい分かりましたが、豪州から来た生徒はどんな様子でしたか。

伊勢　九二年の姉妹校提携により、九三年の冬に、初めて豪州から二十名の留学生が当学園にやって来ました。しかし、当時はどのように受け入れてよいか分からず、全くの手探り状態でした。

黒川　そこでスキーに連れて行ったり、高尾山に登ったり、軽井沢寮にも行きましたね。

姫野　最初の年は、留学生にお餅を食べさせようと学校の門のところで皆で餅つきをしました。お餅をいっぱい並べたのですが、留学生は誰一人食べなかったですね（笑い）。われわれは必死にやったのですが誰も食べてくれず、最初の年のホストマザーの皆さんは、「こんなに一生懸命やっているのに、彼らは応えてくれない」と言っていましたね。

伊勢　原因は、受け入れ側で要領が分からないため、留学生をお客様扱いしたことです。今は皆さん慣れて、あるがままで良いということが定着しました。しかし、当時はやはりお客様扱いで、変に日本情緒を演出するために、一つ一つのイベントでクタクタになってしまうのです。



ジェルミー・エドワーズ先生

事前学習が大切

黒川　今まで本校の国際交流立ち上げからエピソードなどを話していただきましたが、その後日本経済のバブル崩壊で、豪州の日本語熱が冷めてきました。かつてはどこの学校でも日本語でしたが、インドネシア語などが出てきたりして、私どもの姉妹校でも日本語に生徒が集まらなくなり、とうとう別の学校に代わらざるを得なくなりました。そこで、ゴールドコースト地区に移り、相手校はいろいろ変わりましたが現在も続いているという状況です。

この間、エドワーズ先生に引率などに参加していただき、ずいぶん助かりました。先生にはたびたび引率をお願いしていますか、その頃の感想を聞かせてください。

エドワーズ　初めてお世話になったオールセインツ高はきれいな学校でした。同高は当学園だけではなく、同時に日本からいくつもの高校を受け入れていました。またその学校には明星学園と違って制服があります。明星生は私服なので、大勢の制服姿の生徒に交じってもちょっと目立つ。そのためか、明星生が授業に参加しても、同校の先生方はあまり喜んでいなかったように思います。

奥西　要するに、邪魔だったわけですね。

エドワーズ　職員室では、紅茶を出してくれるやさしいおばさんがいました。しかし、端の方で紅茶を飲んでいても、近くの先生方さえ挨拶してくれません。またモーニングティーといって、二時間目終了後に二十分ほどの休憩があります。授業を終えた先生方が職員室に戻って来ますが、われわれの存在に気づかないというのか、ほとんど無視されていました。

でも、奥西先生が行った文化発表の事前学習は非常に役立ちました。それは、授業に参加する時に日本の文化を、必ず英語で説明することでした。それも口頭で話すだけではなく、絵とか道具などを使いながら紹介するのです。後で同高の留学担当者と話した時「日本からいろいろな学校が来ているけど、明星学園は全然違う」と感心され、私どもは「明星ライジング」と名付けられました。さらに同高では、明星学園の希望を取り入れて、研修対応をして行きたいとも言っていました。そういうことを聞くと、やはり事前学習は重要だと思いました。

しかし、当時の明星生の授業に参加する態度は、あまり良くなかった。例えば、向こうの先生が話しているのに、明星生同士で意見が違ったのか、ケンカ腰で大声を出していたのです。これを契機に、その後の事前学習では文化発表の準備だけでなく、全体的な態度まで厳しく指導するようにしました。そして、留学出発二か月前から現地形式の模擬授業を行い、きちんと授業を受けられないような生徒は留学させないことにしました。これを始めて二年目ですが、事前の態度指導や模擬授業の効果が現れて、生徒の態度が以前とは全然違うものになりましたね。

黒川　文化発表はずっと続けて行っていますね。あれは良い伝統だと思います。こちらから準備して行って、向こうの教室で皆に分かるように英語で話す。あれはなかなか良いものだと思います。発表する彼らも、教室を回って行くうちに工夫も出て、だんだん上手になります。

エドワーズ　また文化発表の事前学習は、生徒が日本文化を勉強する良い機会にもなっています。それまで日本神話とか、物事の由来や歴史などを知らずにいたことを、文化発表をするために改めて勉強することになりますから。

奥西　そこで自分たちの文化を、もう一度見直すわけですね。

伊勢　普段は、自分の国の文化について深く考えることはあまりありませんから。

黒川　留学は、自分の国や文化を見直す良い機会でもあるわけですね。

子どもたちの人生と職業選択の幅を広げる

黒川　話を小学校の英語教育立ち上げに進めます。姫野先生から経緯などをお話ください。

姫野　小学校での英語教育について、具体的に議論されたのは二〇〇〇年の職員会議で、その場で〇二年からスタートすることが決め



黒川　実高等学校長

られました。そこで、私も小学校の英語教育について勉強を始めました。そして、小学校でスタートすると中学校の英語教育も変わる。変わるものなら理想的な方向に進んで欲しいと、自分なりに小学校での英語教育導入を位置付けていました。

小学校から英語教育を行う理由は、一つには世の中の趨勢がありますが、今の子どもたちが大人になった時にそれまで以上に英語は重要性を増していると思われます。職業を選択する時でも英語に馴染みがある無しでは選択幅が違い、プラスになることが考えられます。こういう考え方から小学校一年生から英語教育を始めることになりました。小学校の英語教育を立ち上げることについての骨格案は、〇一年から中学・高校の英語科の中で伊勢先生と私とで作りました。

入江　私が初めて打ち合わせに参加したのは、〇一年の春休みでした。その段階で、小学校の英語科を立ち上げる時の方針を見せていただき、「これはすごく本格的だな」と思ったことを覚えています。

それは姫野先生がおっしゃられたように、目的の中に英語の将来の重要性や職業選択の幅を広げるなど、将来の子どもたちの人生の幅を広げることが明記されていましたから。それは他の学校ではなかなか見ることが出来ないものでした。他校では国際感覚を身につけるとか、国際的な何かと抽象論が多い。それと、中途半端に週一回で始めるのではなく、週二回ということに意気込みを感じました。

姫野　英語教育の時間を二時間取ることには、他教科との関連があります。中学校の英語科の先生方は、週一回ではもしその授業がつぶれた場合二週間も空きが出る。そんな授業はありえないとおしゃっていました。そう言えば、当学園ではどの授業も二時間以上あります。そこで、最低週二回は確保するために他の教科との調整を行ったり、全体の時間数を増やすことなども工夫しました。

黒川　実際に英語教育を始めて、子どもの様子などはいかがですか。

入江　今年で三年目になりますが、毎年子どもに変化があります。一年目は英語やネイティブな先生方に対して物珍しさとがどことなくありました。二年目は物珍しさが薄れ、英語も特別視されず、そこにあって当然という雰囲気になってきました。自然体で教師にも英語にも関われるようになりましたね。三年目の今年はまた少し変化してきました。特に四、五、六年生には英語を言葉として捉える子が増えました。そして言葉として捉えているがゆえに、何か自分の気持ちを言葉で伝えたい、それも英語で言ってみたいという意欲を見せてきました。逆にそういった中から、言葉としての英語が苦手だとか得意だとかといったことも、三年目に入って出て来ました。

伊勢　普通、英語教師というのは中学校と高校だけで教えて来ました。それが、いきなり小学校で本当の子どもである低学年の六歳児に接するというのは、全く新しい世界で戸惑うことばかりでした。しかし驚いたのは、子どもは本当に順応性が早いということ。それで、子どもたちにはずいぶん救われました。本当に真っ白な所に、自分で何かを書いているという実感がありましたので、やって良かったという印象があります。

小学生で持った興味を高校へつなぐ

黒川　小学校に英語教育を導入して三年目で、それぞれの年に変化があったというお話でしたが、それは学年によっても違うのではないですか。一年生が三年生になったのと、三年生が五年生になったのとでは違うと思います。カリキュラムが完成するのは六年後でしたね。一年生から英語を六年間習うと、このレベルになるということを明確に出来るのですか。

入江　そうしなければいけないと思います。

黒川　そうなると、中学校の英語教育も変わるでしょう。小学校で六年間やってきた子と、中学で初めてやる子では全然違いますから。その辺はどうなんでしょうか。

姫野　それも本当に後手後手な感じです。ただ言えるのは、中学校も小学校に遅れること一年で、オーラルコミュニケーションが〇三年からスタートしました。入江先生もおっしゃっていますが、子どもたちの英語に対する抵抗感は少なくなっているように思います。学校で英語を話すことや使うことが、小学生

でもすごく自然な感じです。例えば廊下で会ってネイティブの教師に英語で話しかけたり、時にはわれわれ日本人の英語教師にも平気で英語で挨拶してきます。その辺が小学校からの英語教育の成果だと思います。

問題なのはその後。中学生が本当に言葉として英語を使うことに対して、われわれが授業などを通してどれだけ用意して上げられるのかということがこれからの課題です。オーラルコミュニケーションにしても、まだ手探り状態です。しかし、実際に小学校一年生から英語を学んだ生徒たちが上がってきます。中学のカリキュラムは、特に文字を中心にした英語の仕組みを学習の中心に据えてきましたが、そこに音声が大きく関わってきています。これは英語の本来の授業の形態としては好都合なことで、バランスを取っていくためにも良いチャンスだと思っています。

黒川　奥西先生は中学校のオーラルコミュニケーションのお手伝いをされましたね。

奥西　楽しかったですよ。彼らが中学時代からコミュニケーションを通じて自然に出来るようになれば、高校に来ても英語が楽しくなるのではないかと期待しています。ただ一つ残念なのは、オーラルコミュニケーションは週一時間だけの授業だということ。高校でも長い間週一時間でしたが、今年から週二時間の授業になりました。するとエドワーズ先生が、一時間と二時間では全然違うと言っています。


入江　潤先生

イングリッシュキャンプで体験学習

黒川　やはり週二時間の授業を目指さないと中途半端になってしまうかも知れませんね。

奥西　結局、そこが問題になると思います。

伊勢　この間の大きな行事的な変化は「イングリッシュキャンプ」を、小学校と中学校で三年連続実施したこと。まだ全体的に浸透していないと思いますが、これは大きな新しい試みです。

入江　イングリッシュキャンプは基本的に東京近郊で、一泊二日の日程で行っています。最初は、授業という枠を抜けたところで、子どもたちに良い体験をさせたいということで始まりました。実際にやっているのはいろいろな難しさを取り払い、とにかく多くの人と巡り会って、そこでいろいろなコミュニケーションを交わすこと。一年目、二年目はテントやキャビンでのキャンプ形式で行いました。外部からネイティブの知人を十数名集め、ゲームやバーベキューなどを体験しました。

黒川　何年生を対象にしているのですか。

入江　四年生以上です。

黒川　それでも、始まった時が一年生だった子が四年生になって参加すると、そのイングリッシュキャンプのレベルが違いますよね。

入江　そうですね。今年は福島県のブリティッシュヒルズで、二泊三日の日程で行いましたが、一部中学生も参加しました。今回のイングリッシュキャンプでは、それまでのテント生活とは違って、日本国内ではなかなか味わえない豪華な気分を味わえました。

伊勢　中学生のイングリッシュキャンプと小学生のそれとでは、子どもたちの成長度合いに違いがあると思いますが、具体的な違いにはどんなことがありましたか。

入江　中学生の場合は、英語を使ってコミュニケーションを取らなければならないゲームをするとか、知的部分を刺激するような活動をするようにしています。小学生の場合は、逆にもっと身体で感じられる活動を取り入れています。例えば、鬼ごっこや絵を用いたコミュニケーションなどです。ノンバーバル的なぶつかり合いが生まれるような活動を行っています。

英語教育の連続性を図る

伊勢　当学園では小学生の段階から異文化に触れるような集団生活（キャンプ生活）を送って中学生になり、最後に高校に来ると豪州などにも留学できるようになっています。しかし、今は英語教育を各段階でバラバラに行っているので、それをもっとインテグレートと言うのか、うまくつないで行けるものが出来ないものかと思います。例えば、子どもたちの発達の段階に応じて、学校を飛び出しての体験を、上手くプログラム化できないかなとも考えています。



入江　おっしゃる通りです。現在、小学校で検討しているのは、今まで高学年の段階でノンバーバルなぶつかり合いをしていたことを、低学年の段階で体験させること。例えば同じ一、二年生のネイティブの子どもたちとゲームを一緒にやることで、同じ人間として差別や区別をしないで遊ばせることを考えています。そして、中学・高校と成長するに従い、自分たちから発信出来るようになれたらいいなと思っています。今は一つの段階として伊勢先生のご協力で、高校から海外留学生が来てくれています。子どもたちにとって、日頃から国際交流的なことがあるのはとても良いことだと思います。

黒川　高校に来ている留学生が小学校の授業に参加するというのは、低学年だけですか。

伊勢　基本的には低学年だけです。しかし、卒業するまでの六年間の内必ず一学年は、留学生と接した授業を持てるように配慮しています。今三年目ですから、三学年から四学年はクリアしています。彼らも楽しんでいると思います。子どもたちを相手にすると日本語が覚えられると言っていましたね。お互いの相互理解になるとも言っています。

　当初中学校にもボランティア参加して欲しいと頼んだのですけど、低学年の授業と違ってなかなか実現出来ないのが残念です。

奥西　可能性は十分にあると思います。しかし、もっとプログラム化したほうが良い。現状では、一組には出たけど他のクラスには出られないといった危惧があります。それでは、授業をつくる上で困るわけで、生徒からも苦情が出ますから。だから留学生が中学生と必ず交流をもつことを、きちんとプログラム化してもらうのがいちばんです。

優れた留学生の受け入れ体制

黒川　それでは留学生の受け入れと派遣についてお話をしていただきます。当学園としては国際交流が始まって以来、どれほど留学生を受け入れているのですか。

伊勢　簡単に流れを言うと、当初は明星生が海外に短期留学に行く方が圧倒的に多かったのですが、ある段階から海外からの留学生の受け入れが増えて、こちらで面倒を見ることが大きな流れになっています。海外からの留学生は、今年もここ数年と同じく、七名が在校しています。

黒川　留学生たちは明星学園に来たことを喜んでいますか。

エドワーズ　すごく喜んでいます。他の学校にいるよりも明星学園の雰囲気が良いと言っています。それは、たぶん明星学園には気楽に、普通にいられる空間があるからだと思います。また、留学生に気軽に声をかけてくれる生徒も他校に比べて多いですね。

　留学生の間でも先輩後輩の関係が生まれています。私の方から「新しく留学生が来るので先輩になってよ」と言うと、その留学生は「先輩になれるんだ」とすごく喜びます。そして、後輩留学生の指導をしたり、さまざまな相談に乗ったりして、とても良い雰囲気になっています。

　ここ数年、明星学園に入ってくる帰国子女が増えて来ています。帰国子女は外国語を覚えて来ますが、日本に帰ってくるとその言葉を使う機会が少なくなるために忘れてしまいがち。そこで、帰国子女と留学生が一緒に何か出来るようなことがあれば、せっかく覚えた言葉を忘れることを防げるかも知れません。英語の授業の中で、何か出来ないかなと思っています。

黒川　現在、当学園ではタイとドイツ、豪州の学校と提携して派遣留学制度を発足させ、毎年生徒を一人ずつ交換留学させています。今、当学園にはドイツからの留学生がいるので、ドイツから帰ってきた生徒は留学生と話すことでドイツ語を忘れない。それから留学生はドイツ人でもフランス人でも英語でコミ

ユニケーションが出来るので、英語圏から帰ってきた帰国子女や明星生が交流を持つようにすれば、英語を忘れなくなるでしょう。このように、お互いが教え合えるような場所と空間が学園内にあることは、すごく良い環境になって来たと思います。

エドワーズ　明星学園が海外から留学生を迎えた時、他校と違うのは最初の何か月間か特別に日本語の授業を行っていることです。しかも、外部から専門教師を招いて週六時間も行っていました。このことで留学生は、安心して普通の授業に加わることが出来ます。

黒川　東京のロータリークラブでは何十人と留学生を引き受けて、それを各支部に振り分けていろいろな学校で面倒を見ています。その受け入れ校の交流会に参加した時のこと。当学園の留学生は、目立って安定しているという評判。お世話している状況を説明すると、都内の多くの学校では当学園のレベルまで出来ていないので、いろいろな問題が生じているということでした。そこで、当学園の留学生受け入れ対応システムは、都内トップレベルにあると言えます。そして、よく「留学生はその学校を映す鏡だ」と言われますが、そういう意味でも、当学園の受け入れ体制を評価していただいたのはうれしかったですね。

今後の国際交流と英語教育

黒川　最後になりますが、本学園の今後の国際交流や英語教育についての抱負や希望を一言ずつお願いします。

奥西　今までのお話にもありましたが、小学校、中学校、高校とそれぞれに行われていた英語教育が、少しずつ重なり合ってきつつあります。それぞれで培い、熟成してきたことが、本当に近い将来一つになって行く、今はその過程だと思います。ですから、そこをこの数年の間に大きく進めていけば、また何倍にも拡充したものになるのではないかと思っています。ぜひその方向に、英語科が中心となって行いたいと考えているところです。

姫野　高望みをしないで言うと、イングリッシュキャンプや国際交流、短期留学など、今はあまり関わっていない中学生が関わることによって、例えば英語に対して子どもたちがもっともっと積極的になるチャンスになれば良いと思います。その手始めとして、そういった活動に中学生も参加させたい。それによってわれわれ英語教師が自分たちの授業が顧みて、もっとバランスの良い英語教育に発展していけたら一番良いと思います。

エドワーズ　これからは帰国子女がどれだけ育っていけるかが課題です。彼らの英語教育や国語教育などへのニーズは、一般の生徒とは違います。その辺を上手く出来るようになれば、どんどん帰国子女を集めて、一般生徒にも好影響を与えられるいろいろな感性を育てられるようになると思います。高校の英語教育に関しては、私のようなネイティブな教師と日本人教師が、お互いに共通の目的で授業が出来るようにしたいと思っています。

伊勢　私は国籍を問わず、隣に外国人がいるのが当たり前の学園になれば良いと思っています。そういった環境の中で、小学校一年生から高校三年生までの十二年間一貫して、外国人と堂々と接することが出来、自分の意見をはっきりと述べられるようになる。そういった子どもたちが育つような環境を、早く実現したいですね。

入江　最終的に明星学園を卒業していく段階で、ものすごく魅力的で、人間として深みのある子に育ってほしいと願っています。そのためにも、今一番必要性を感じるのは十二年間の一貫教育です。子どもたちの感覚を大切にしながら一年生には一年生にしか出来ない体験、六年生だからこそ出来る体験というものをさせてあげたい。そして、それらの体験の中で子どもたちにさまざまな人々や物と関わり合う場を提供し、子どもたちをダイナミックに育てて行きたいと思っています。

黒川　地球はますます狭くなり、グローバル化が進んでいます。その中で当学園を、元気で創造的で前向きに生きていけるような人間を育てる学校にしていきたい。そのために、英語教育や国際交流が果たすべき役割はとても大きいものがあります。そこで、ぜひ英語科は六・六制十二年一貫教育の先頭を行く教科であってほしいですし、すでに実績があるわけですから、このまま進んでいただきたいと思っています。

本日はありがとうございました。

（二〇〇四年十月八日収録）

高等学校



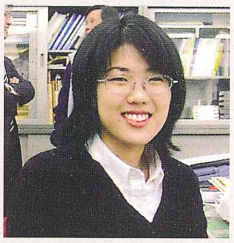
大賀　義信
小林　英一
薬師　大五郎
今橋　健彦
淡路　動太
丸山　雄
堀口　隆士
佐藤　大介
椎名　眞一
五列目左から

実藤　範稔
繁田　真爾
大橋　弘忠
勝間田　清一
奥西　克昌
橋本　兼一
細井　卓磨
大矢　洋子
阿部　芳子
長田　裕子
森田　小夜子
工藤　一義
四列目左から

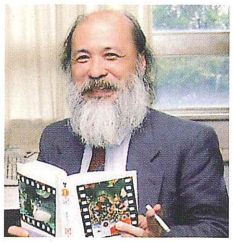
新坂　彩子
大久保　亜里
横田　亜弓
定方　美恵子
丸山　愉佳子
青木　千春
芝　志麻
西崎　美登利
楊　善英
船見　なつみ
野口　淳
石井　孝
新井　砂織
間宮　かおる
柏崎　宣子
三列目左から

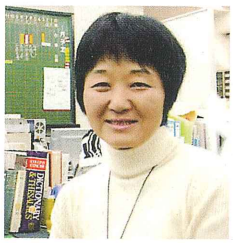
井上　成雄
萩原　萌
菅原　ちあき
後藤　紀子
Alex Samaras
Jeremy Edwards
田住　見
Chris Kozak
湊　道子
中村　千賀子
山本　幸恵
斎藤　顕隆
伊勢　誠
大久保　真弓
二列目左から

渡辺　京
安部　喜史郎
長田　徹
平澤　孝洋
簗　賢治
鈴木　貴之
横田　逸郎
黒川　実
木場　敬子
井上　奈津子
姜　福順
山領　直人
村田　修二
村田　晴海
高橋　幸悦
一列目左から


中井　智子


中谷　ゆう子


瀬野　卓志


山上　比呂子


村山　義浩


福田　栄子


平野　万知子



中村　豊


高橋　龍郎


岡戸　淳

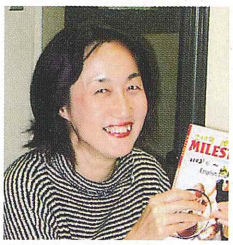

田中　隆英


山崎　聡


深津　謙一郎



根本　みずほ


山内　佳子


黒川　路子


劉　暢


吉川　真理子

明星学園教職員（敬称略）

あとがき

本学園では、学園史として十年ごとの創立時に『明星の年輪―明星学園五十年の歩み』『明星の年輪―明星学園六十年の歩み』『明星の年輪―明星学園七十年の歩み』を刊行してきました。

今年、創立八十周年に当たり、学園には既に立派な三冊の学園史があるために従来型の年史は刊行せずに、節目の喜びを共に分かち合い、新しい目標に向かってスタートするイメージのある『記念誌』を採用することにしました。

したがって、百周年を視野に入れ、今年を初年度として新たな「学校法人明星学園」の歴史を作るために、夢や希望、決意を盛り込むことを編集の基本方針といたしました。学園の特徴をより良く表現するためにオールカラーとし、デザイン性を良くして親しみやすい誌面作りを心がけました。

本書の企画から完成までが短期間であったこともあり、執筆・編集・進行に携わった方々にはご面倒をおかけいたしました。

また、写真・文章の割付や校正、印刷・製本の進行管理などには㈱ダン社の関建一郎社長はじめ皆様に、専門的ご指導と共にいろいろご尽力いただきました。

これらの皆様には心から感謝申し上げます。

二〇〇四年十二月吉日

学校法人明星学園事務局長　市川昭雄

学校法人明星学園創立80周年記念誌

2004年12月吉日発行　　非売品

編　　集　学校法人明星学園創立80周年記念誌編集委員会
編集・発行人　菅谷　嘉穂
発　　行　学校法人明星学園
〒181-0001
東京都三鷹市井の頭5丁目7番7号
電　話（0422）43-2195
ＦＡＸ（0422）47-6905

【ＵＲＬ】http://www.myojogakuen.ed.jp/

編集制作協力　株式会社ダン社

「学校法人明星学園創立80周年記念誌」は、環境保護のために100%再生紙と地球にやさしいＣＴＰ印刷、大豆油インクを使用しています。
©明星学園２００４〈本紙掲載記事・写真等の無断複写（コピー）・複製・転載を禁じます〉



Myojo

学校法人 明星学園

Printed in Japan.2004